

アンケート個別集計結果

男女平等意識について

問1 <個人の男女平等意識>

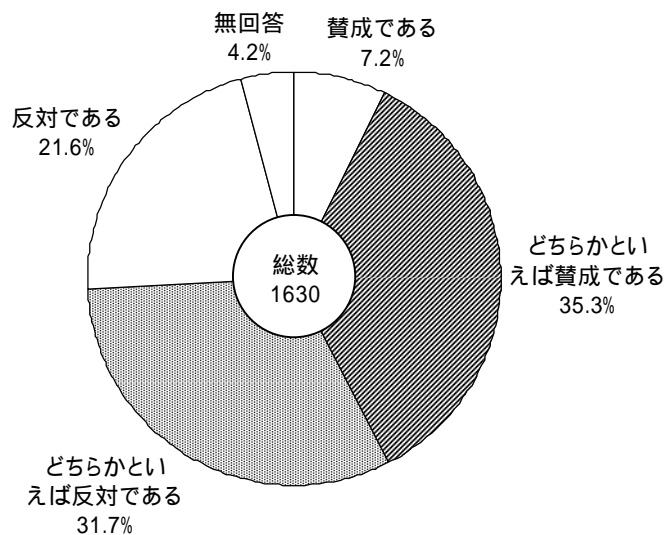
「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。（ひとつだけに）

1. 賛成である
2. どちらかといえば賛成である
3. どちらかといえば反対である
4. 反対である

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「どちらかといえば賛成である」と回答した方が最も多く、35.3%、「どちらかといえば反対である」と回答した方が31.7%でした。

「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方と、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の割合とを比べると、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の割合が、10.8%上回っています。

図1 - 1. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



「男は仕事、女は家庭」という考え方について

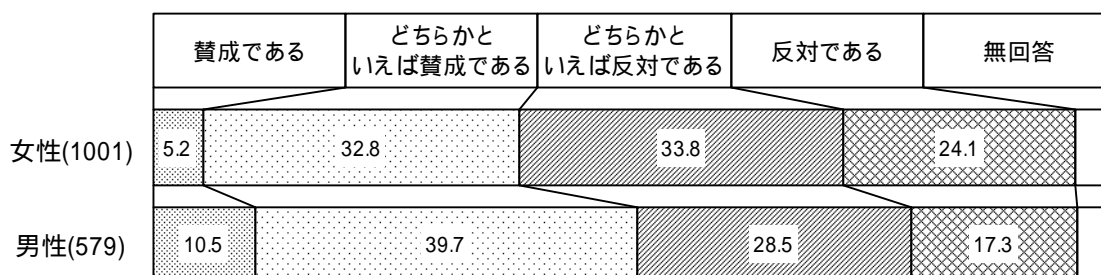
項目名	回答数	構成比 (%)
全体	1630	100.0
賛成である	117	7.2
どちらかといえば賛成である	575	35.3
どちらかといえば反対である	517	31.7
反対である	352	21.6
無回答	69	4.2

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、調査結果を性別で比較すると、「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方の割合は、男性が女性より12.2%多くなっています。

一方、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の割合は、女性が男性より12.1%多くなっています。

図1-2 「男は仕事、女は家庭」の考え方について

単位:% (5%未満非表示)



(注)5%未満数値:女性(4.2)男性(4.0)

「男は仕事、女は家庭」という考え方について

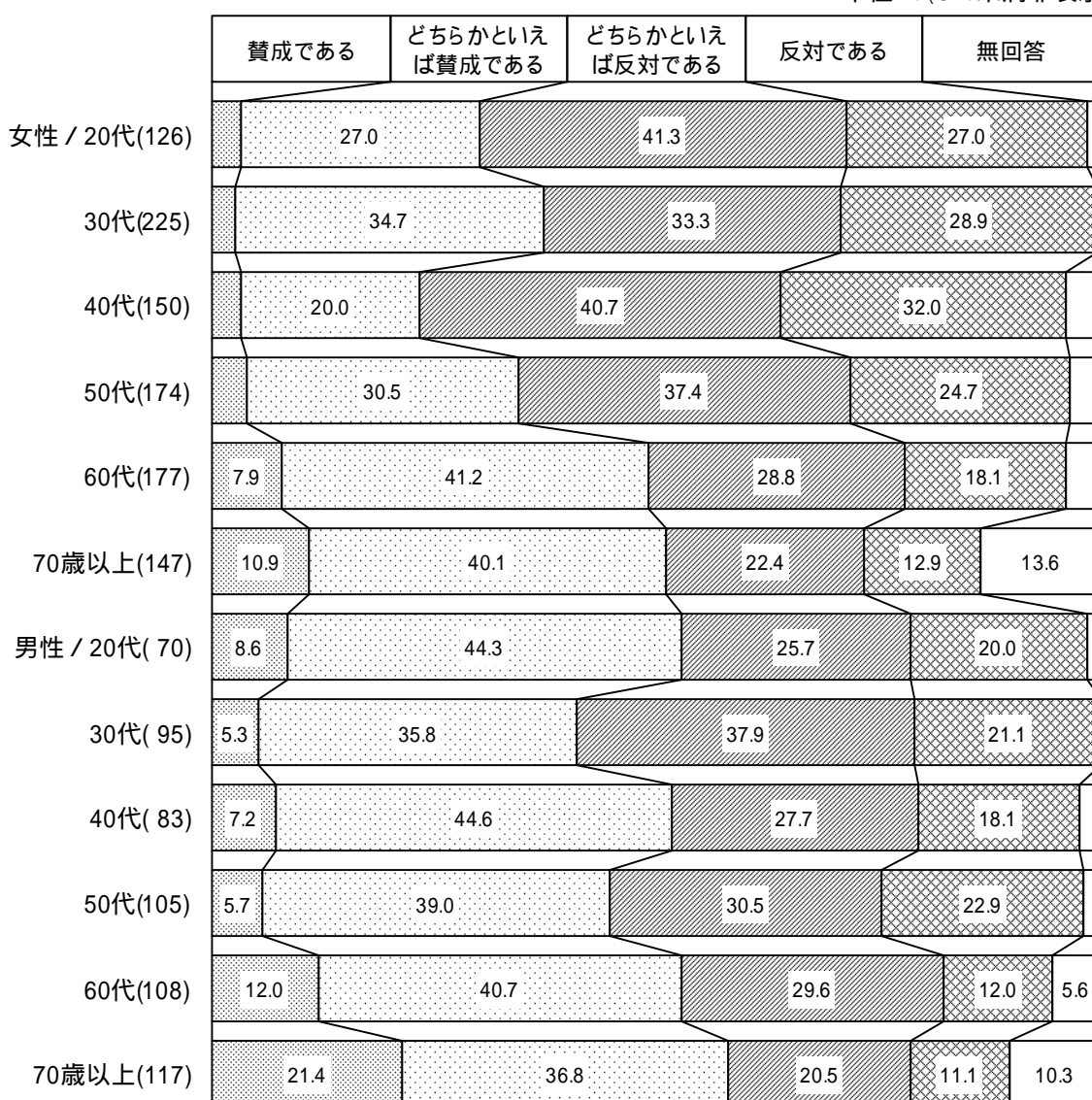
		全体	賛成である	どちらかといえば賛成である	どちらかといえば反対である	反対である	無回答
全体		1630 100.0	117 7.2	575 35.3	517 31.7	352 21.6	69 4.2
性別	女性	1001 100.0	52 5.2	328 32.8	338 33.8	241 24.1	42 4.2
	男性	579 100.0	61 10.5	230 39.7	165 28.5	100 17.3	23 4.0
	無回答	50 100.0	4 8.0	17 34.0	14 28.0	11 22.0	4 8.0

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、性別・年代別に比較してみると、女性においては、全ての年代において、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の割合が多くなっています。特に、40代では、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の割合が7割となっています。また、「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方の割合は30代で4割となっており、20代、40代に比べ、多くなっています。

一方、男性においては、30代と50代で、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の割合が5割を超えています。その他の年代では、「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方の割合が多くなっています。

図1 - 3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

単位: % (5%未満非表示)



(注) 5%未満数値: 女性 / 20代(3.2 1.6)30代(2.7 0.4)40代(3.3 4.0)50代(4.0 3.4)60代(4.0)男性 / 20代(1.4)30代(-)40代(2.4)50代(1.9)

「男は仕事、女は家庭」という考え方について

		全体	賛成である	どちらかといえ ば賛成である	どちらかといえ ば反対である	反対である	無回答
全体		1630 100.0	117 7.2	575 35.3	517 31.7	352 21.6	69 4.2
性別・ 年代別	女性 / 20代	126 100.0	4 3.2	34 27.0	52 41.3	34 27.0	2 1.6
	30代	225 100.0	6 2.7	78 34.7	75 33.3	65 28.9	1 0.4
	40代	150 100.0	5 3.3	30 20.0	61 40.7	48 32.0	6 4.0
	50代	174 100.0	7 4.0	53 30.5	65 37.4	43 24.7	6 3.4
	60代	177 100.0	14 7.9	73 41.2	51 28.8	32 18.1	7 4.0
	70歳以上	147 100.0	16 10.9	59 40.1	33 22.4	19 12.9	20 13.6
	男性 / 20代	70 100.0	6 8.6	31 44.3	18 25.7	14 20.0	1 1.4
	30代	95 100.0	5 5.3	34 35.8	36 37.9	20 21.1	-
	40代	83 100.0	6 7.2	37 44.6	23 27.7	15 18.1	2 2.4
	50代	105 100.0	6 5.7	41 39.0	32 30.5	24 22.9	2 1.9
	60代	108 100.0	13 12.0	44 40.7	32 29.6	13 12.0	6 5.6
	70歳以上	117 100.0	25 21.4	43 36.8	24 20.5	13 11.1	12 10.3
	無回答	53 100.0	4 7.5	18 34.0	15 28.3	12 22.6	4 7.5

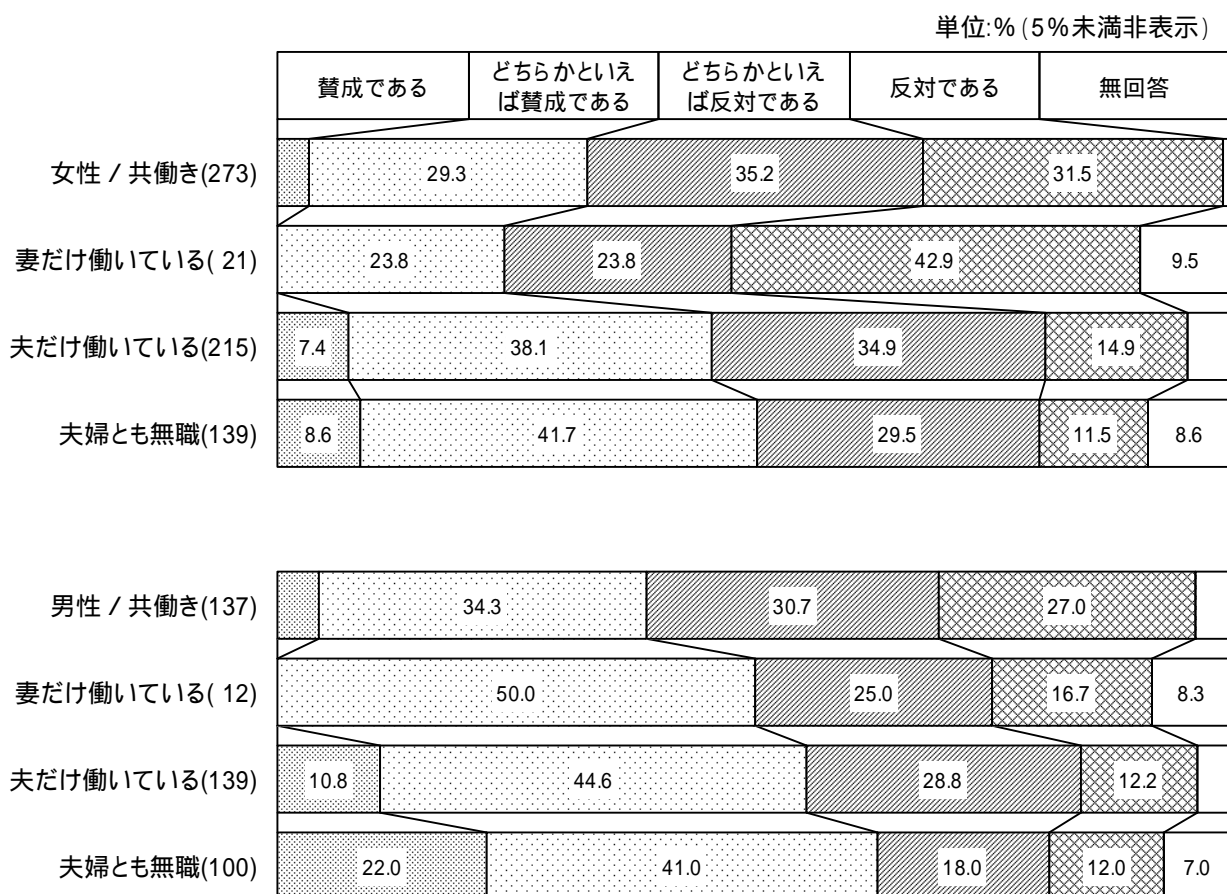
「男は仕事、女は家庭」という考え方について、性別・世帯の働き方別に比較してみると、共働き世帯の女性においては、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の割合が66.7%、「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方の割合が32.6%と、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の割合の方が大変多くなっています。

夫だけ働いている世帯の女性においては、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の割合が49.8%、「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方の割合が45.5%と、ほぼ同じでした。

一方、共働き世帯の男性は、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の割合が57.7%、「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方の割合が38.7%と、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の割合の方が多くなっています。

夫だけ働いている世帯の男性では、「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方の割合が55.4%、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の割合が41.0%と、「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方の割合の方が多くなっています。

図1 - 4. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について / 性別・世帯の働き方別



(注)5%未満数値: 女性 / 共働き(3.3 0.7)妻だけ働いている(-)夫だけ働いている(4.7)男性 / 共働き(4.4 3.6)妻だけ働いている(-)夫だけ働いている(3.6)

「男は仕事、女は家庭」という考え方について

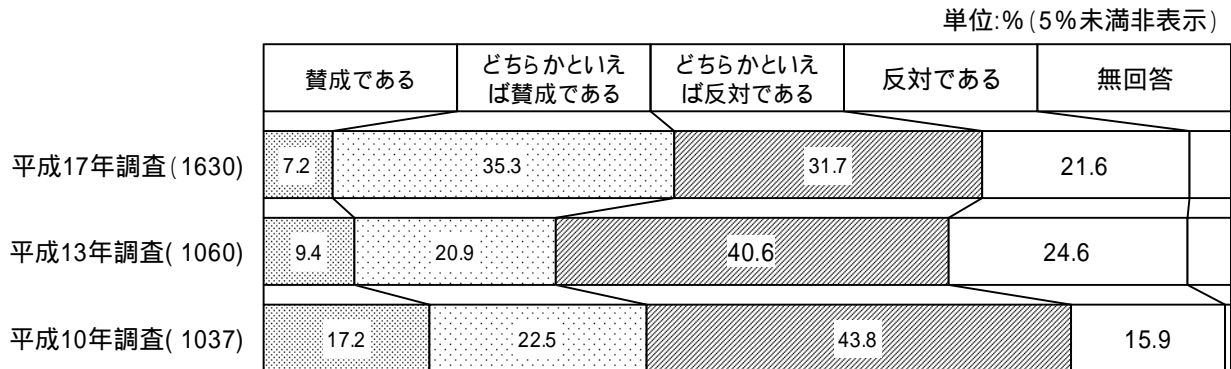
		全体	賛成である	どちらかといえ ば賛成である	どちらかといえ ば反対である	反対である	無回答
全体		1630 100.0	117 7.2	575 35.3	517 31.7	352 21.6	69 4.2
性別・ 世帯の 働き 方別	女性 / 共働き	273 100.0	9 3.3	80 29.3	96 35.2	86 31.5	2 0.7
	妻だけ働いている	21 100.0	- -	5 23.8	5 23.8	9 42.9	2 9.5
	夫だけ働いている	215 100.0	16 7.4	82 38.1	75 34.9	32 14.9	10 4.7
	夫婦とも無職	139 100.0	12 8.6	58 41.7	41 29.5	16 11.5	12 8.6
	男性 / 共働き	137 100.0	6 4.4	47 34.3	42 30.7	37 27.0	5 3.6
	妻だけ働いている	12 100.0	- -	6 50.0	3 25.0	2 16.7	1 8.3
	夫だけ働いている	139 100.0	15 10.8	62 44.6	40 28.8	17 12.2	5 3.6
	夫婦とも無職	100 100.0	22 22.0	41 41.0	18 18.0	12 12.0	7 7.0
	無回答	594 100.0	37 6.2	194 32.7	197 33.2	141 23.7	25 4.2

前回調査との比較

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、前回・前々回調査と比較すると、「賛成である」と回答した方の割合は、17.2%（前々回調査）9.4%（前回調査）7.2%（今回調査）と、回を追う毎に減少傾向にあります。「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方の割合は、前回調査で一旦は減少したものの、再び増加しています。

一方、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の割合は、前回調査で一旦は増加したものの、再び減少しています。

図1 - 5 「男は仕事、女は家庭」という考え方について / 前回・前々回調査との比較



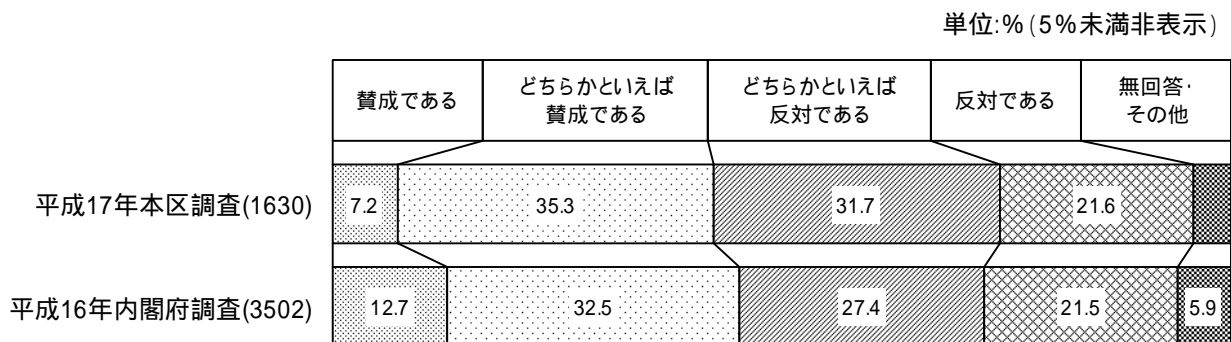
(注) 前回・前々回の選択肢と今回の選択肢のうち、「仕方ないと思う」を「どちらかといえばそう思う」、「あまり好ましくない」を「どちらかといえば反対である」、「よくない考え方」を「反対である」と対応させて比較。5%未満数値: 平成17年(4.2)平成13年(4.5)平成10年(0.7)

内閣府調査との比較

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、平成16年の内閣府調査（「男女共同参画社会に関する世論調査」）と比較すると、「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方の割合は、本区調査の方が2.7%少なくなっています。

一方、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の割合は、本区調査の方が4.4%多くなっています。

図1 - 6 「男は仕事、女は家庭」という考え方について / 内閣府調査との比較



(注) 5%未満数値: 平成17年(4.2)

内閣府調査で「わからない」と回答した方の割合を「無回答・その他」に含めています。内閣府調査では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という表現です。

問2 <さまざまな場における男女平等意識>

今の日本では、次のような場で男性と女性が平等になっていると思いますか。

(ア)から(カ)のそれぞれについてお答えください。 (それぞれひとつだけに)

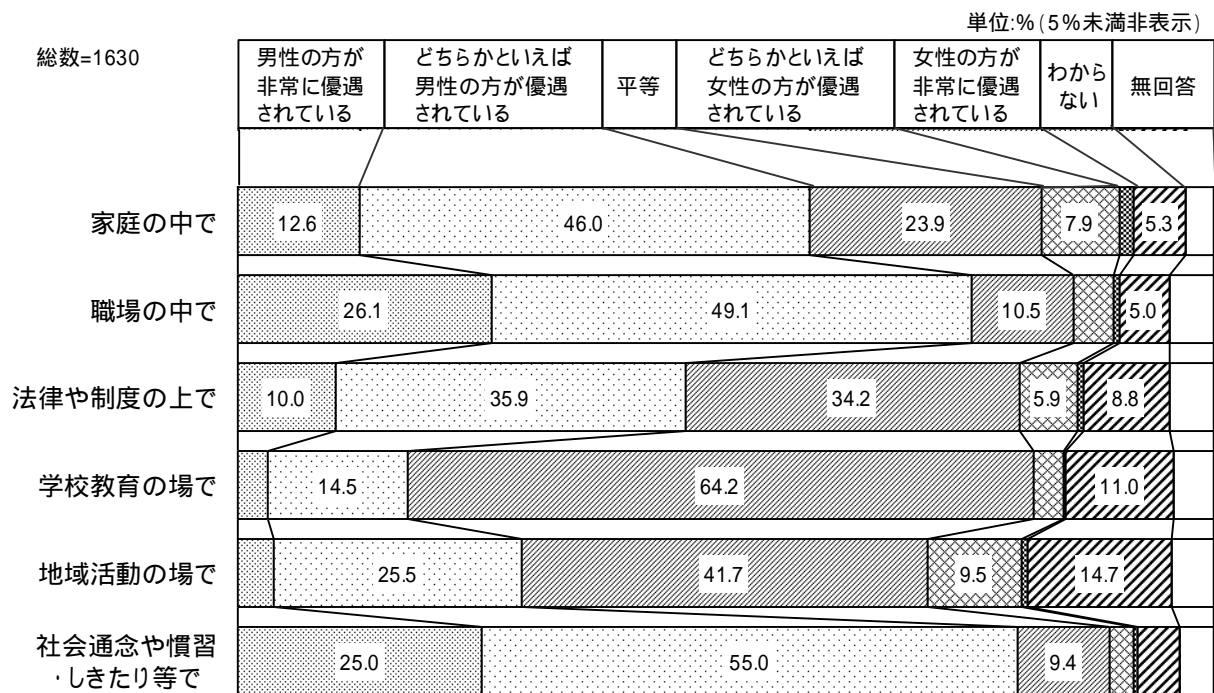
	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(ア) 家庭の中で						
(イ) 職場の中で						
(ウ) 法律や制度の上で						
(エ) 学校教育の場で						
(オ) 地域活動の場で						
(カ) 社会通念や慣習・しきたり等で						

さまざまな場における男女平等意識については、「男性の方が非常に優遇されている」或いは「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した方の割合が最も多かったのが、「社会通念や慣習・しきたり等で」で80.0%、次いで、「職場の中で」が75.2%、以下、「家庭の中で」が58.6%、「法律や制度の上で」が45.9%の順でした。

「平等」という回答が多かったのが、「学校教育の場で」で64.2%、次いで、「地域活動の場で」が41.7%でした。

全体的に「どちらかといえば女性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と回答した方の割合は低い傾向にあります、その中でも比較的高いものとしては、「地域活動の場で」が挙げられ、合計10.2%でした。

図2 - 1 男女平等意識について



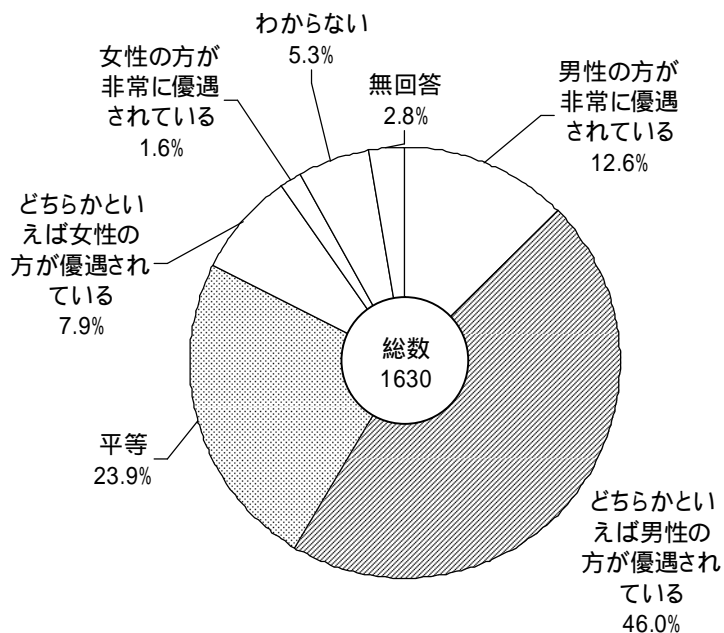
(注)5%未満数値: 家庭の中(1.6 2.8) 職場の中(4.0 0.7 4.6) 法律や制度の上(0.6 4.6) 学校教育の場(3.0 2.9 0.2 4.2) 地域活動の場(3.7 0.7 4.3) 社会通念や慣習・しきたり等(2.3 0.6 4.2 3.5)

男女平等意識について

	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
家庭の中で	1630	205	749	389	129	26	86	46
職場の中で	1630	425	800	171	66	11	82	75
法律や制度の上で	1630	163	585	558	96	10	143	75
学校教育の場で	1630	49	236	1046	48	3	180	68
地域活動の場で	1630	60	415	679	155	11	240	70
社会通念や慣習・しきたり等で	1630	407	896	154	38	9	69	57
	100.0	25.0	55.0	9.4	2.3	0.6	4.2	3.5

家庭の中での男女平等意識については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した方が最も多く46.0%、次いで、「平等」が23.9%、「男性の方が非常に優遇されている」が12.6%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が7.9%、「女性の方が非常に優遇されている」が1.6%、「わからない」が5.3%、「無回答」が2.8%でした。

図2 - 2 男女平等意識(ア)家庭の中で



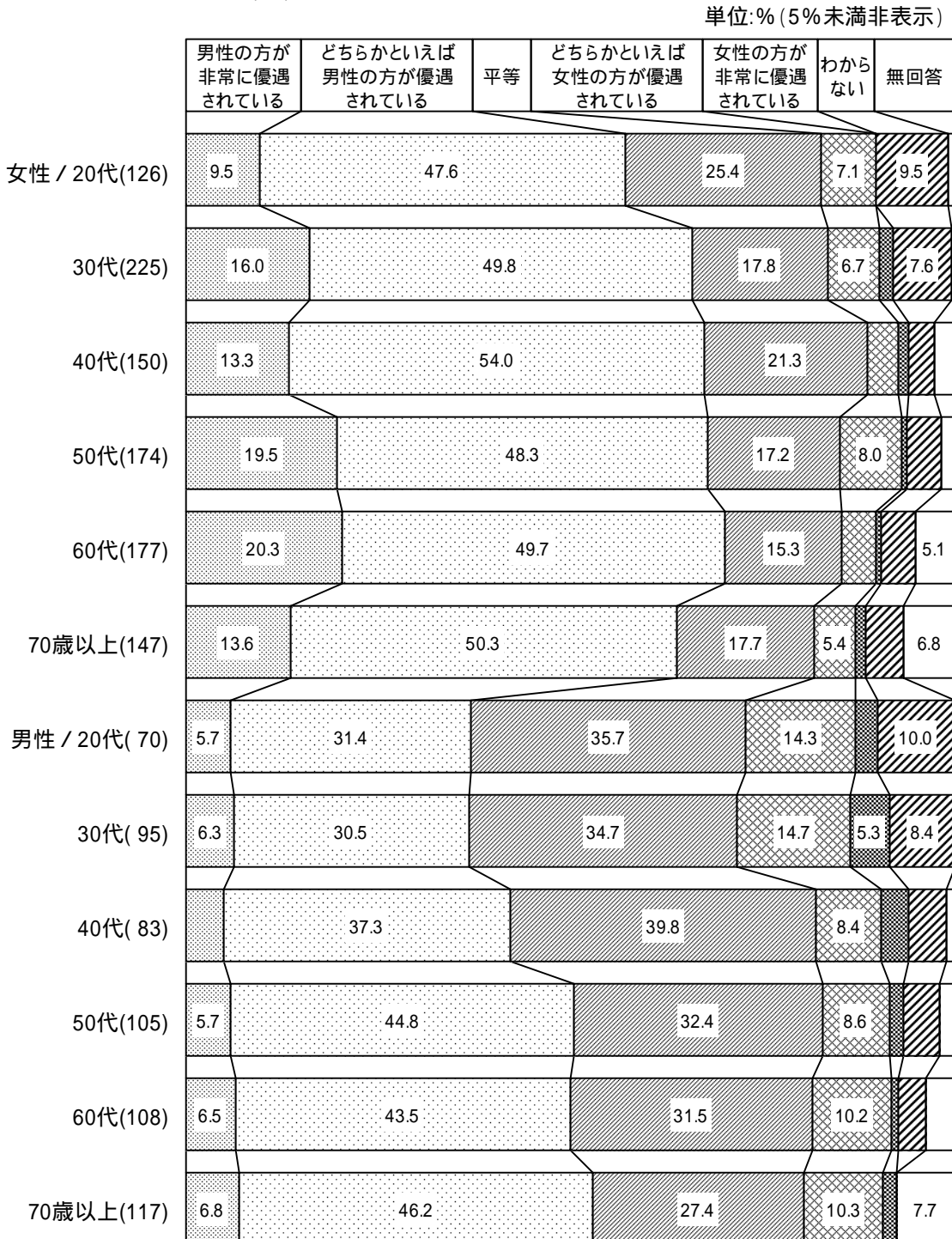
男女平等意識(ア)家庭の中で

項目名	回答数	構成比 (%)
全体	1630	100.0
男性の方が非常に優遇されている	205	12.6
どちらかといえば男性の方が優遇されている	749	46.0
平等	389	23.9
どちらかといえば女性の方が優遇されている	129	7.9
女性の方が非常に優遇されている	26	1.6
わからない	86	5.3
無回答	46	2.8

家庭の中での男女平等意識について、性別・年代別に比較してみると、「男性の方が非常に優遇されている」或いは「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した方の割合は、女性の全ての年代において、6割～7割を占めています。

一方、男性の20～40代においては、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と「平等」との回答の割合がほぼ同じ割合でした。50代以上では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した方の割合が4割、「平等」と回答した方の割合が3割でした。

図2 - 3 男女平等意識(ア)家庭の中で



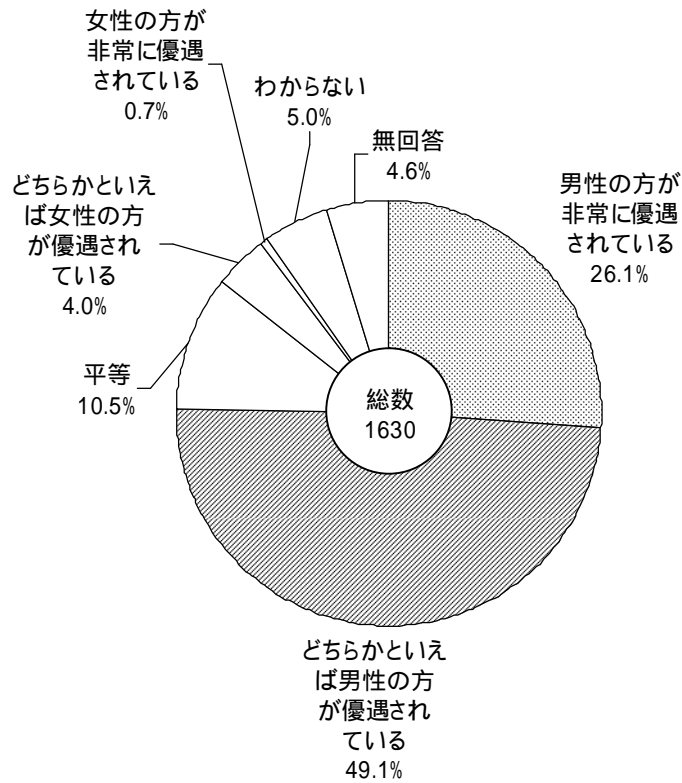
(注)5%未満数値: 女性 / 20代(- 0.8)30代(1.8 0.4)40代(4.0 1.3 3.3 2.7)50代(0.6 4.6 1.7)60代(4.5 0.6 4.5)70歳以上(1.4 4.8)男性 / 20代(2.9 -)30代(-)40代(4.8 3.6 4.8 1.2)50代(1.9 4.8 1.9)60代(0.9 3.7 3.7)70歳以上(1.7 -)

男女平等意識（ア）家庭の中で

		全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		1630 100.0	205 12.6	749 46.0	389 23.9	129 7.9	26 1.6	86 5.3	46 2.8
性別	女性	1001 100.0	158 15.8	501 50.0	187 18.7	60 6.0	10 1.0	57 5.7	28 2.8
	男性	579 100.0	35 6.0	230 39.7	192 33.2	63 10.9	15 2.6	28 4.8	16 2.8
	無回答	50 100.0	12 24.0	18 36.0	10 20.0	6 12.0	1 2.0	1 2.0	2 4.0
性別・年代別	女性 / 20代	126 100.0	12 9.5	60 47.6	32 25.4	9 7.1	-	12 9.5	1 0.8
	30代	225 100.0	36 16.0	112 49.8	40 17.8	15 6.7	4 1.8	17 7.6	1 0.4
	40代	150 100.0	20 13.3	81 54.0	32 21.3	6 4.0	2 1.3	5 3.3	4 2.7
	50代	174 100.0	34 19.5	84 48.3	30 17.2	14 8.0	1 0.6	8 4.6	3 1.7
	60代	177 100.0	36 20.3	88 49.7	27 15.3	8 4.5	1 0.6	8 4.5	9 5.1
	70歳以上	147 100.0	20 13.6	74 50.3	26 17.7	8 5.4	2 1.4	7 4.8	10 6.8
	男性 / 20代	70 100.0	4 5.7	22 31.4	25 35.7	10 14.3	2 2.9	7 10.0	-
	30代	95 100.0	6 6.3	29 30.5	33 34.7	14 14.7	5 5.3	8 8.4	-
	40代	83 100.0	4 4.8	31 37.3	33 39.8	7 8.4	3 3.6	4 4.8	1 1.2
	50代	105 100.0	6 5.7	47 44.8	34 32.4	9 8.6	2 1.9	5 4.8	2 1.9
	60代	108 100.0	7 6.5	47 43.5	34 31.5	11 10.2	1 0.9	4 3.7	4 3.7
	70歳以上	117 100.0	8 6.8	54 46.2	32 27.4	12 10.3	2 1.7	-	9 7.7
	無回答	53 100.0	12 22.6	20 37.7	11 20.8	6 11.3	1 1.9	1 1.9	2 3.8

職場の中の男女平等意識については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した方が最も多く、49.1%、次いで、「男性の方が非常に優遇されている」が26.1%、「平等」が10.5%、「わからない」が5.0%でした。

図2 - 4.男女平等意識(イ)職場の中で



男女平等意識(イ)職場の中で

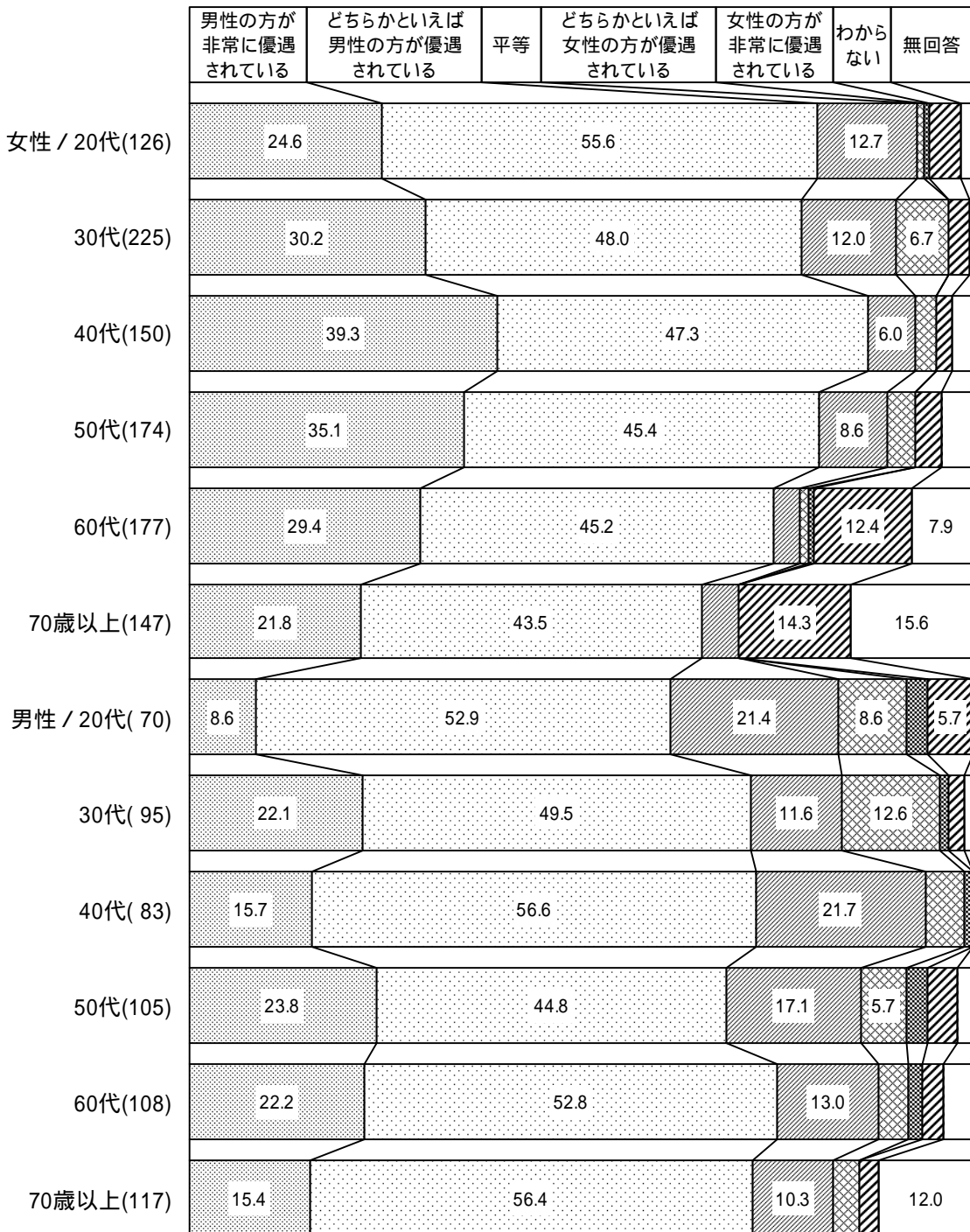
項目名	回答数	構成比 (%)
全体	1630	100.0
男性の方が非常に優遇されている	425	26.1
どちらかといえば男性の方が優遇されている	800	49.1
平等	171	10.5
どちらかといえば女性の方が優遇されている	66	4.0
女性の方が非常に優遇されている	11	0.7
わからない	82	5.0
無回答	75	4.6

職場の中での男女平等意識について、性別・年代別に比較してみると、女性の全ての年代において、「男性の方が非常に優遇されている」或いは「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した方の割合は、7割～9割を占めています。特に、40代においては、86.6%と非常に高くなっています。

一方、男性の30代以上においては、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」或いは「男性の方が非常に優遇されている」と回答した方の割合は、7～8割を占めています。また、男性の20代と40代において、「平等」との回答が、男性の30代において、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」との回答が多くなっています。

図2 - 5 男女平等意識(イ)職場の中で

単位:%(5%未満非表示)



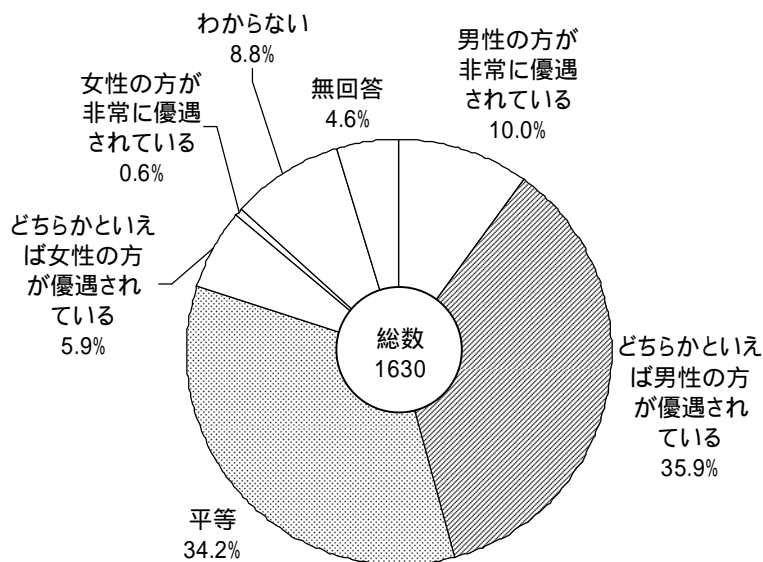
(注)5%未満数値:女性/20代(0.8 0.8 4.0 1.6)30代(- 2.7 0.4)40代(2.7 - 2.0 2.7)50代(3.4 - 3.4 4.0)60代(3.4 1.1 0.6)70歳以上(4.8 - -)男性/20代(2.9 -)30代(1.1 2.1 1.1)40代(4.8 1.2 -)50代(2.9 3.8 1.9)60代(3.7 1.9 2.8 3.7)70歳以上(3.4 - 2.6)

男女平等意識（イ）職場の中で

		全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		1630 100.0	425 26.1	800 49.1	171 10.5	66 4.0	11 0.7	82 5.0	75 4.6
性別	女性	1001 100.0	304 30.4	472 47.2	80 8.0	28 2.8	2 0.2	63 6.3	52 5.2
	男性	579 100.0	108 18.7	301 52.0	88 15.2	36 6.2	9 1.6	16 2.8	21 3.6
	無回答	50 100.0	13 26.0	27 54.0	3 6.0	2 4.0	-	3 6.0	2 4.0
性別・年代別	女性 / 20代	126 100.0	31 24.6	70 55.6	16 12.7	1 0.8	1 0.8	5 4.0	2 1.6
	30代	225 100.0	68 30.2	108 48.0	27 12.0	15 6.7	-	6 2.7	1 0.4
	40代	150 100.0	59 39.3	71 47.3	9 6.0	4 2.7	-	3 2.0	4 2.7
	50代	174 100.0	61 35.1	79 45.4	15 8.6	6 3.4	-	6 3.4	7 4.0
	60代	177 100.0	52 29.4	80 45.2	6 3.4	2 1.1	1 0.6	22 12.4	14 7.9
	70歳以上	147 100.0	32 21.8	64 43.5	7 4.8	-	-	21 14.3	23 15.6
	無回答	53 100.0	15 28.3	27 50.9	3 5.7	2 3.8	-	3 5.7	3 5.7
	男性 / 20代	70 100.0	6 8.6	37 52.9	15 21.4	6 8.6	2 2.9	4 5.7	-
	30代	95 100.0	21 22.1	47 49.5	11 11.6	12 12.6	1 1.1	2 2.1	1 1.1
	40代	83 100.0	13 15.7	47 56.6	18 21.7	4 4.8	1 1.2	-	-
	50代	105 100.0	25 23.8	47 44.8	18 17.1	6 5.7	3 2.9	4 3.8	2 1.9
	60代	108 100.0	24 22.2	57 52.8	14 13.0	4 3.7	2 1.9	3 2.8	4 3.7
	70歳以上	117 100.0	18 15.4	66 56.4	12 10.3	4 3.4	-	3 2.6	14 12.0

法律や制度の上での男女平等意識については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」との回答が最も多く、35.9%、次いで、「平等」が34.2%、「男性の方が非常に優遇されている」が10.0%でした。

図2 - 6 男女平等意識(ウ) 法律や制度の上で



男女平等意識(ウ) 法律や制度の上で

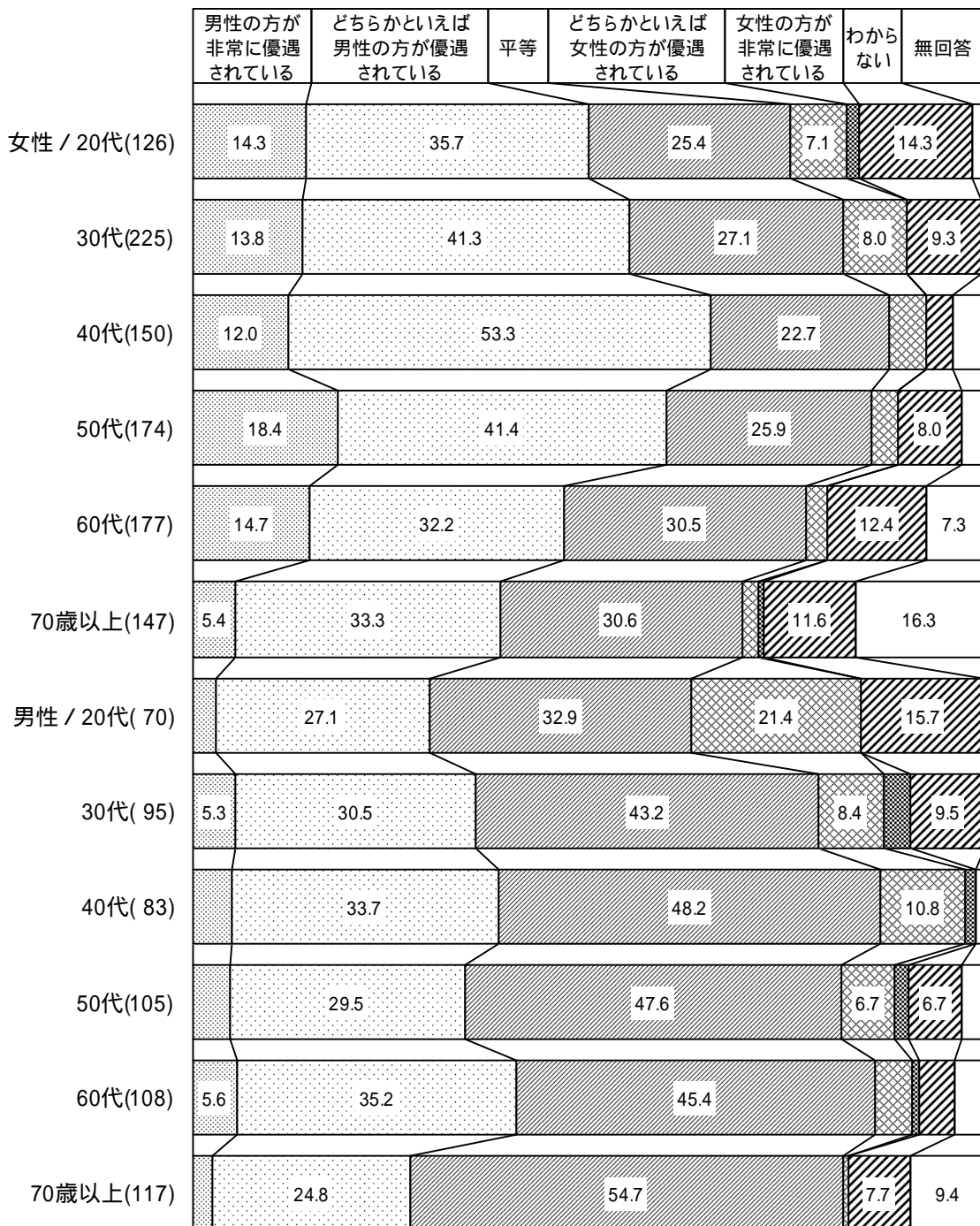
項目名	回答数	構成比 (%)
全体	1630	100.0
男性の方が非常に優遇されている	163	10.0
どちらかといえば男性の方が優遇されている	585	35.9
平等	558	34.2
どちらかといえば女性の方が優遇されている	96	5.9
女性の方が非常に優遇されている	10	0.6
わからない	143	8.8
無回答	75	4.6

法律や制度の上での男女平等意識について、性別・年代別に比較してみると、女性において、「男性の方が非常に優遇されている」或いは「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した方の割合が最も多い年代が40代で65.3%、次いで、50代で59.8%でした。また、女性の全ての年代で、「平等」という回答がほぼ3割でした。

男性においては、全ての年代で、「平等」と回答した方の割合が多く、70歳以上では、54.7%、40代では48.2%でした。また、男性の全ての年代で、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」或いは「男性の方が非常に優遇されている」と回答した方の割合が3~4割を占めています。一方、男性の20代において、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した方の割合が比較的多くなっています。

図2-7 男女平等意識(ウ)法律や制度の上で

単位:%(5%未満非表示)



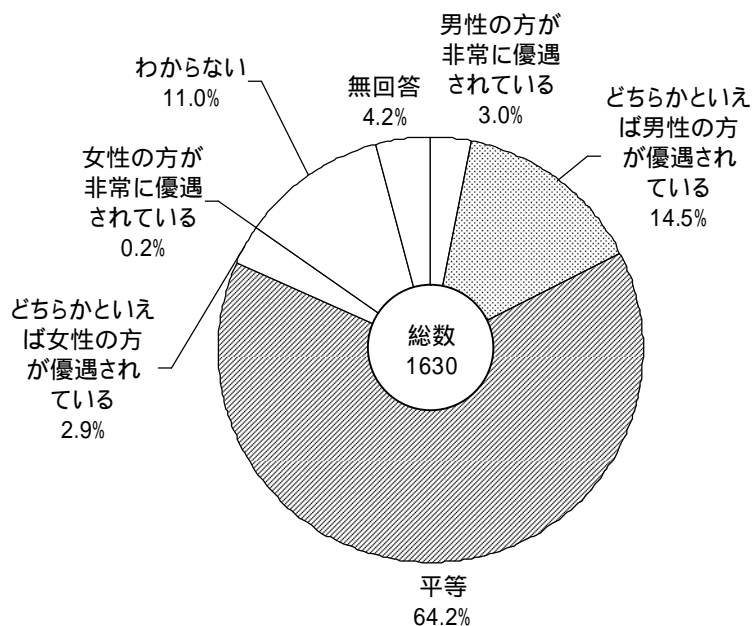
(注)5%未満数値: 女性 / 20代(1.6 1.6)30代(- 0.4)40代(4.7 - 3.3 4.0)50代(3.4 - 2.9)60代(2.8 -)70歳以上(2.0 0.7) 男性 / 20代(2.9 - -)30代(3.2 -)40代(4.8 1.2 - 1.2)50代(4.8 1.9 2.9)60代(4.6 0.9 4.6 3.7)70歳以上(2.6 0.9 -)

男女平等意識（ウ）法律や制度の上で

		全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		1630 100.0	163 10.0	585 35.9	558 34.2	96 5.9	10 0.6	143 8.8	75 4.6
性別	女性	1001 100.0	133 13.3	396 39.6	272 27.2	48 4.8	3 0.3	97 9.7	52 5.2
	男性	579 100.0	25 4.3	174 30.1	268 46.3	45 7.8	7 1.2	41 7.1	19 3.3
	無回答	50 100.0	5 10.0	15 30.0	18 36.0	3 6.0	-	5 10.0	4 8.0
性別・年代別	女性 / 20代	126 100.0	18 14.3	45 35.7	32 25.4	9 7.1	2 1.6	18 14.3	2 1.6
	30代	225 100.0	31 13.8	93 41.3	61 27.1	18 8.0	-	21 9.3	1 0.4
	40代	150 100.0	18 12.0	80 53.3	34 22.7	7 4.7	-	5 3.3	6 4.0
	50代	174 100.0	32 18.4	72 41.4	45 25.9	6 3.4	-	14 8.0	5 2.9
	60代	177 100.0	26 14.7	57 32.2	54 30.5	5 2.8	-	22 12.4	13 7.3
	70歳以上	147 100.0	8 5.4	49 33.3	45 30.6	3 2.0	1 0.7	17 11.6	24 16.3
	無回答	53 100.0	5 9.4	15 28.3	20 37.7	3 5.7	-	5 9.4	5 9.4
	男性 / 20代	70 100.0	2 2.9	19 27.1	23 32.9	15 21.4	-	11 15.7	-
	30代	95 100.0	5 5.3	29 30.5	41 43.2	8 8.4	3 3.2	9 9.5	-
	40代	83 100.0	4 4.8	28 33.7	40 48.2	9 10.8	1 1.2	-	1 1.2
	50代	105 100.0	5 4.8	31 29.5	50 47.6	7 6.7	2 1.9	7 6.7	3 2.9
	60代	108 100.0	6 5.6	38 35.2	49 45.4	5 4.6	1 0.9	5 4.6	4 3.7
	70歳以上	117 100.0	3 2.6	29 24.8	64 54.7	1 0.9	-	9 7.7	11 9.4

学校教育の場での男女平等意識については、「平等」と回答した方が最も多く、64.2%、次いで、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が14.5%、「わからない」が11.0%、「男性の方が非常に優遇されている」が3.0%となっています。

図2 - 8 男女平等意識(工) 学校教育の場で



男女平等意識(工) 学校教育の場で

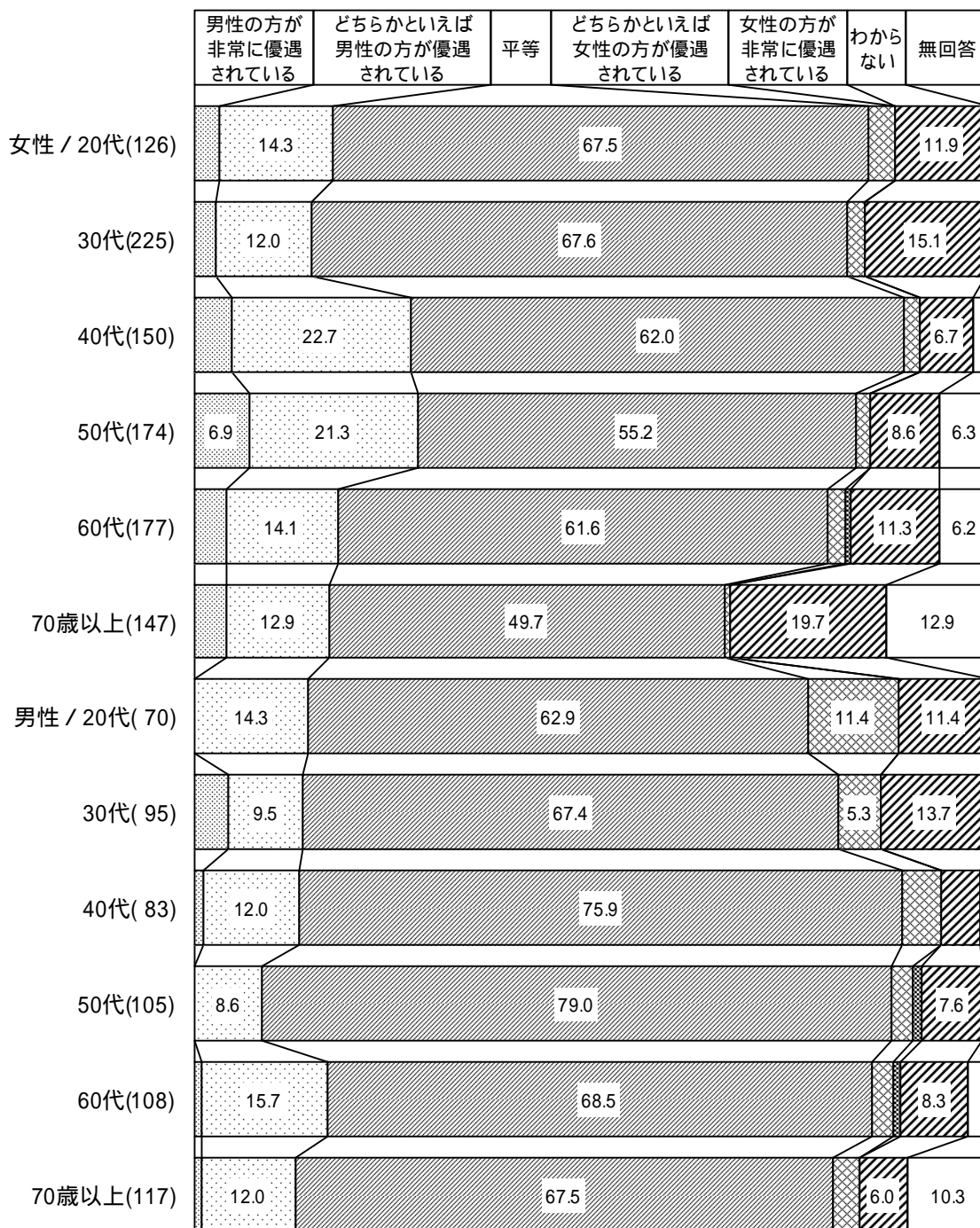
項目名	回答数	構成比 (%)
全体	1630	100.0
男性の方が非常に優遇されている	49	3.0
どちらかといえば男性の方が優遇されている	236	14.5
平等	1046	64.2
どちらかといえば女性の方が優遇されている	48	2.9
女性の方が非常に優遇されている	3	0.2
わからない	180	11.0
無回答	68	4.2

学校教育の場における男女平等意識について、性別・年代別に比較してみると、「平等」と回答した方の割合が、男性・女性の全ての年代において、最も多くなっています。

一方、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」との回答が比較的多かったのは、女性の40代と50代、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が比較的多かったのが男性の20代でした。

図2 - 9 男女平等意識(工)学校教育の場で

単位: % (5%未満非表示)



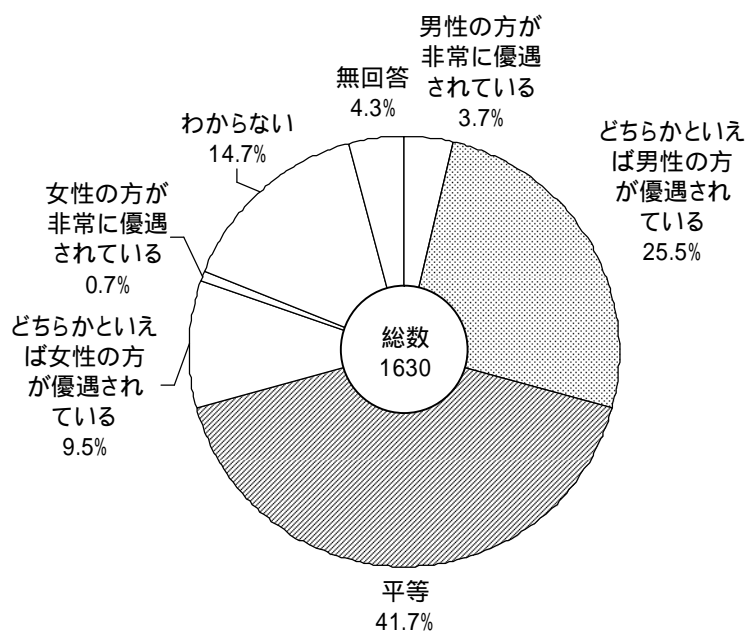
(注)5%未満数値: 女性 / 20代(3.2 3.2 - -)30代(2.7 2.2 - 0.4)40代(4.7 2.0 - 2.0)50代(1.7 -)60代(4.0 2.3 0.6)70歳以上(4.1 0.7 -)男性 / 20代(- - -)30代(4.2 - -)40代(1.2 4.8 - 4.8 1.2)50代(- 2.9 1.0 1.0)60代(0.9 2.8 0.9 2.8)70歳以上(0.9 3.4 -)

男女平等意識（工）学校教育の場で

		全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		1630 100.0	49 3.0	236 14.5	1046 64.2	48 2.9	3 0.2	180 11.0	68 4.2
性別	女性	1001 100.0	42 4.2	161 16.1	608 60.7	20 2.0	1 0.1	123 12.3	46 4.6
	男性	579 100.0	7 1.2	69 11.9	407 70.3	27 4.7	2 0.3	50 8.6	17 2.9
	無回答	50 100.0	- -	6 12.0	31 62.0	1 2.0	- -	7 14.0	5 10.0
性別・年代別	女性 / 20代	126 100.0	4 3.2	18 14.3	85 67.5	4 3.2	- -	15 11.9	- -
	30代	225 100.0	6 2.7	27 12.0	152 67.6	5 2.2	- -	34 15.1	1 0.4
	40代	150 100.0	7 4.7	34 22.7	93 62.0	3 2.0	- -	10 6.7	3 2.0
	50代	174 100.0	12 6.9	37 21.3	96 55.2	3 1.7	- -	15 8.6	11 6.3
	60代	177 100.0	7 4.0	25 14.1	109 61.6	4 2.3	1 0.6	20 11.3	11 6.2
	70歳以上	147 100.0	6 4.1	19 12.9	73 49.7	1 0.7	- -	29 19.7	19 12.9
	無回答	53 100.0	- -	7 13.2	31 58.5	1 1.9	- -	8 15.1	6 11.3
	男性 / 20代	70 100.0	- -	10 14.3	44 62.9	8 11.4	- -	8 11.4	- -
	30代	95 100.0	4 4.2	9 9.5	64 67.4	5 5.3	- -	13 13.7	- -
	40代	83 100.0	1 1.2	10 12.0	63 75.9	4 4.8	- -	4 4.8	1 1.2
	50代	105 100.0	- -	9 8.6	83 79.0	3 2.9	1 1.0	8 7.6	1 1.0
	60代	108 100.0	1 0.9	17 15.7	74 68.5	3 2.8	1 0.9	9 8.3	3 2.8
	70歳以上	117 100.0	1 0.9	14 12.0	79 67.5	4 3.4	- -	7 6.0	12 10.3

地域活動の場での男女平等意識については、「平等」と回答した方が41.7%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が25.5%、「わからない」が14.7%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が9.5%でした。

図2 - 10 男女平等意識(オ) 地域活動の場で



男女平等意識(オ) 地域活動の場で

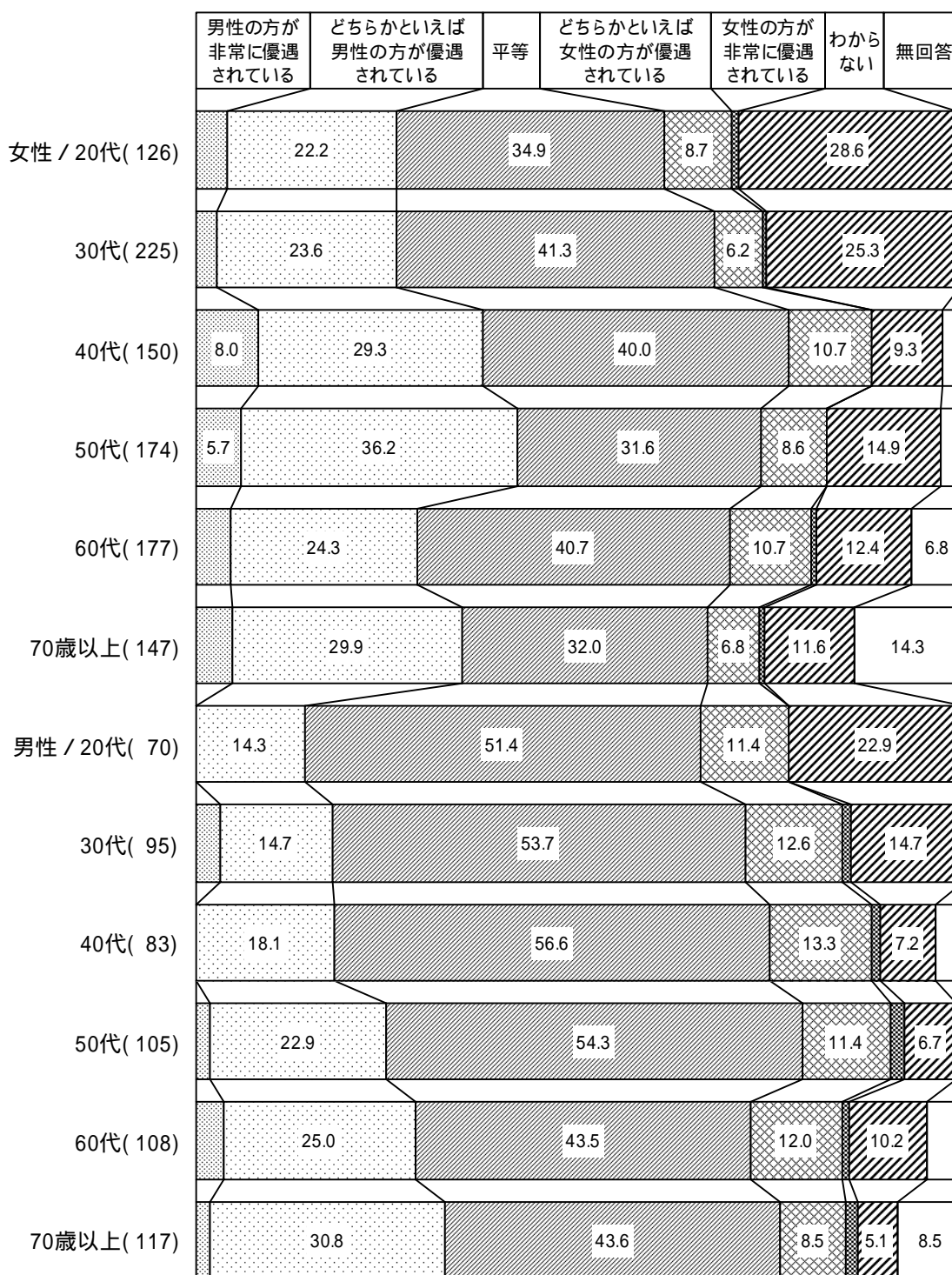
項目名	回答数	構成比(%)
全体	1630	100.0
男性の方が非常に優遇されている	60	3.7
どちらかといえば男性の方が優遇されている	415	25.5
平等	679	41.7
どちらかといえば女性の方が優遇されている	155	9.5
女性の方が非常に優遇されている	11	0.7
わからない	240	14.7
無回答	70	4.3

地域活動の場での男女平等意識について、性別・年代別に比較してみると、女性の50代を除く全ての年代で「平等」と回答した方の割合が最も多く、次いで、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した方の割合が多くなっています。

一方、男性については、全ての年代において、「平等」と回答した方の割合が最も多く、40代では56.6%、次いで、30代では53.7%となっています。また、全ての年代において、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した方の割合が1割程度となっています。

図2-11 男女平等意識(オ)地域活動の場で

単位:%(5%未満非表示)



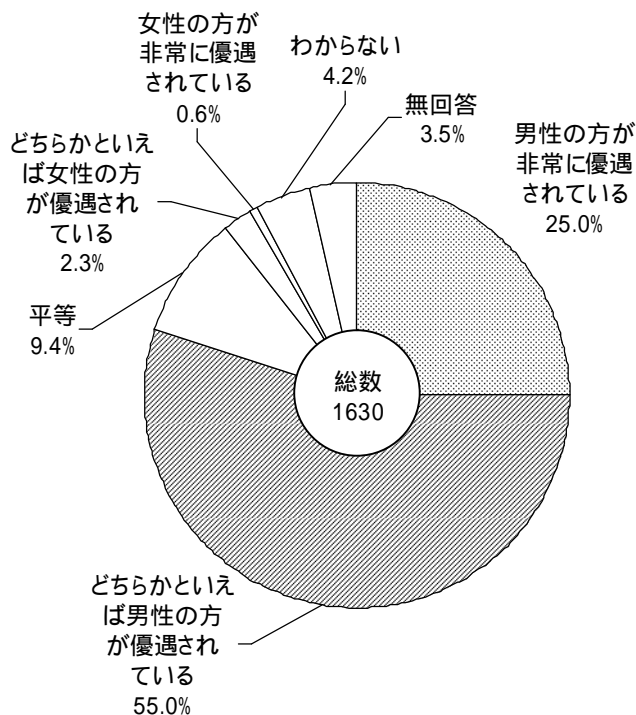
(注)5%未満数値:女性/20代(4.0 0.8 0.8)30代(2.7 0.4 0.4)40代(- 2.7)50代(- 2.9)60代(4.5 0.6)70歳以上(4.8 0.7)男性/20代(- - -)30代(3.2 1.1 -)40代(- 1.2 3.6)50代(1.9 1.9 1.0)60代(3.7 0.9 4.6)70歳以上(1.7 1.7)

男女平等意識（オ）地域活動の場で

		全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		1630 100.0	60 3.7	415 25.5	679 41.7	155 9.5	11 0.7	240 14.7	70 4.3
性別	女性	1001 100.0	48 4.8	276 27.6	371 37.1	85 8.5	4 0.4	172 17.2	45 4.5
	男性	579 100.0	11 1.9	126 21.8	289 49.9	66 11.4	7 1.2	61 10.5	19 3.3
	無回答	50 100.0	1 2.0	13 26.0	19 38.0	4 8.0	-	7 14.0	6 12.0
	女性 / 20代	126 100.0	5 4.0	28 22.2	44 34.9	11 8.7	1 0.8	36 28.6	1 0.8
性別・年代別	30代	225 100.0	6 2.7	53 23.6	93 41.3	14 6.2	1 0.4	57 25.3	1 0.4
	40代	150 100.0	12 8.0	44 29.3	60 40.0	16 10.7	-	14 9.3	4 2.7
	50代	174 100.0	10 5.7	63 36.2	55 31.6	15 8.6	-	26 14.9	5 2.9
	60代	177 100.0	8 4.5	43 24.3	72 40.7	19 10.7	1 0.6	22 12.4	12 6.8
	70歳以上	147 100.0	7 4.8	44 29.9	47 32.0	10 6.8	1 0.7	17 11.6	21 14.3
	無回答	53 100.0	1 1.9	14 26.4	19 35.8	4 7.5	-	8 15.1	7 13.2
	男性 / 20代	70 100.0	-	10 14.3	36 51.4	8 11.4	-	16 22.9	-
	30代	95 100.0	3 3.2	14 14.7	51 53.7	12 12.6	1 1.1	14 14.7	-
	40代	83 100.0	-	15 18.1	47 56.6	11 13.3	1 1.2	6 7.2	3 3.6
	50代	105 100.0	2 1.9	24 22.9	57 54.3	12 11.4	2 1.9	7 6.7	1 1.0
	60代	108 100.0	4 3.7	27 25.0	47 43.5	13 12.0	1 0.9	11 10.2	5 4.6
	70歳以上	117 100.0	2 1.7	36 30.8	51 43.6	10 8.5	2 1.7	6 5.1	10 8.5

社会通念や慣習・しきたり等での男女平等意識については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した方が最も多く、55.0%、以下、「男性の方が非常に優遇されている」が25.0%、「平等」が9.4%の順となっています。

図2 - 12 男女平等意識(カ) 社会通念や慣習・しきたり等で



男女平等意識(カ) 社会通念や慣習・しきたり等で

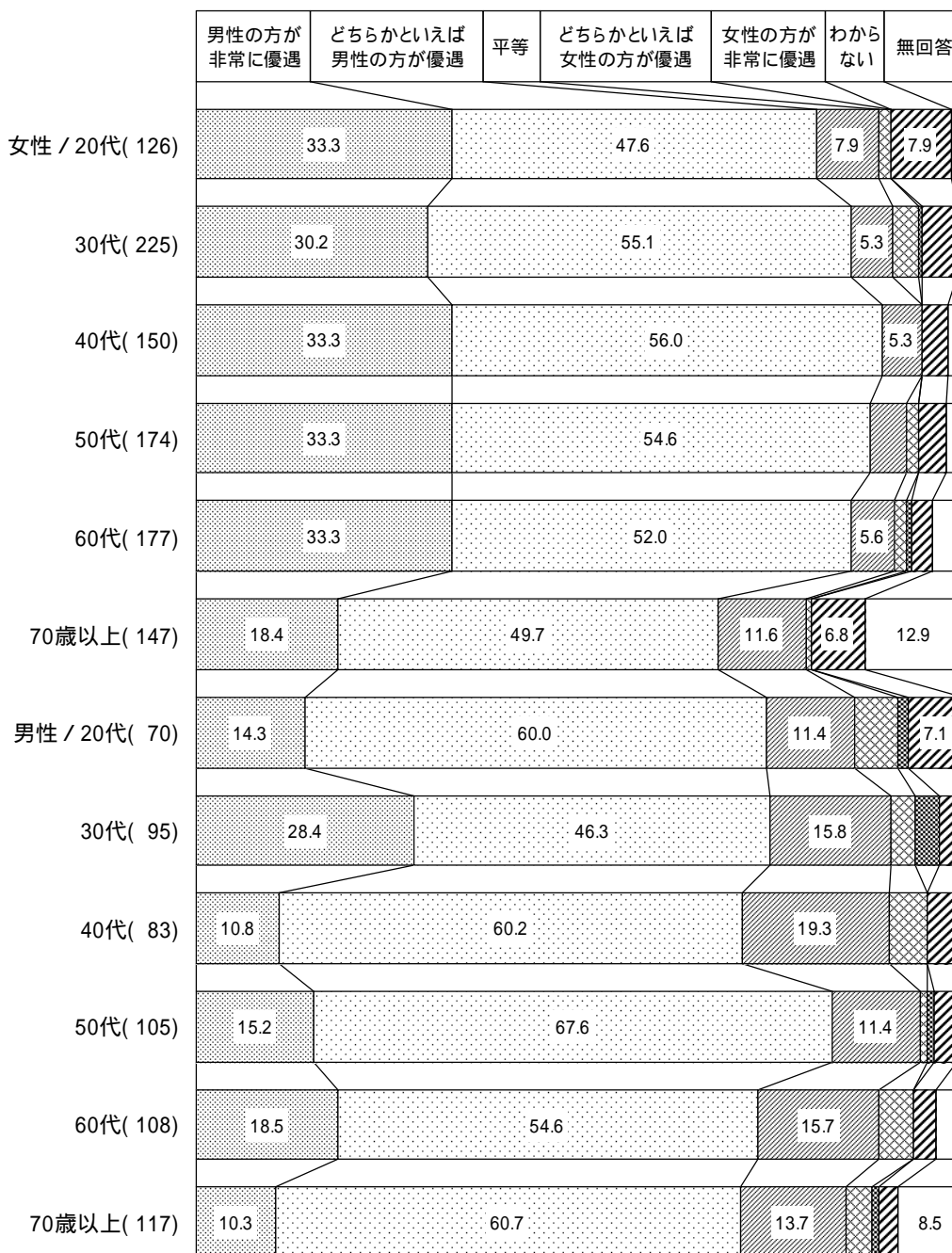
項目名	回答数	構成比 (%)
全体	1630	100.0
男性の方が非常に優遇されている	407	25.0
どちらかといえば男性の方が優遇されている	896	55.0
平等	154	9.4
どちらかといえば女性の方が優遇されている	38	2.3
女性の方が非常に優遇されている	9	0.6
わからない	69	4.2
無回答	57	3.5

社会通念や慣習・しきたり等での男女平等意識について、性別・年代別に比較してみると、女性の20代～60代において、「男性の方が非常に優遇されている」或いは「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した方の割合は、ほぼ8～9割になっています。特に、40代においては、89.3%と非常に多くなっています。

一方、男性の全ての年代においても、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」との回答が女性同様多くなっており、50代にいたっては、67.6%となっています。「男性の方が非常に優遇されている」との回答は、女性に比べ低くなる傾向がありますが、30代では28.4%と比較的男性の中では高くなっています。また、女性に比べ、「平等」と回答した方の割合が多くなっています。

図2 - 13 男女平等意識(カ)社会通念や慣習・しきたり等で

単位:%(5%未満非表示)



(注)5%未満数値:女性/20代(1.6 - 1.6)30代(3.6 0.4 4.4 0.9)40代(- - 3.3 2.0)50代(4.6 1.7 - 3.4 2.3)60代(1.7 0.6 2.8 4.0)70歳以上(0.7 -)男性/20代(1.4 -)30代(3.2 3.2 3.2 -)40代(4.8 - 3.6 1.2)50代(1.0 1.0 2.9 1.0)60代(4.6 - 2.8 3.7)70歳以上(3.4 0.9 2.6)

男女平等意識（力）社会通念や慣習・しきたり等で

		全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		1630 100.0	407 25.0	896 55.0	154 9.4	38 2.3	9 0.6	69 4.2	57 3.5
性別	女性	1001 100.0	304 30.4	529 52.8	65 6.5	17 1.7	2 0.2	46 4.6	38 3.8
	男性	579 100.0	94 16.2	338 58.4	84 14.5	21 3.6	6 1.0	20 3.5	16 2.8
	無回答	50 100.0	9 18.0	29 58.0	5 10.0	- -	1 2.0	3 6.0	3 6.0
性別・年代別	女性 / 20代	126 100.0	42 33.3	60 47.6	10 7.9	2 1.6	- -	10 7.9	2 1.6
	30代	225 100.0	68 30.2	124 55.1	12 5.3	8 3.6	1 0.4	10 4.4	2 0.9
	40代	150 100.0	50 33.3	84 56.0	8 5.3	- -	- -	5 3.3	3 2.0
	50代	174 100.0	58 33.3	95 54.6	8 4.6	3 1.7	- -	6 3.4	4 2.3
	60代	177 100.0	59 33.3	92 52.0	10 5.6	3 1.7	1 0.6	5 2.8	7 4.0
	70歳以上	147 100.0	27 18.4	73 49.7	17 11.6	1 0.7	- -	10 6.8	19 12.9
	無回答	53 100.0	9 17.0	31 58.5	5 9.4	- -	1 1.9	3 5.7	4 7.5
	男性 / 20代	70 100.0	10 14.3	42 60.0	8 11.4	4 5.7	1 1.4	5 7.1	- -
	30代	95 100.0	27 28.4	44 46.3	15 15.8	3 3.2	3 3.2	3 3.2	- -
	40代	83 100.0	9 10.8	50 60.2	16 19.3	4 4.8	- -	3 3.6	1 1.2
	50代	105 100.0	16 15.2	71 67.6	12 11.4	1 1.0	1 1.0	3 2.9	1 1.0
	60代	108 100.0	20 18.5	59 54.6	17 15.7	5 4.6	- -	3 2.8	4 3.7
	70歳以上	117 100.0	12 10.3	71 60.7	16 13.7	4 3.4	1 0.9	3 2.6	10 8.5

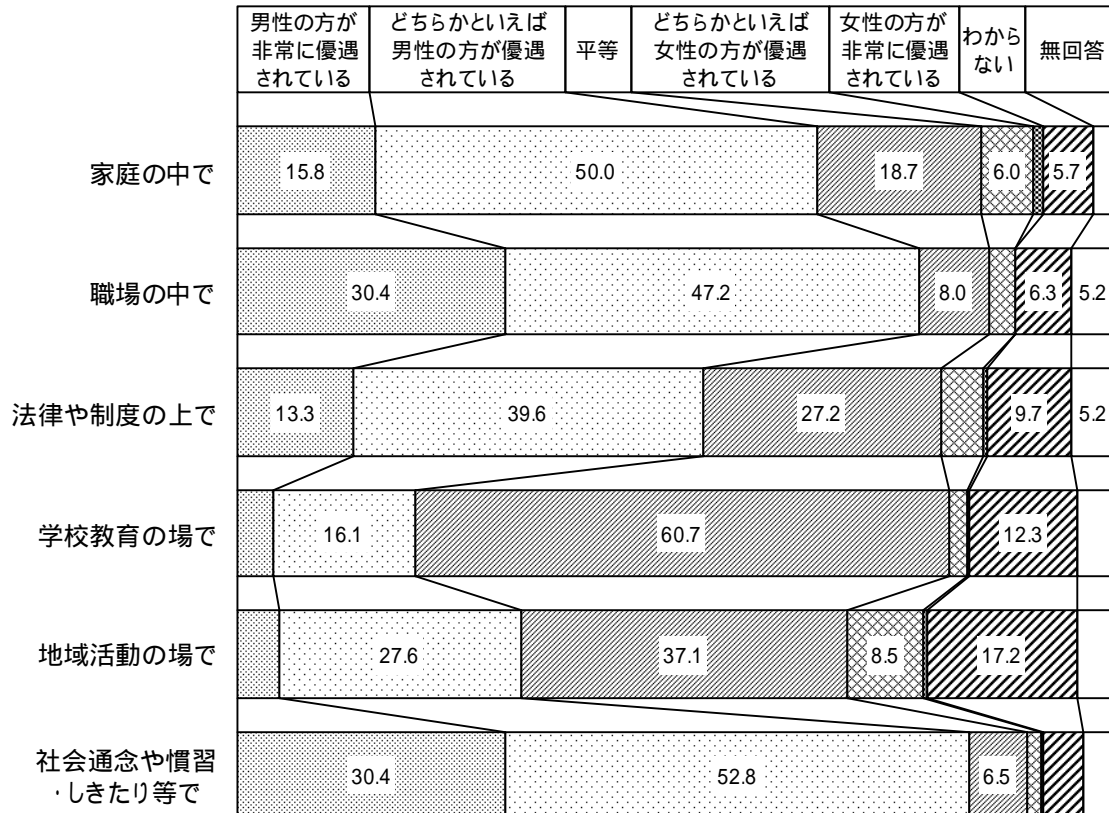
さまざまな場における男女平等意識について、女性において、「男性の方が非常に優遇されている」との回答が最も多かったのは、「職場の中で」と「社会通念や慣習・しきたり等で」で共に30.4%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」との回答が最も多かったのが「社会通念や慣習・しきたり等で」で52.8%でした。

また、「平等」との回答が最も多かったのが「学校教育の場で」で60.7%、次いで、「地域活動の場で」が37.1%でした。

図2 - 14 男女平等意識 / 女性

総数=1001

単位:% (5%未満非表示)



(注)5%未満数値:家庭の中(1.0 2.8)職場の中(2.8 0.2)法律や制度の上(4.8 0.3)学校教育の場(4.2 2.0 0.1 4.6)地域活動の場(4.8 0.4 4.5)社会通念や慣習・しきたり等(1.7 0.2 4.6 3.8)

男女平等意識 / 女性

	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
家庭の中で	1001 100.0	158 15.8	501 50.0	187 18.7	60 6.0	10 1.0	57 5.7	28 2.8
職場の中で	1001 100.0	304 30.4	472 47.2	80 8.0	28 2.8	2 0.2	63 6.3	52 5.2
法律や制度の上で	1001 100.0	133 13.3	396 39.6	272 27.2	48 4.8	3 0.3	97 9.7	52 5.2
学校教育の場で	1001 100.0	42 4.2	161 16.1	608 60.7	20 2.0	1 0.1	123 12.3	46 4.6
地域活動の場で	1001 100.0	48 4.8	276 27.6	371 37.1	85 8.5	4 0.4	172 17.2	45 4.5
社会通念や慣習・しきたり等で	1001 100.0	304 30.4	529 52.8	65 6.5	17 1.7	2 0.2	46 4.6	38 3.8

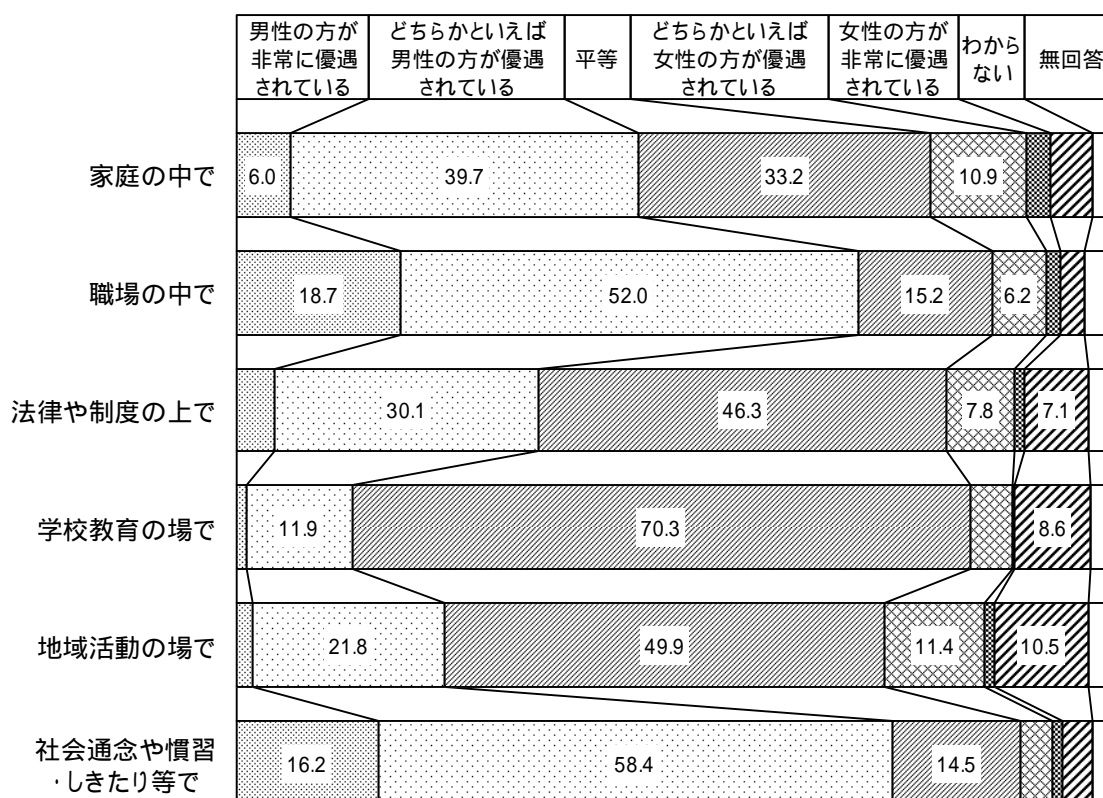
さまざまな場における男女平等意識について、男性において、「男性の方が非常に優遇されている」との回答が最も多かったのは、「職場の中で」で18.7%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」との回答が最も多かったのが「社会通念や慣習・しきたり等で」で58.4%でした。

また、「平等」との回答が最も多かったのが「学校教育の場で」で70.3%、次いで、「地域活動の場で」が49.9%でした。

図2 - 15 男女平等意識 / 男性

総数=579

単位:% (5%未満非表示)



(注)5%未満数値: 家庭の中(2.6 4.8 2.8)職場の中(1.6 2.8 3.6)法律や制度の上(4.3 1.2 3.3)学校教育の場(1.2 4.7 0.3 2.9)地域活動の場(1.9 1.2 3.3)社会通念や慣習・しきたり等(3.6 1.0 3.5 2.8)

男女平等意識 / 男性

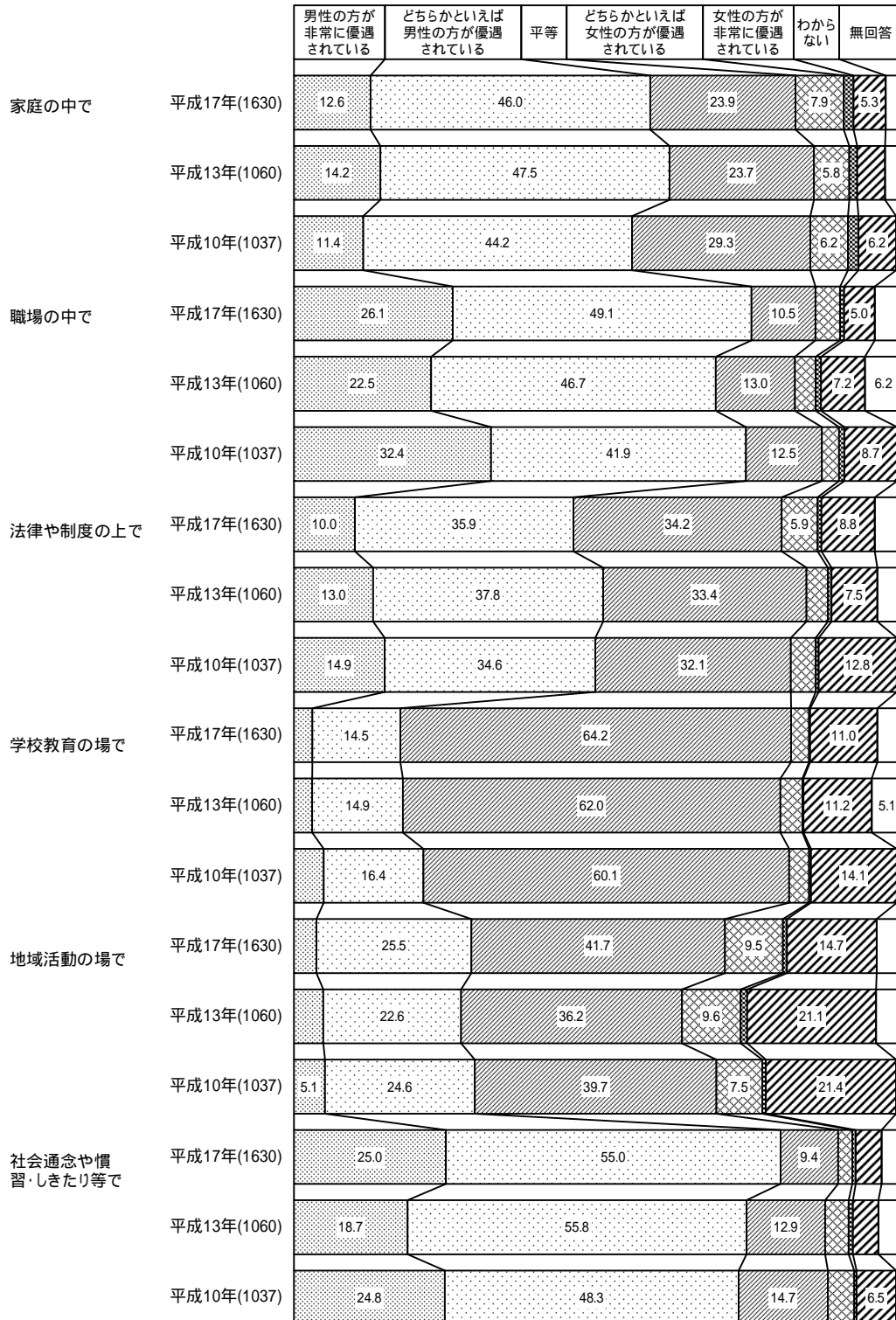
	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
家庭の中で	579 100.0	35 6.0	230 39.7	192 33.2	63 10.9	15 2.6	28 4.8	16 2.8
職場の中で	579 100.0	108 18.7	301 52.0	88 15.2	36 6.2	9 1.6	16 2.8	21 3.6
法律や制度の上で	579 100.0	25 4.3	174 30.1	268 46.3	45 7.8	7 1.2	41 7.1	19 3.3
学校教育の場で	579 100.0	7 1.2	69 11.9	407 70.3	27 4.7	2 0.3	50 8.6	17 2.9
地域活動の場で	579 100.0	11 1.9	126 21.8	289 49.9	66 11.4	7 1.2	61 10.5	19 3.3
社会通念や慣習・しきたり等で	579 100.0	94 16.2	338 58.4	84 14.5	21 3.6	6 1.0	20 3.5	16 2.8

さまざまな場における男女平等意識について、前回・前々回と比較してみると、「学校教育の場」において、「平等」という回答が増加傾向にあります。

一方、「社会通念や慣習・しきたり等で」において、「男性の方が優遇されている」或いは「どちらかというとな男性の方が優遇されている」と回答した方の割合が一貫して増加傾向にあります。

図2-16 男女平等意識/前回・前々回との比較

単位:%(5%未満非表示)

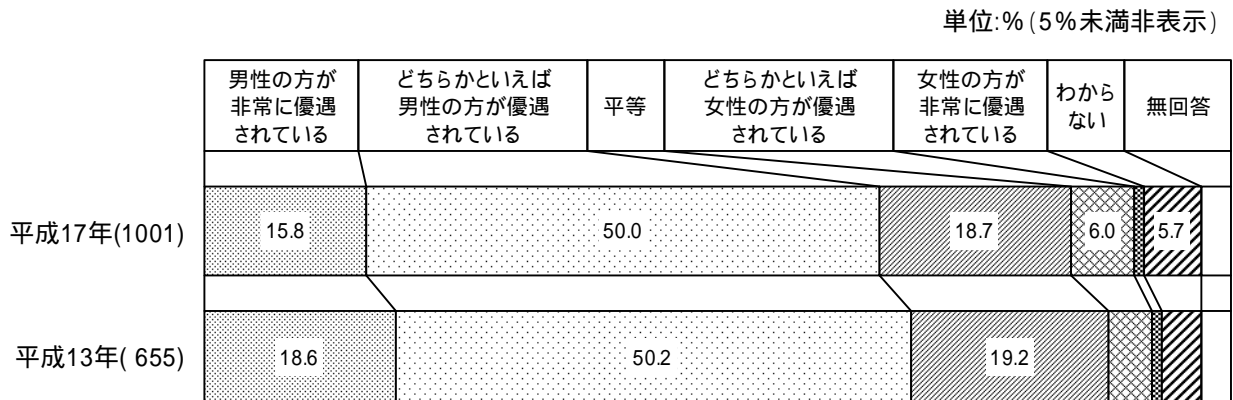


(注)5%未満数値:家庭の中・平成17年(1.6 2.8)平成13年(1.3 4.6 2.9)平成10年(1.7 1.1)職場の中・平成17年(4.0 0.7 4.6)平成13年(3.4 0.9)平成10年(2.8 0.9 0.9)法律や制度の上・平成17年(0.6 4.6)平成13年(3.5 0.6 4.2)平成10年(4.1 0.5 1.0)学校教育の場・平成17年(3.0 2.9 0.2 4.2)平成13年(3.0 3.6 0.2)平成10年(4.9 3.3 0.3 1.0)地域活動の場・平成17年(3.7 0.7 4.3)平成13年(4.8 1.1 4.4)平成10年(0.6 1.1)社会通念や慣習・しきたり等・平成17年(2.3 0.6 4.2 3.5)平成13年(3.9 0.7 4.2 4.0)平成10年(4.3 0.4 1.1)

選択肢毎の前回と比較

家庭の中での男女平等意識について、前回と今回の女性の回答を比較してみると、「男性の方が非常に優遇されている」と回答した方の割合が2.8%減少し、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した方の割合が1.7%増加しています。

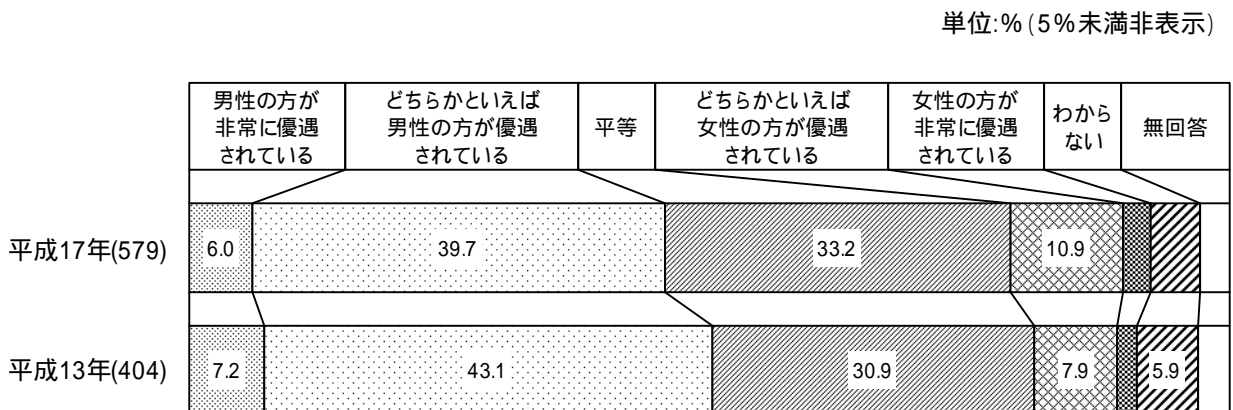
図2 - 17 前回の調査との比較 / 男女平等意識 / 家庭の中で / 女性



(注)5%未満数値:平成17年(1.0 2.8)平成13年(4.3 0.9 3.8 2.9)

家庭の中での男女平等意識について、前回と今回の男性の回答を比較してみると、「どちらかといえば男性の方が非常に優遇されている」と回答した方の割合が3.4%減少し、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した方の割合が3.0%増加しています。

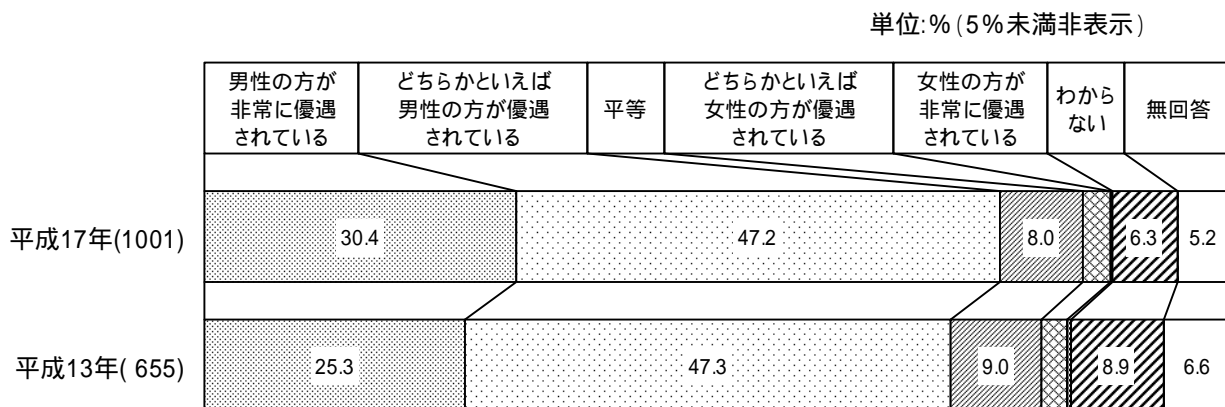
図2 - 18 前回の調査との比較 / 男女平等意識 / 家庭の中で / 男性



(注)5%未満数値:平成17年(2.6 4.8 2.8)平成13年(2.0 3.0)

職場の中での男女平等意識について、女性の回答を比較してみると、「男性の方が非常に優遇されている」と回答した方の割合が5.1%増加し、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した方の割合が0.4%減少しています。

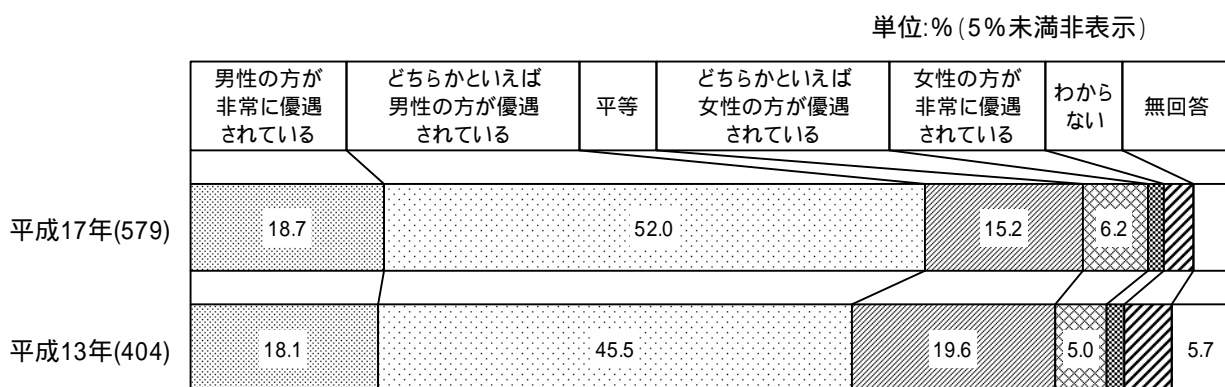
図2 - 19 前回の調査との比較 / 男女平等意識 / 職場の中で / 女性



(注)5%未満数値:平成17年(2.8 0.2)平成13年(2.4 0.5)

職場の中での男女平等意識について、男性の回答を比較してみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した方の割合が6.5%増加し、「平等」と回答した方の割合が4.4%減少しています。

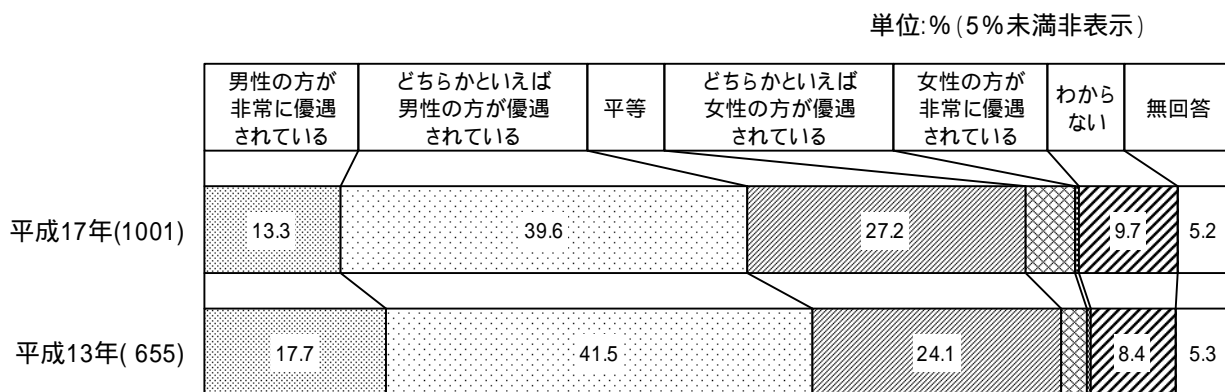
図2 - 20 前回の調査との比較 / 男女平等意識 / 職場の中で / 男性



(注)5%未満数値:平成17年(1.6 2.8 3.6)平成13年(1.7 4.5)

法律や制度の上での男女平等意識について、女性の回答を比較してみると、「男性の方が非常に優遇されている」と回答した方の割合が4.4%減少し、「平等」と回答した方の割合が3.1%増加しています。

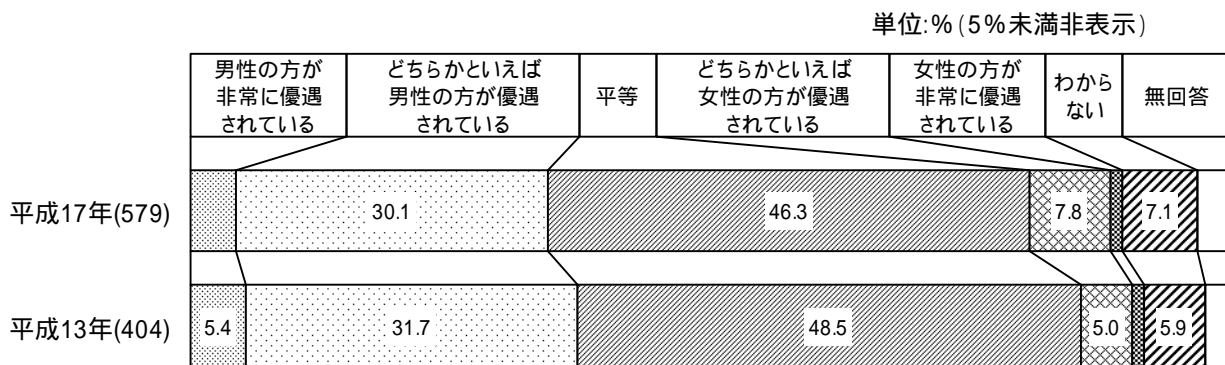
図2 - 21 前回の調査との比較 / 男女平等意識 / 法律や制度の上で / 女性



(注)5%未満数値:平成17年(4.8 0.3)平成13年(2.6 0.3)

法律や制度の上での男女平等意識について、男性の回答を比較してみると、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した方の割合が2.8%増加し、「平等」と回答した方の割合が2.2%減少しています。

図2 - 22 前回の調査との比較 / 男女平等意識 / 法律や制度の上で / 男性

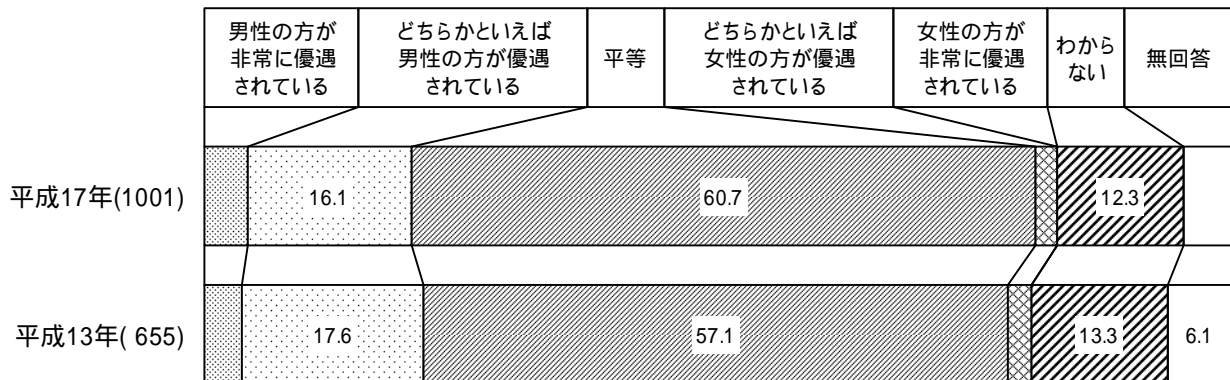


(注)5%未満数値:平成17年(4.3 1.2 3.3)平成13年(1.0 2.5)

学校教育の場での男女平等意識について、女性の回答を比較してみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した方の割合が1.5%減少し、「平等」と回答した方の割合が3.6%増加しています。

図2 - 23 前回の調査との比較 / 男女平等意識 / 学校教育の場で / 女性

単位: % (5%未満非表示)

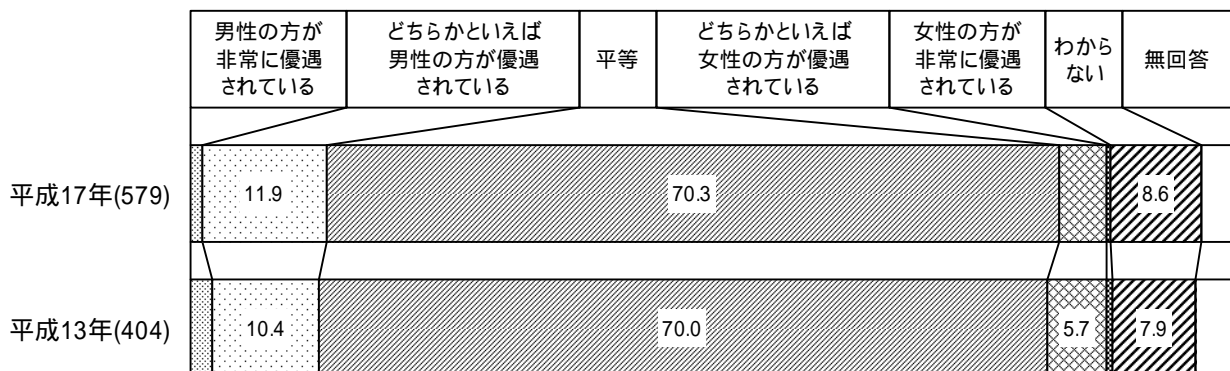


(注)5%未満数値:平成17年(4.2 2.0 0.1 4.6)平成13年(3.7 2.3 -)

学校教育の場での男女平等意識について、男性の回答を比較してみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した方の割合が1.5%増加し、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した方の割合が1.0%減少しています。

図2 - 24 前回の調査との比較 / 男女平等意識 / 学校教育の場で / 男性

単位: % (5%未満非表示)

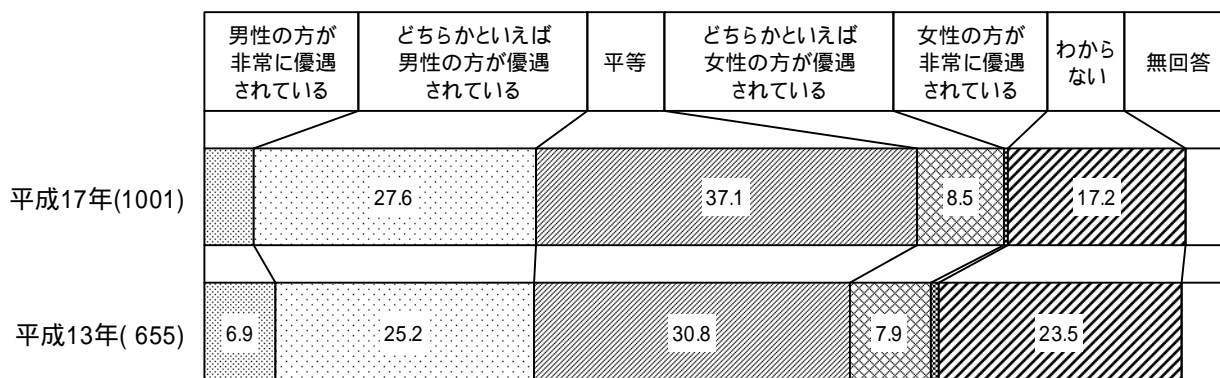


(注)5%未満数値:平成17年(1.2 4.7 0.3 2.9)平成13年(2.0 0.5 3.5)

地域活動の場での男女平等意識について、女性の回答を前回と比較してみると、「平等」と回答した方の割合が6.3%増加し、また、「わからない」と回答した方の割合は6.3%減少しています。

図2 - 25 前回の調査との比較 / 男女平等意識 / 地域活動の場で / 女性

単位:% (5%未満非表示)

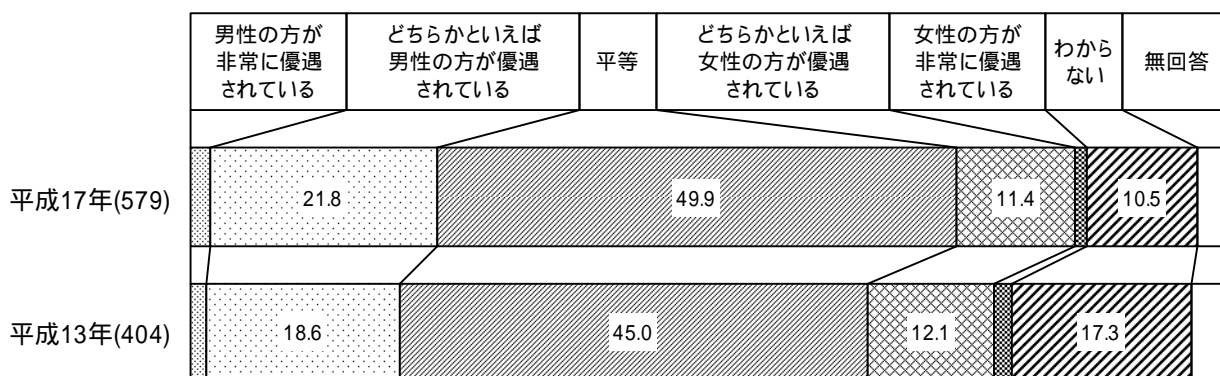


(注)5%未満数値:平成17年(4.8 0.4 4.5)平成13年(0.8 4.9)

地域活動の場での男女平等意識について、男性の回答を前回と比較してみると、「平等」と回答した方の割合が4.9%増加し、また、「わからない」と回答した方の割合は6.8%減少しています。

図2 - 26 前回の調査との比較 / 男女平等意識 / 地域活動の場で / 男性

単位:% (5%未満非表示)

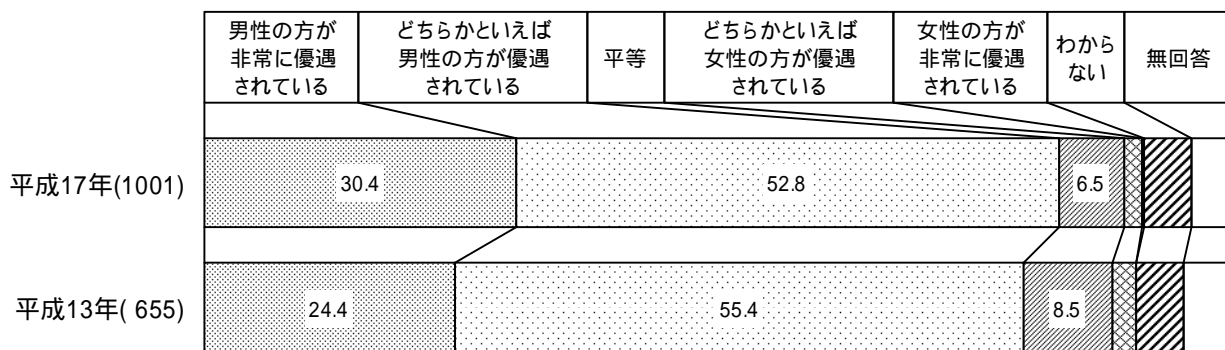


(注)5%未満数値:平成17年(1.9 1.2 3.3)平成13年(1.5 1.7 3.7)

社会通念や慣習・しきたり等での男女平等意識について、女性の回答を前回と比較してみると、「男性の方が非常に優遇されている」と回答した方の割合が6.0%増加し、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した方の割合が2.6%、「平等」と回答した方の割合が2.0%、それぞれ減少しています。

図2 - 27 前回の調査との比較 / 男女平等意識 / 社会通念や慣習・しきたり等で / 女性

単位:% (5%未満非表示)

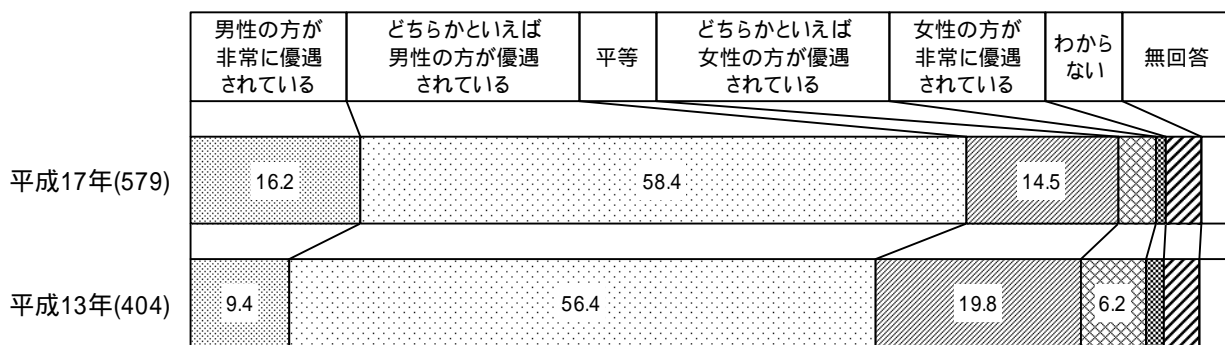


(注)5%未満数値:平成17年(1.7 0.2 4.6 3.8)平成13年(2.4 - 4.6 4.6)

社会通念や慣習・しきたり等での男女平等意識について、男性の回答を前回と比較してみると、「男性の方が非常に優遇されている」と回答した方の割合が6.8%増加し、「平等」と回答した方の割合は5.3%減少しています。

図2 - 28 前回の調査との比較 / 男女平等意識 / 社会通念や慣習・しきたり等で / 男性

単位:% (5%未満非表示)



(注)5%未満数値:平成17年(3.6 1.0 3.5 2.8)平成13年(1.7 3.5 3.0)

問3 <一日の家事労働に費やす時間>

あなたは次のことに1日平均どのくらいの時間をあてていますか。平日と休日、それぞれについてお答えください。

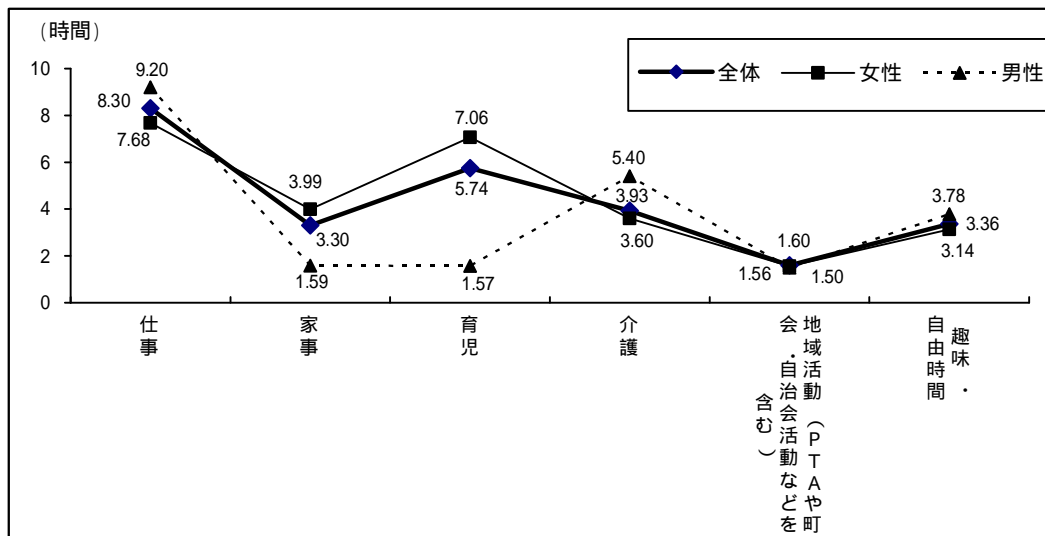
	平日	休日
(ア) 仕事	() 時間	() 時間
(イ) 家事	() 時間	() 時間
(ウ) 育児	() 時間	() 時間
(エ) 介護	() 時間	() 時間
(オ) 地域活動(P T Aや町会・自治会活動などを含む)	() 時間	() 時間
(カ) 趣味・自由時間	() 時間	() 時間

平日の1日の過ごし方をみると、平日においては、最も長いのは「仕事」で8.3時間、次いで、「育児」の5.74時間、「介護」の3.93時間となっています。

女性では、「仕事」が最も長く7.68時間、次いで、「育児」が7.06時間、男性では、仕事がいちばん長く9.2時間、次いで、「介護」の5.40時間でした。

男性と女性との差が最も大きい項目は、「育児」で5.49時間、次いで、「家事」が2.4時間でした。

図3-1 平日の1日の過ごし方



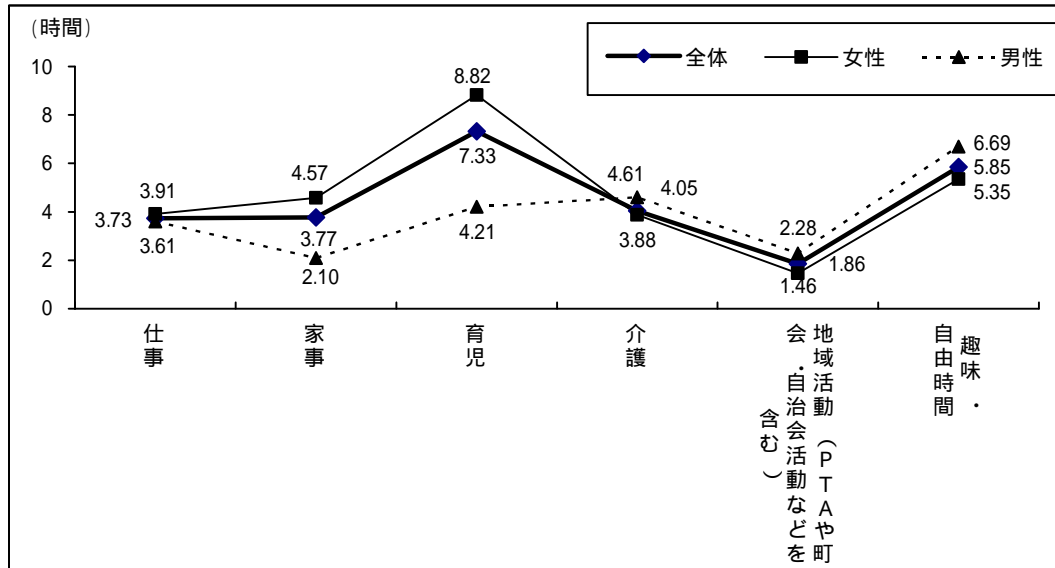
仕事:n=全体1078、女性605、男性439 家事:n=全体1255、女性878、男性340 育児:n=全体217、女性164、男性51
 介護:n=全体106、女性80、男性20 地域活動:n=全体140、女性90、男性43 趣味・自由時間:n=全体1286、女性806、男性441

休日の1日の過ごし方をみてみると、最も長いのは「育児」で7.33時間、次いで、「趣味・自由時間」の5.85時間、「介護」4.05時間となっています。

女性では、「育児」が最も長く8.82時間、次いで、「趣味・自由時間」が5.35時間、男性では、「趣味・自由時間」が最も長く6.69時間、次いで、「介護」の4.61時間でした。

男性と女性との差が最も大きい項目は、「育児」で4.61時間、次いで、「家事」が2.47時間でした。

図3-2 休日の1日の過ごし方



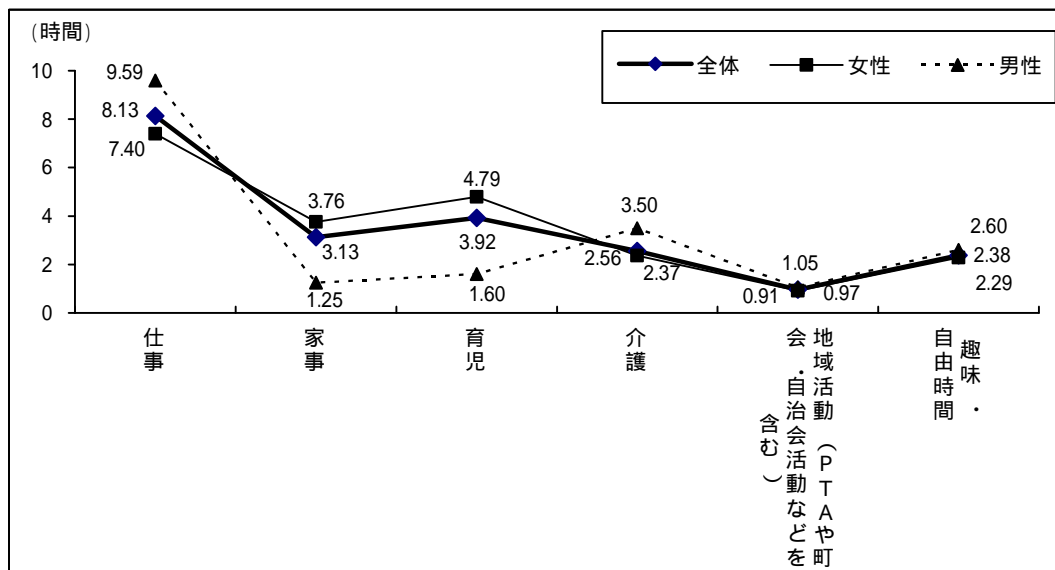
仕事:n=全体360、女性175、男性171 家事:n=全体1287、女性848、男性404 育児:n=全体217、女性145、男性67
介護:n=全体107、女性76、男性28 地域活動:n=全体129、女性63、男性58 趣味・自由時間:n=全体1314、女性774、
男性497

共働き世帯の、平日の1日の過ごし方をみてみると、最も長いのは「仕事」で8.13時間、次いで、「育児」の3.92時間、「家事」の3.13時間となっています。

女性では、「仕事」が最も長く7.40時間、次いで、「育児」が4.79時間、男性では、「仕事」が最も長く9.59時間、次いで、「介護」の3.50時間でした。

男性と女性との差が最も大きい項目は、「育児」で3.19時間、次いで、「家事」が2.51時間でした。

図3-3 <共働き世帯>平日の1日の過ごし方



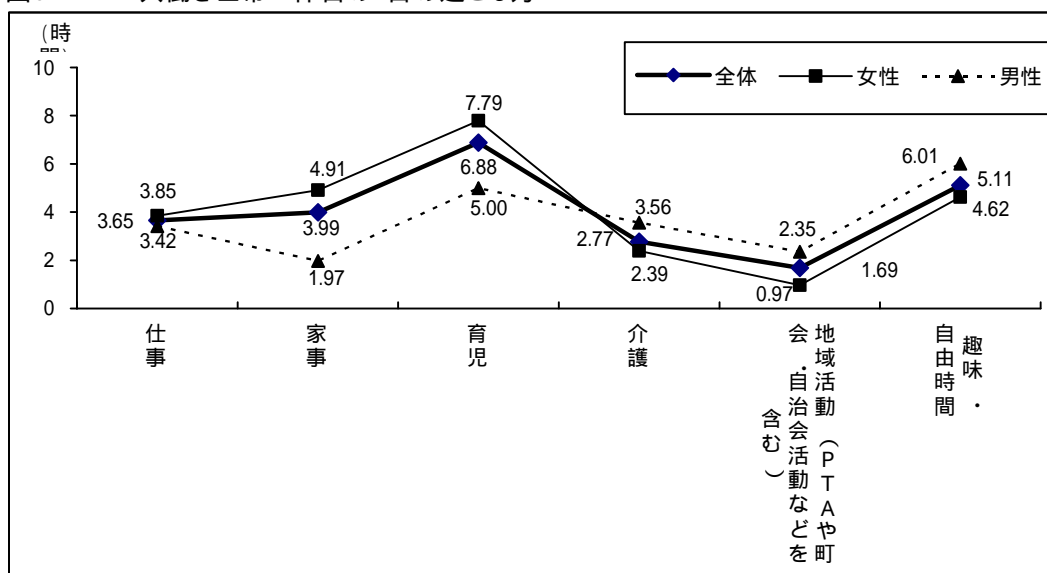
仕事:n=全体390、女性260、男性130 家事:n=全体351、女性263、男性88 育児:n=全体88、女性64、男性24
介護:n=全体18、女性15、男性3 地域活動:n=全体28、女性17、男性11 趣味・自由時間:n=全体321、女性223、男性
98

共働き世帯の、休日の1日の過ごし方をみてみると、最も長いのは「育児」で6.88時間、次いで、「趣味・自由時間」の5.11時間、「家事」の3.99時間となっています。

女性では、「育児」が最も長く7.79時間、次いで、「家事」が4.91時間でした。男性では、「趣味・自由時間」が最も長く6.01時間、次いで、「育児」の5.00時間でした。

男性と女性との差が最も大きい項目は、「育児」で2.79時間、次いで、「家事」が2.94時間でした。

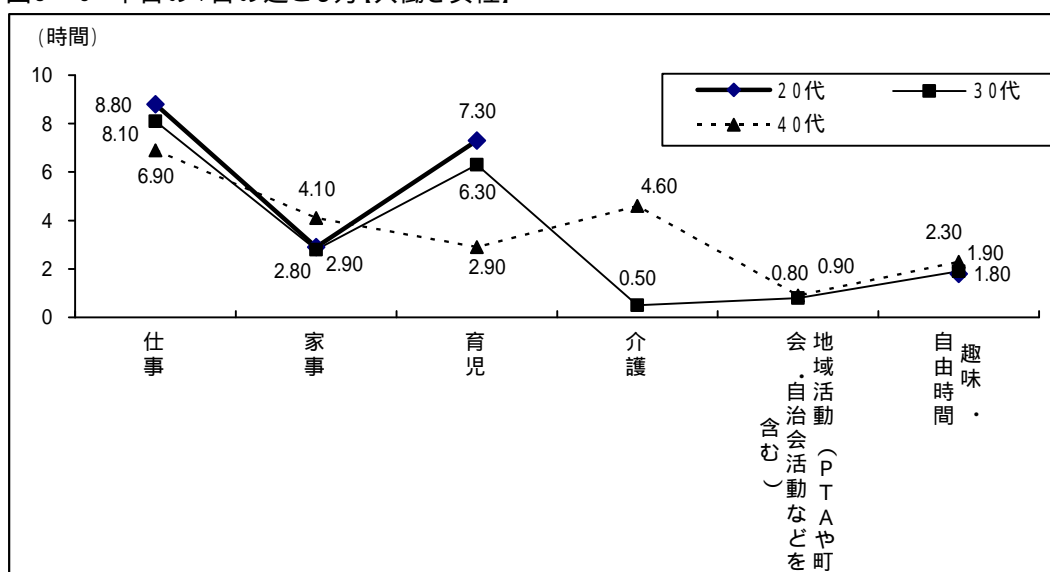
図3 - 4 <共働き世帯> 休日の1日の過ごし方



仕事:n=全体119、女性65、男性54 家事:n=全体363、女性250、男性113 育児:n=全体86、女性58、男性28
 介護:n=全体25、女性17、男性8 地域活動:n=全体48、女性23、男性25 趣味・自由時間:n=全体354、女性230、男性124

共働き世帯の女性の、平日の1日の過ごし方をみてみると、「仕事」では20代が最も長く8.8時間でした。40代と比較すると、1.9時間長くなっています。「家事」では、40代が最も長く4.1時間でした。30代と比較すると、1.3時間長くなっています。「育児」では、20代が最も長く6.3時間でした。40代と比較すると、3.4時間長くなっています。「介護」では、40代が最も長く4.6時間でした。30代と比較すると、4.1時間長くなっています。20~40代において、「地域活動 (PTAや町会、自治会活動などを含む)」は1時間弱、「趣味・自由活動」は2時間程度でした。

図3 - 5 平日の1日の過ごし方 [共働き女性]



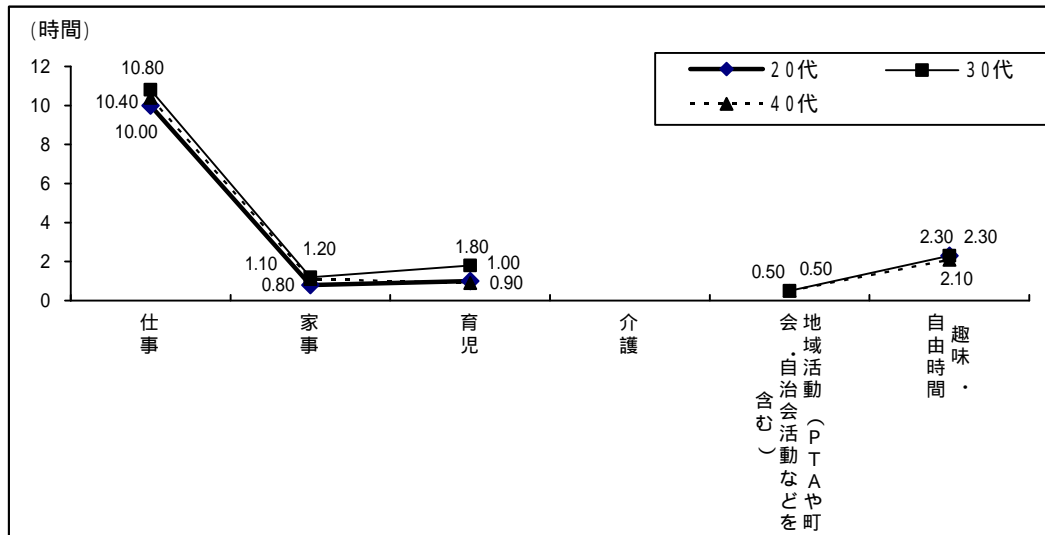
共働きの女性:n全体 = 272、20代 = 28、30代 = 69、40代 = 72

共働き世帯の男性の、平日の1日の過ごし方をみると、「仕事」では、30代が最も長く10.8時間、次いで、40代が10.4時間、20代が10.0時間でした。

男性では、「家事」、「育児」、「地域活動（PTAや町会、自治会活動などを含む）」が20～40代において、短い傾向があることが分かります。

「趣味・自由時間」は、20～40代で2時間程度となっています。

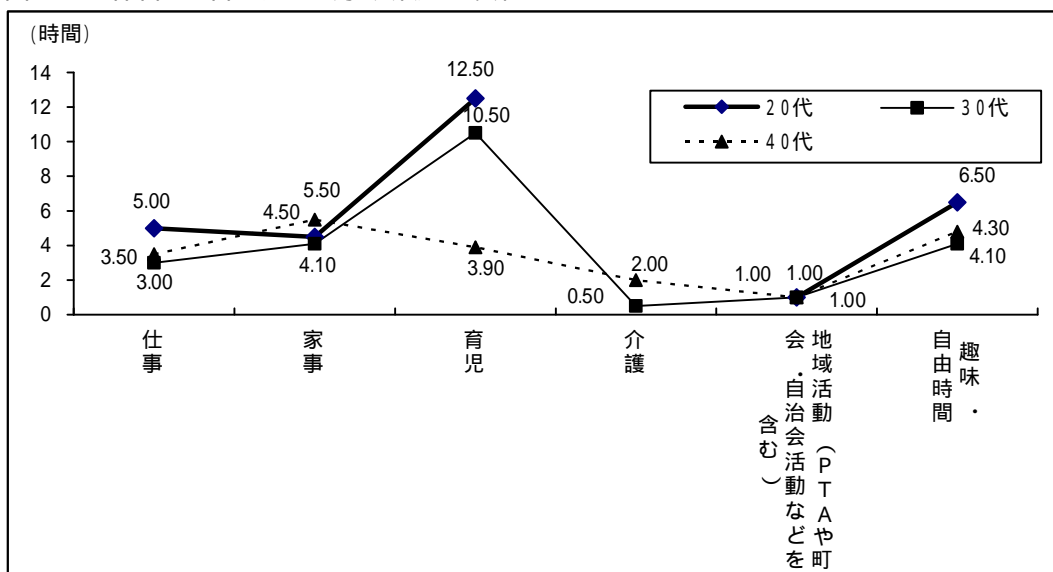
図3-6 平日の1日の過ごし方【共働き男性】



共働きの男性：n全体 = 136、20代 = 3、30代 = 24、40代 = 31

共働き世帯の女性の、休日の1日の過ごし方をみると、「仕事」では、最も長いのは20代で5.0時間でした。30代と比較すると、2.0時間長くなっています。「家事」では、最も長いのは40代で5.5時間でした。30代と比較すると、1.4時間長くなっています。「育児」では、最も長いのは20代で12.5時間でした。40代と比較すると、8.6時間長くなっています。「介護」では、40代が2.0時間でした。30代と比較すると、1.5時間長くなっています。「地域活動（PTAや町会、自治会活動などを含む）」は、どの世代も1時間でした。「趣味・自由活動」では、20代が最も長く、6.5時間でした。30代と比較すると、2.4時間長くなっています。

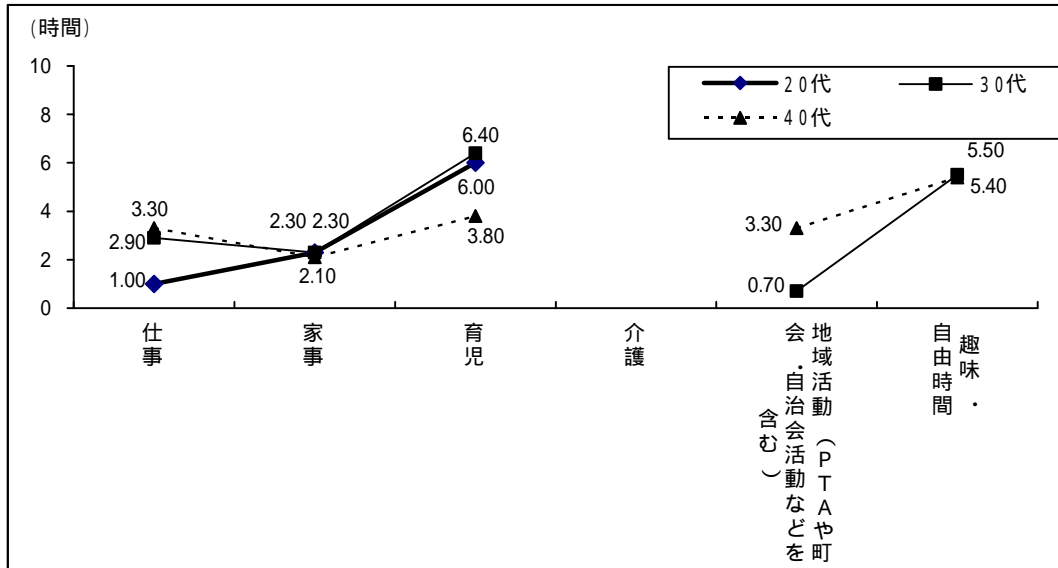
図3-7 休日の1日の過ごし方【共働きの女性】



共働きの女性：n全体 = 272、20代 = 28、30代 = 69、40代 = 72

共働き世帯の男性の、休日の1日の過ごし方をみると、「仕事」では、40代が最も長く3.3時間でした。20代と比較すると、2.3時間長くなっています。「家事」は、20～40代で2時間強でした。「育児」では、30代が最も長く6.4時間でした。40代と比較すると、2.6時間長くなっています。「地域活動(P T Aや町会、自治会活動などを含む)」では、40代が最も長く、3.3時間でした。30代と比較すると、2.6時間長くなっています。「趣味・自由活動」は30代・40代共に5時間半程度でした。

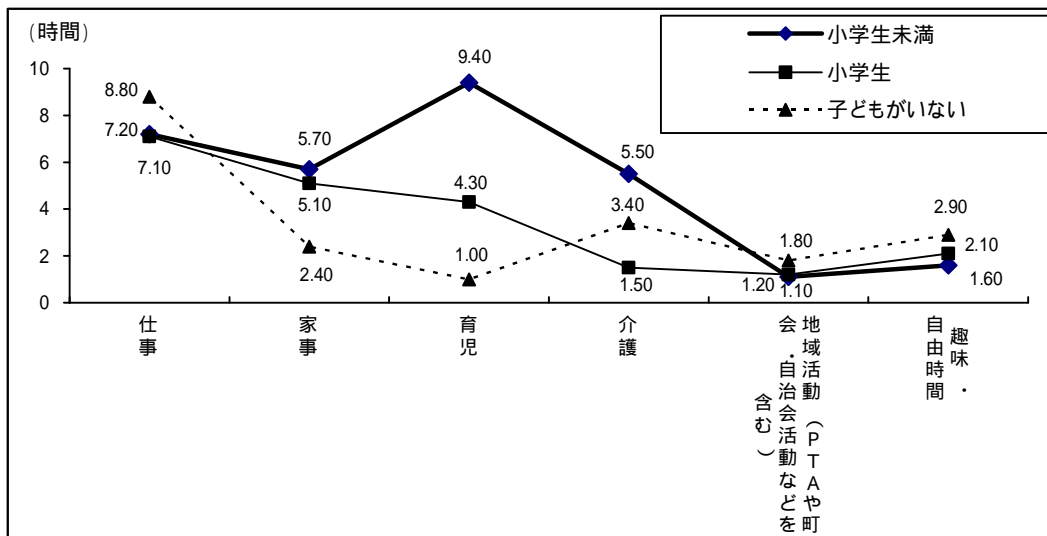
図3 - 8 休日の1日の過ごし方【共働きの男性】



共働きの男性:n全体 = 136、20代 = 3、30代 = 24、40代 = 31

女性の平日の1日の過ごし方を一番下の子どもの年齢別にみると、「仕事」では、どの世代も7～9時間程度でした。「家事」では小学生未満の子どもがいる方が最も長く5.7時間でした。子どもがいない方と比較すると、3.3時間長くなっています。「育児」では、小学生未満の子どもがいる方が最も長く9.4時間でした。子どもがいない方と比較すると、8.4時間長くなっています。「介護」では、小学生未満の子どもがいる方が最も長く5.5時間でした。小学生の子どもがいる方と比較すると、4.0時間長くなっています。「地域活動(P T Aや町会、自治会活動などを含む)」は、どの世代も1～2時間程度でした。「趣味・自由活動」では、子どもがいない方が最も長く2.9時間でした。小学生未満の子どもがいる方と比較すると、1.3時間長くなっています。

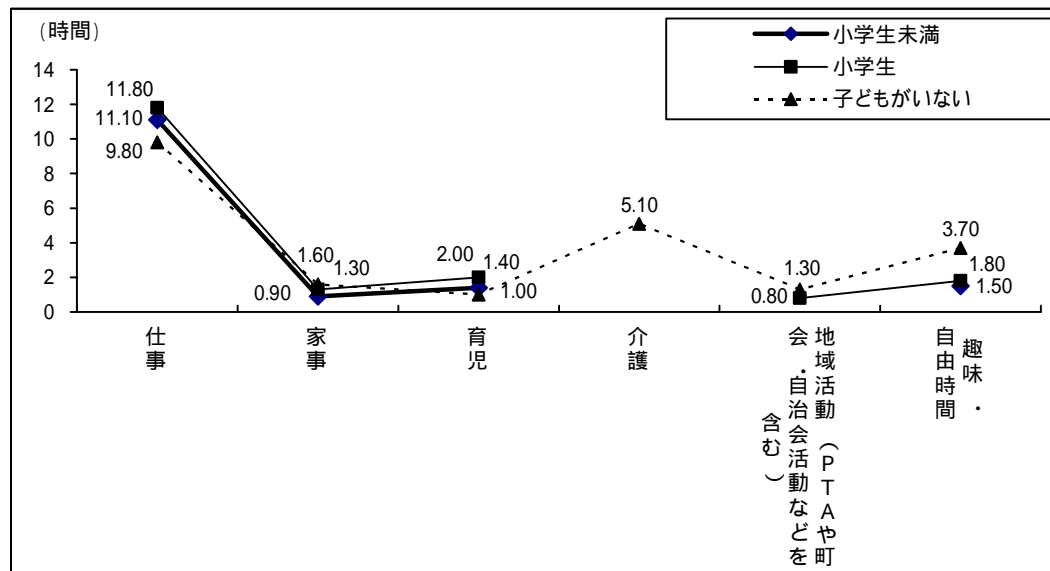
図3 - 9 平日の1日の過ごし方【一番下の子どもの年齢別】/女性



一番下の子どもの年齢別 / 女性:n=全体466、小学生未満97、小学生51、子どもがいない1318

男性の平日の1日の過ごし方を一番下の子どもの年齢別にみると、「仕事」では、小学生の子どもがいる方が最も長く11.8時間でした。「家事」ではどの世代も1~2時間程度でした。「育児」では、どの世代も1~2時間でした。「介護」では、子どもがいない方のみの回答で、5.1時間でした。「地域活動(P T Aや町会、自治会活動などを含む)」は、子どもがいない方が1.3時間、小学生の子どもがいる方が0.8時間でした。「趣味・自由活動」では、子どもがいない方が最も長く3.7時間でした。小学生未満の子どもがいる方と比較すると、2.2時間長くなっています。

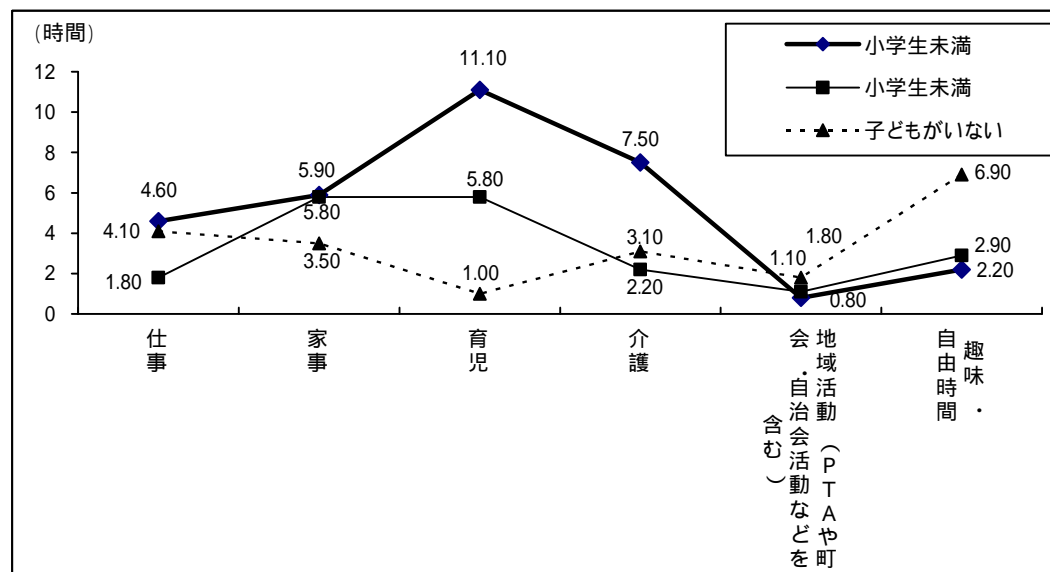
図3-10 平日の1日の過ごし方【一番下の子どもの年齢別】/男性



一番下の子どもの年齢別 / 男性 : n=全体278、小学生未満34、小学生25、子どもがいない1219

女性の休日の1日の過ごし方を一番下の子供の年齢別にみても、「仕事」では、小学生未満の子どもがいる方が最も長く4.6時間でした。「家事」では小学生未満の子どもがいる方が最も長く5.9時間でした。子どもがいない方と比較すると、2.4時間長くなっています。「育児」では、小学生未満の子どもを持つ方が最も長く11.1時間でした。子どもがいない方と比較すると、10.1時間長くなっています。「介護」では、小学生未満の子どもがいる方が最も長く7.5時間でした。「地域活動(P T Aや町会、自治会活動などを含む)」は、子どもがいない方が最も長く、1.8時間でした。小学生未満の子どもがいる方と比較すると、1.0時間長くなっています。「趣味・自由活動」では、子どもがいない方が最も長く6.9時間でした。小学生未満の子どもがいる方と比較すると、4.7時間長くなっています。

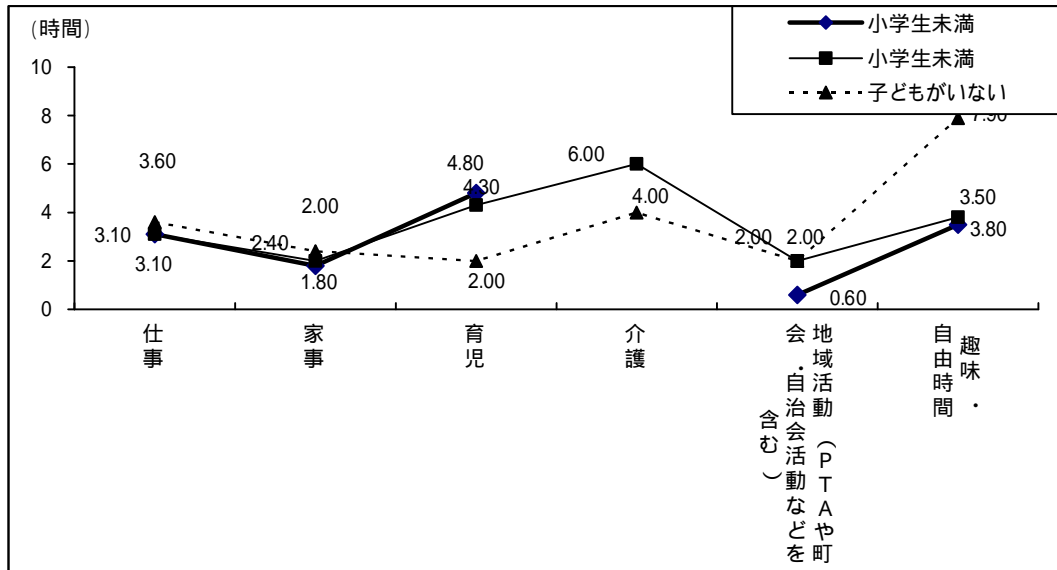
図3-11 休日の1日の過ごし方【一番下の子どもの年齢別】/女性



一番下の子どもの年齢別 / 女性 : n=全体466、小学生未満97、小学生51、子どもがいない1318

男性の休日の1日の過ごし方を一番下の子供の年齢別にみると、「仕事」では、どの世代も3～4時間でした。「家事」では小学生未満の子どもがいる方が最も長く2.4時間でした。子どもがいない方と比較すると、0.6時間長くなっています。「育児」では、小学生未満の子どもがいる方が最も長く4.8時間でした。子どもがいない方と比較すると、2.8時間長くなっています。「介護」では、小学生の子どもがいる方が最も長く6.0時間でした。「地域活動（PTAや町会、自治会活動などを含む）」は、子どもがいない方と小学生の子どもがいる方が最も長く、共に2.0時間でした。小学生未満の子どもがいる方と比較すると、1.4時間長くなっています。「趣味・自由活動」では、子どもがいない方が最も長く7.9時間でした。小学生未満の子どもがいる方と比較すると、4.4時間長くなっています。

図3 - 12 休日の1日の過ごし方【一番下の子どもの年齢別】 / 男性



一番下の子どもの年齢別 / 男性 : n=全体278、小学生未満34、小学生25、子どもがいない1219

問4 <結婚や出産に対する考え方>

最近では、家族のあり方が大きく変化しており、結婚や出産に対する考え方も多様化してきています。(ア)から(ケ)のそれぞれについてお答えください。

(それぞれひとつだけに)

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない
(ア) 結婚する・しないは個人の自由である				
(イ) 未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ				
(ウ) 「結婚しても子どもは持たない」というのもひとつの生き方だ				
(エ) 希望する者には夫婦別姓を認めてもよい				
(オ) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい				
(カ) 子育てには地域社会の支援も必要である				
(キ) 子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない				
(ク) 子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない				
(ケ) 女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい				

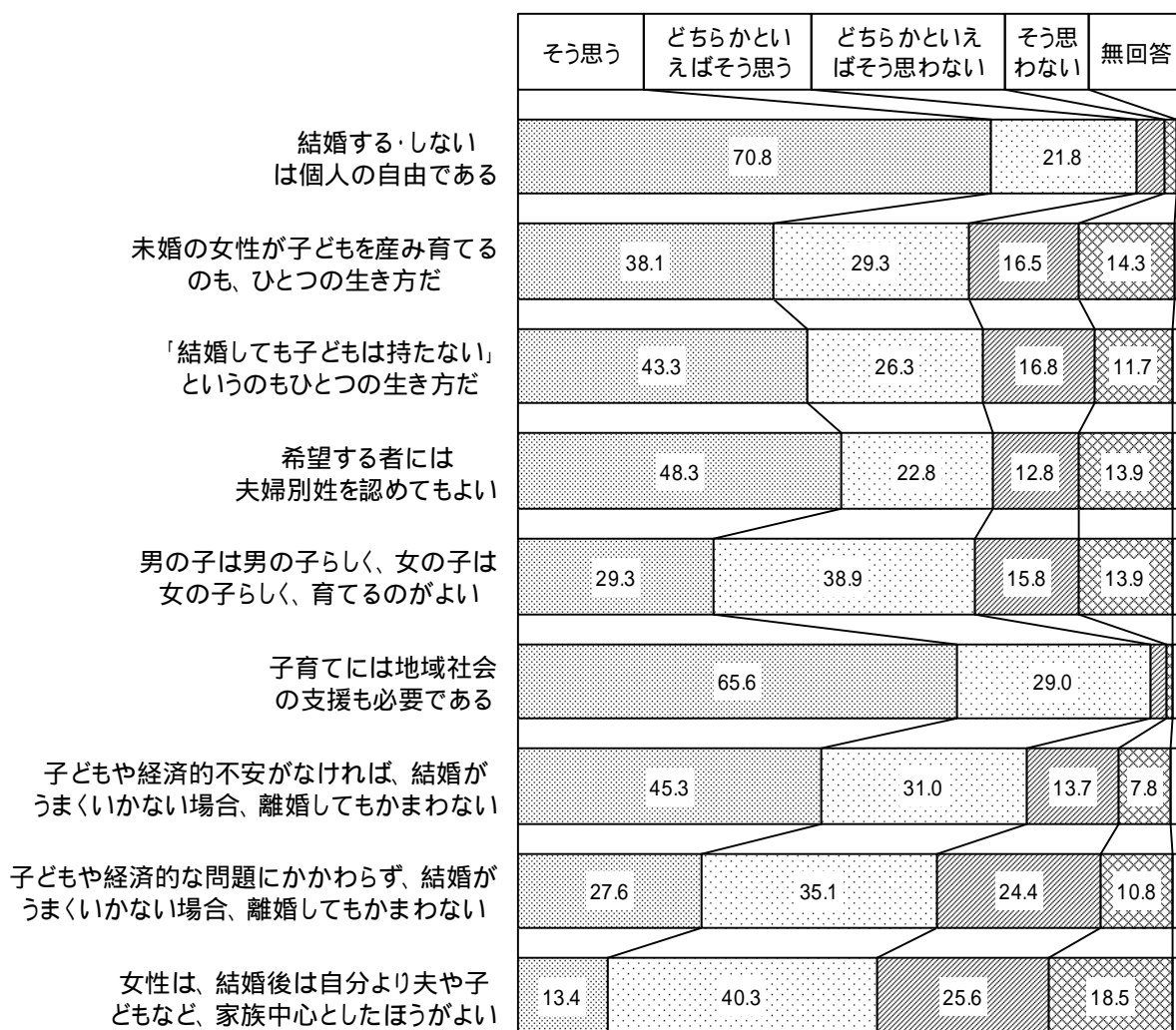
結婚や出産に対する考え方について、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのが、「結婚する・しないは個人の自由である」で70.8%、次いで、「子育てには地域社会の支援も必要である」が65.6%、「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」が48.3%でした。

一方、「どちらかといえばそう思わない」或いは「そう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのが、「女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい」で44.1%、次いで、「子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」が35.2%、「未婚女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ」が30.8%でした。

図4-1 結婚や出産に対する考え方

総数=1630

単位:%(5%未満非表示)



(注)5%未満数値:結婚する・しないは個人の自由である(4.0 1.9 1.4) 未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ(1.8) 「結婚しても子どもは持たない」というのもひとつの生き方だ(2.0) 希望する者には夫婦別姓を認めてもよい(2.1) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい(2.1) 子育てには地域社会の支援も必要である(2.3 1.2 2.0) 子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(2.3)子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(2.1) 女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい(2.2)

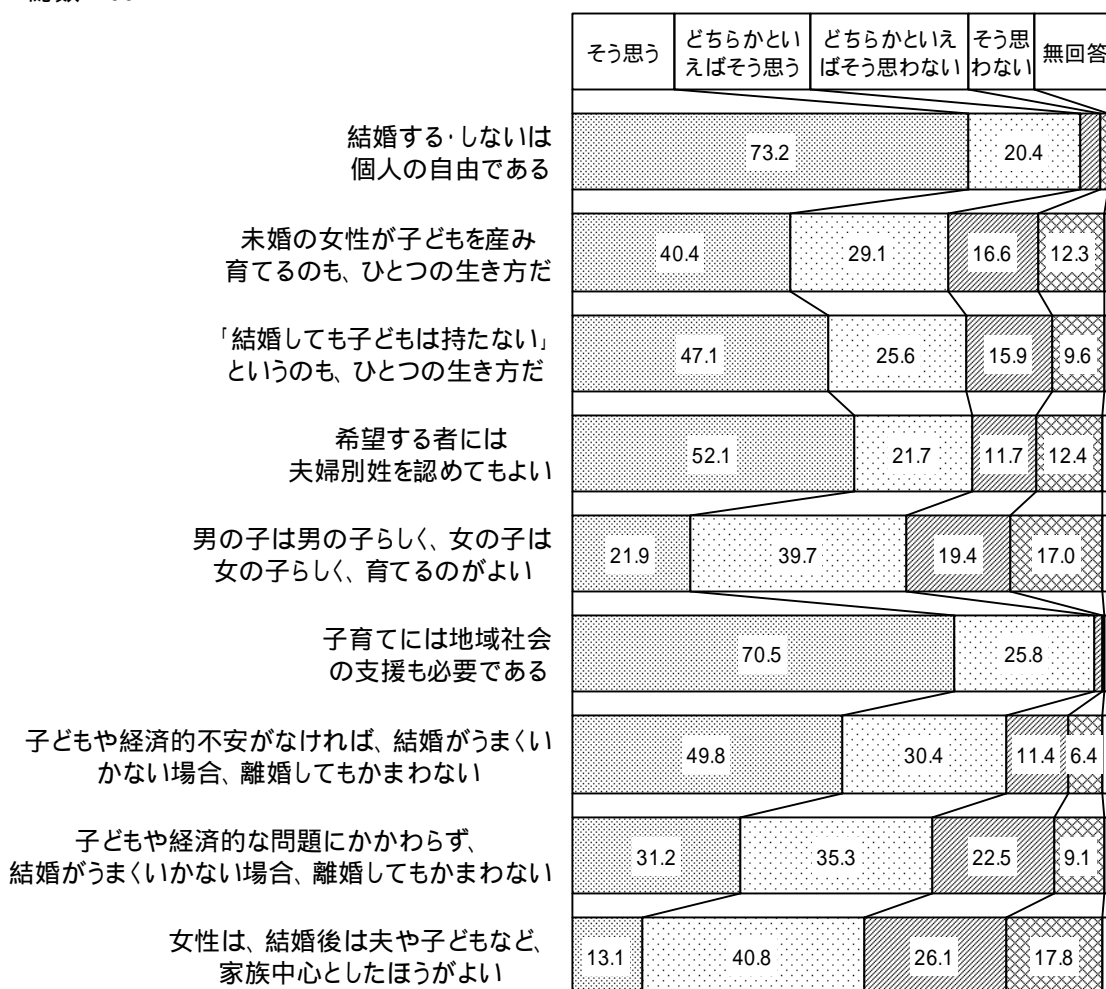
結婚や出産に対する考え方について、女性においては、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのが、「結婚する・しないは個人の自由である」で73.2%、次いで、「子育てには地域社会の支援も必要である」が70.5%、「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」が52.1%でした。「そう思う」或いは「どちらかといえばそう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは「子育てには地域社会の支援も必要である」で96.3%でした。

一方、「どちらかといえばそう思わない」或いは「そう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのが、「女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい」で43.9%、次いで、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい」が36.4%、「子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」が31.6%でした。

図4 - 2 結婚や出産に対する考え方 / 女性

総数=1001

単位:% (5%未満非表示)



(注)5%未満数値:結婚する・しないは個人の自由である(3.7 1.5 1.2)未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ(1.7)「結婚しても子どもは持たない」というのもひとつの生き方だ(1.9)希望する者には夫婦別姓を認めてもよい(2.1)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい(2.1)子育てには地域社会の支援も必要である(1.5 0.5 1.7)子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(2.1)子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(2.0)女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい(2.3)

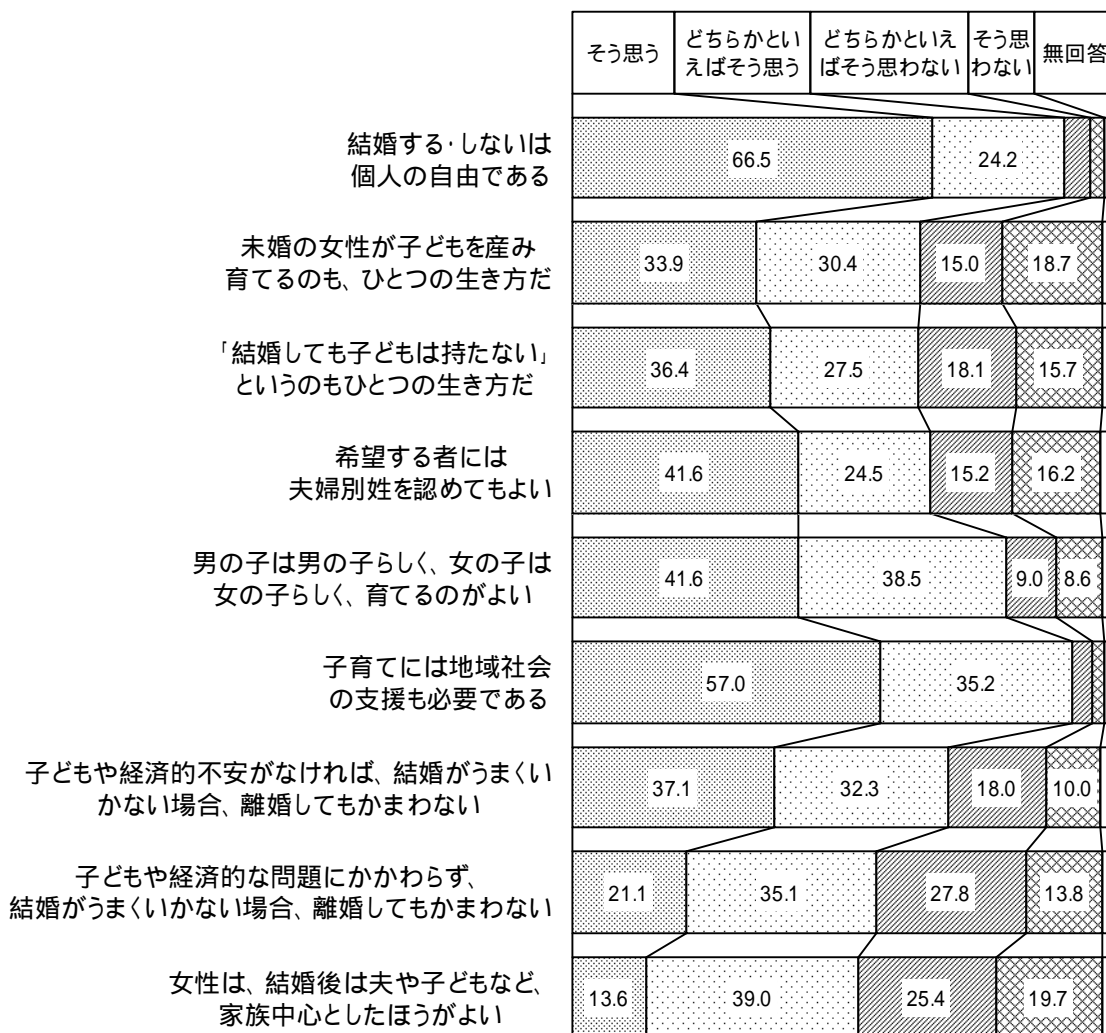
結婚や出産に対する考え方について、男性においては、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのが、「結婚する・しないは個人の自由である」で66.5%、次いで、「子育てには地域社会の支援も必要である」が57.0%、「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」と「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい」と回答した方の割合が共に41.6%でした。「そう思う」或いは「どちらかといえばそう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは「子育てには地域社会の支援も必要である」で92.2%でした。

一方、「どちらかといえばそう思わない」或いは「そう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのが、「女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい」で45.1%、次いで、「子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」が41.6%、「結婚しても子どもを持たない」というのもひとつの生き方だ」が33.8%でした。

図4-3 結婚や出産に対する考え方 / 男性

総数=579

単位:% (5%未満非表示)

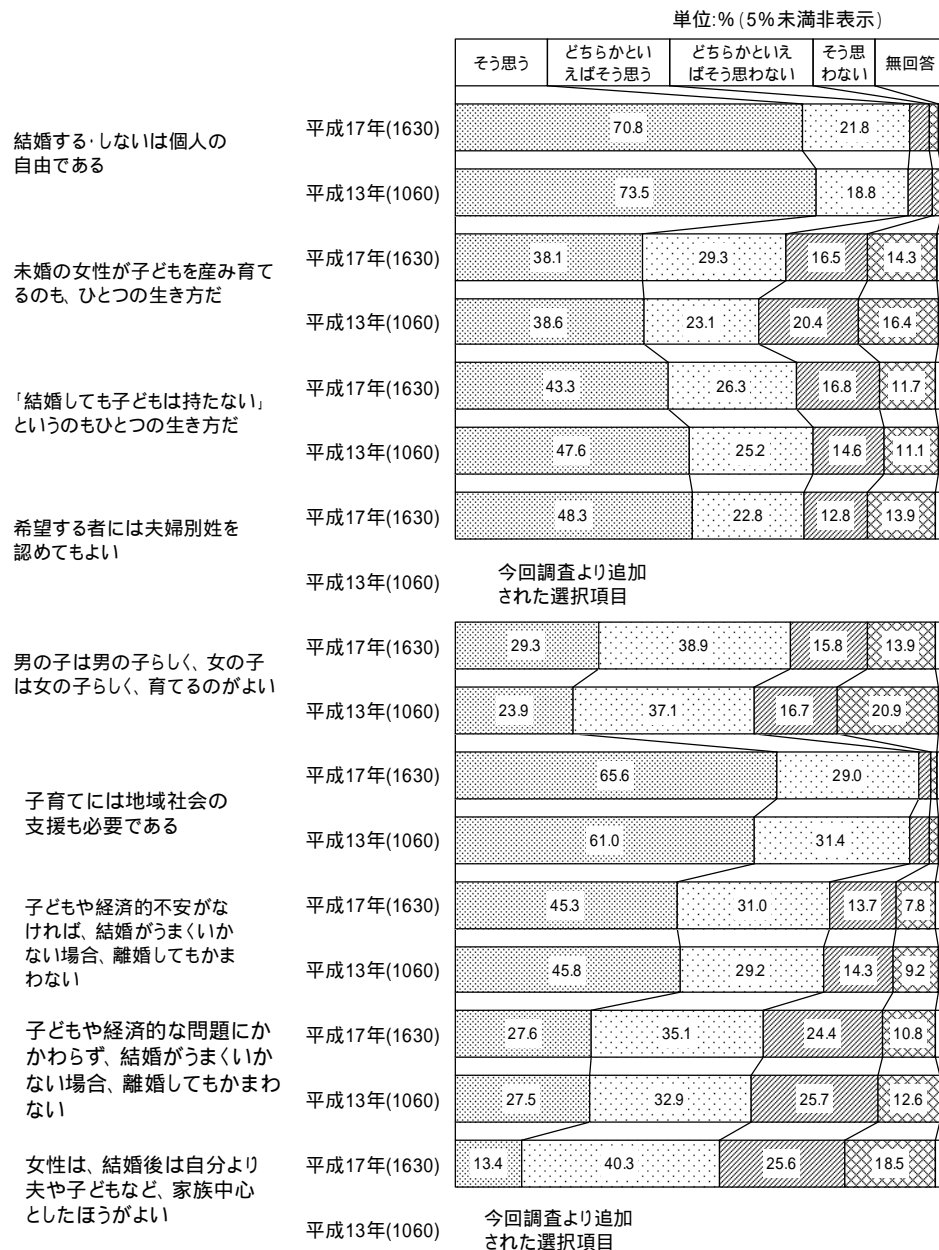


(注)5%未満数値:結婚する・しないは個人の自由である(4.8 2.6 1.9)未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ(2.1)「結婚しても子どもは持たない」というのもひとつの生き方だ(2.2)希望する者には夫婦別姓を認めてもよい(2.4)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい(2.2)子育てには地域社会の支援も必要である(3.6 2.2 1.9)子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(2.6)子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(2.2)女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい(2.2)

結婚や出産に対する考え方について、前回との比較をすると、「そう思う」或いは「どちらかといえばそう思う」と回答した方の割合の変化が最も大きかったのが、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい」で7.2%の増加、次いで、「未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ」が5.7%の増加、「子育てには地域社会の支援も必要である」が2.2%の増加、「結婚しても子どもを持たない」というのもひとつの生き方だ」が3.2%の減少でした。

一方、「どちらかといえばそう思わない」或いは「そう思わない」と回答した方の割合の変化が最も大きかったのが、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい」で7.9%の減少、次いで、「未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ」が6.0%の減少、「子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」が3.1%の減少でした。

図4 - 4 結婚や出産に対する考え方 / 前回との比較



(注)5%未満数値:結婚する・しないは個人の自由である・平成17年(4.0 1.9 1.4)平成13年(4.9 2.1 0.8)未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ・平成17年(1.8)平成13年(1.5)「結婚しても子どもを持たない」というのもひとつの生き方だ・平成17年(2.0)平成13年(1.4)希望する者には夫婦別姓を認めてもよい・平成17年(2.1)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい・平成17年(2.1)平成13年(1.4)子育てには地域社会の支援も必要である・平成17年(2.3 1.2 2.0)平成13年(4.2 1.9 1.4)子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない・平成17年(2.3)平成13年(1.5)子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない・平成17年(2.1)平成13年(1.3)女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい・平成17年(2.2)

結婚や出産に対する考え方について、結婚している方においては、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのが、「結婚する・しないは個人の自由である」で66.9%、次いで、「子育てには地域社会の支援も必要である」が66.7%、「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」が44.7%でした。「そう思う」或いは「どちらかといえばそう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは「子育てには地域社会の支援も必要である」で95.0%でした。

一方、「どちらかといえばそう思わない」或いは「そう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのが、「女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心とした方がよい」で40.5%、次いで、「未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ」、「子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」が共に34.6%でした。

図4-5 結婚や出産に対する考え方 / 結婚の有無別 / 結婚している

総数=1074

単位:% (5%未満非表示)

	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思 わない	無回答
結婚する・しないは個人の自由である		66.9		24.4	
未婚の女性が子どもを産み育てるのも、 ひとつの生き方だ	32.9		30.5	17.4	17.2
「結婚しても子どもは持たない」というのも ひとつの生き方だ	38.1		27.1	18.6	14.0
希望する者には夫婦別姓を認めてもよい	44.7		23.1	14.3	15.5
男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく 育てるのがよい	30.8		39.6	14.5	12.8
子育てには地域社会の支援も必要である		66.7		28.3	
子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくい かない場合、離婚してもかまわない	43.2		31.8	14.9	7.8
子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうま くいかない場合、離婚してもかまわない	26.5		36.5	23.6	11.0
女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心と したほうがよい	13.8		43.5	24.4	16.1

(注)5%未満数値:結婚する・しないは個人の自由である(4.9 2.0 1.7)未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ(2.0)「結婚しても子どもは持たない」というのもひとつの生き方だ(2.2)希望する者には夫婦別姓を認めてもよい(2.3)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい(2.2)子育てには地域社会の支援も必要である(2.0 1.2 1.9)子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(2.3)子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(2.4)女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい(2.2)

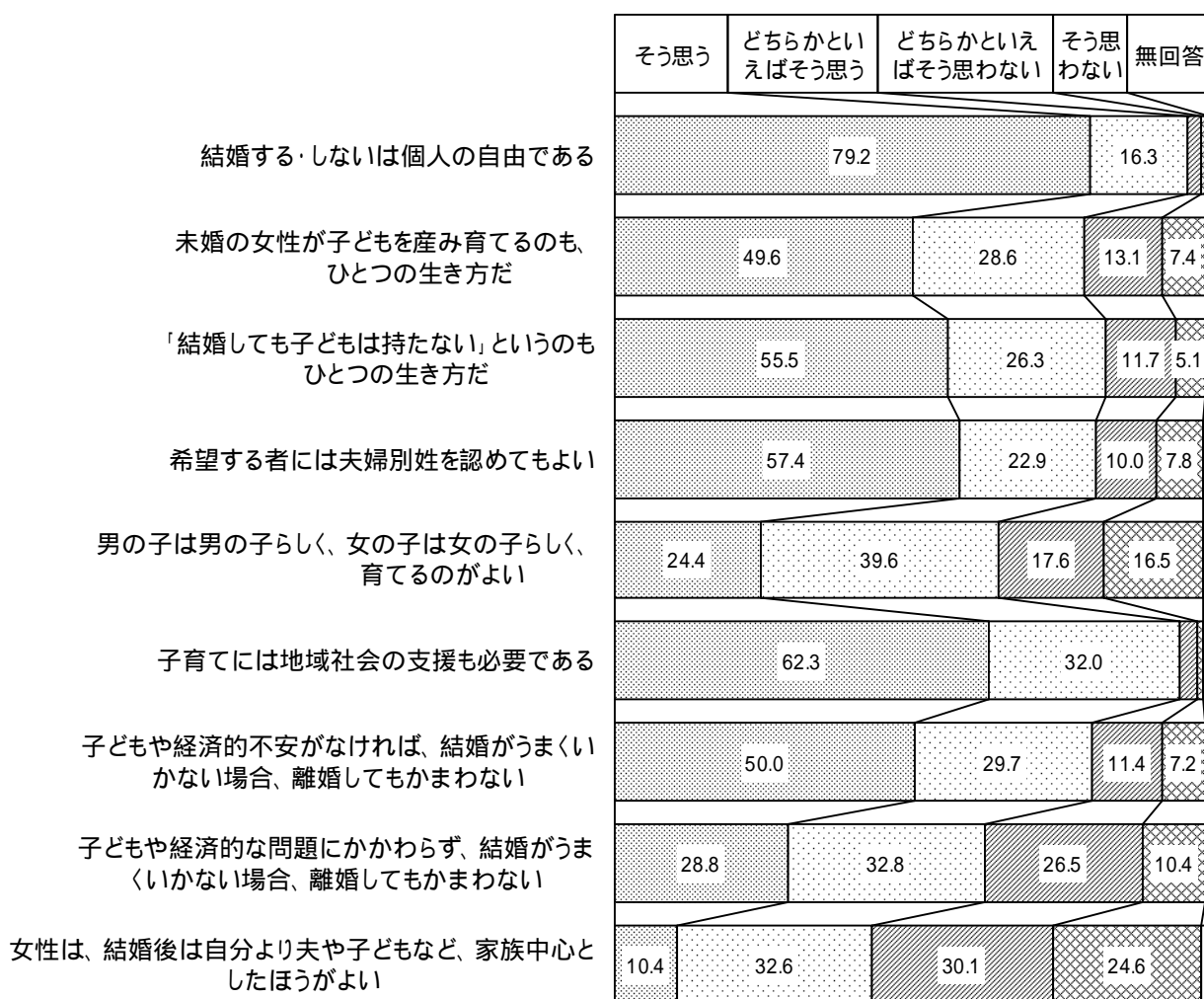
結婚や出産に対する考え方について、結婚していない方においては、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのが、「結婚する・しないは個人の自由である」で79.2%、次いで、「子育てには地域社会の支援も必要である」が62.3%、「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」が57.4%でした。「そう思う」或いは「どちらかといえばそう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは「結婚する・しないは個人の自由である」で95.5%でした。

一方、「どちらかといえばそう思わない」或いは「そう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのが、「女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心とした方がよい」で54.7%、次いで、「子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」で36.9%でした。

図4 - 6 結婚や出産に対する考え方 / 結婚の有無別 / 結婚していない

総数=472

単位:% (5%未満非表示)



(注)5%未満数値:結婚する・しないは個人の自由である(2.1 1.3 1.1)未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ(1.3)「結婚しても子どもは持たない」というのもひとつの生き方だ(1.5)希望する者には夫婦別姓を認めてもよい(1.9)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい(1.9)子育てには地域社会の支援も必要である(2.8 1.1 1.9)子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(1.7)子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(1.5)女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい(2.3)

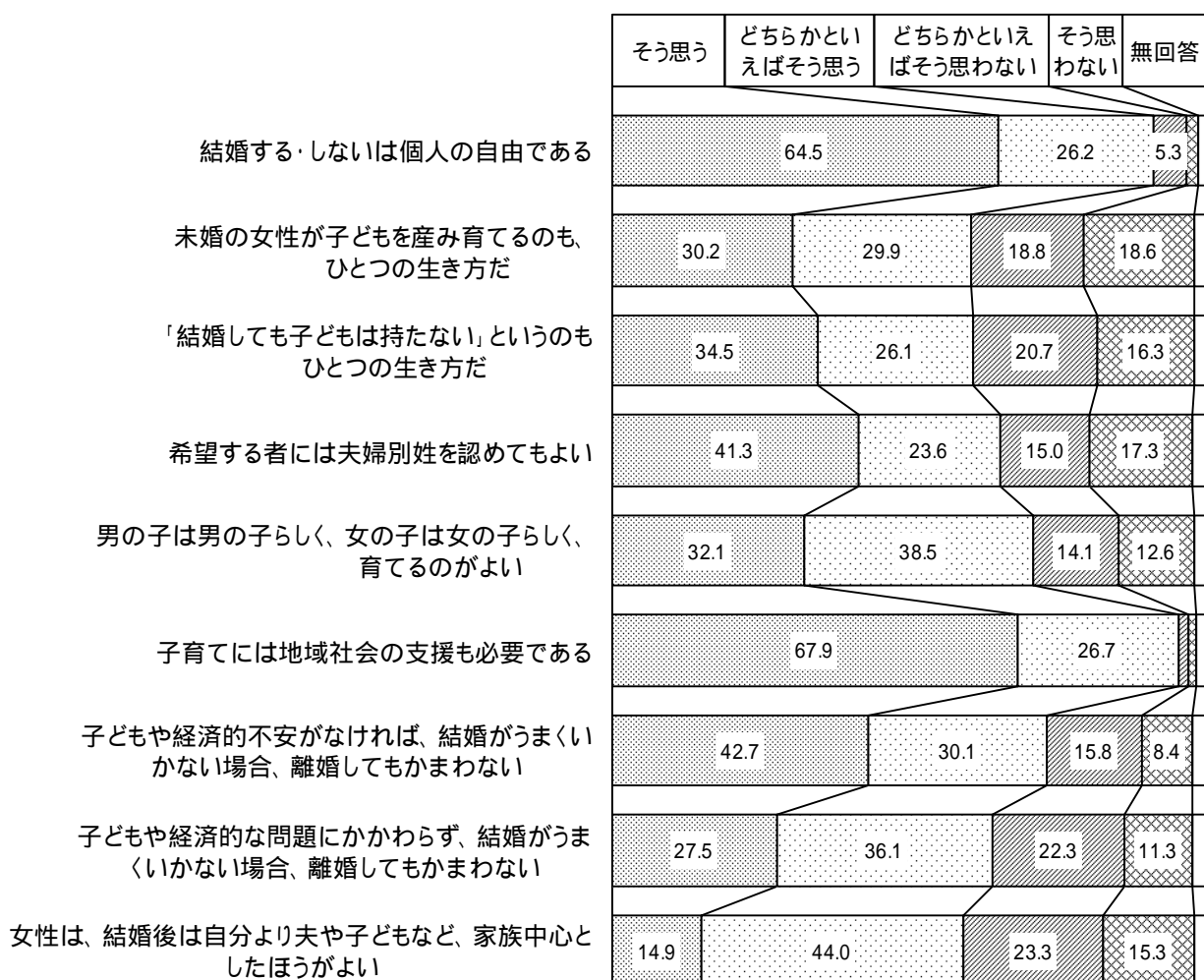
結婚や出産に対する考え方について、子どもがいる方の回答では、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのが、「子育てには地域社会の支援も必要である」で67.9%、次いで、「結婚する・しないは個人の自由である」が64.5%、「子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」が42.7%でした。「そう思う」或いは「どちらかといえばそう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは、「子育てには地域社会の支援も必要である」で94.6%でした。

一方、「どちらかといえばそう思わない」或いは「そう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのが、「女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心とした方がよい」で38.6%、次いで、「未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ」が37.4%、「結婚しても子どもは持たない」というのもひとつの生き方だ」が37.0%でした。

図4 - 7 結婚や出産に対する考え方 / 子どもの有無別 / 子どもがいる

総数=920

単位:% (5%未満非表示)



(注)5%未満数値:結婚する・しないは個人の自由である(2.1)2.0)未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ(2.5)「結婚しても子どもは持たない」というのもひとつの生き方だ(2.5)希望する者には夫婦別姓を認めてもよい(2.8)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい(2.7)子育てには地域社会の支援も必要である(1.7)1.2)2.4)子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(3.0)子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(2.8)女性は、結婚後は夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい(2.5)

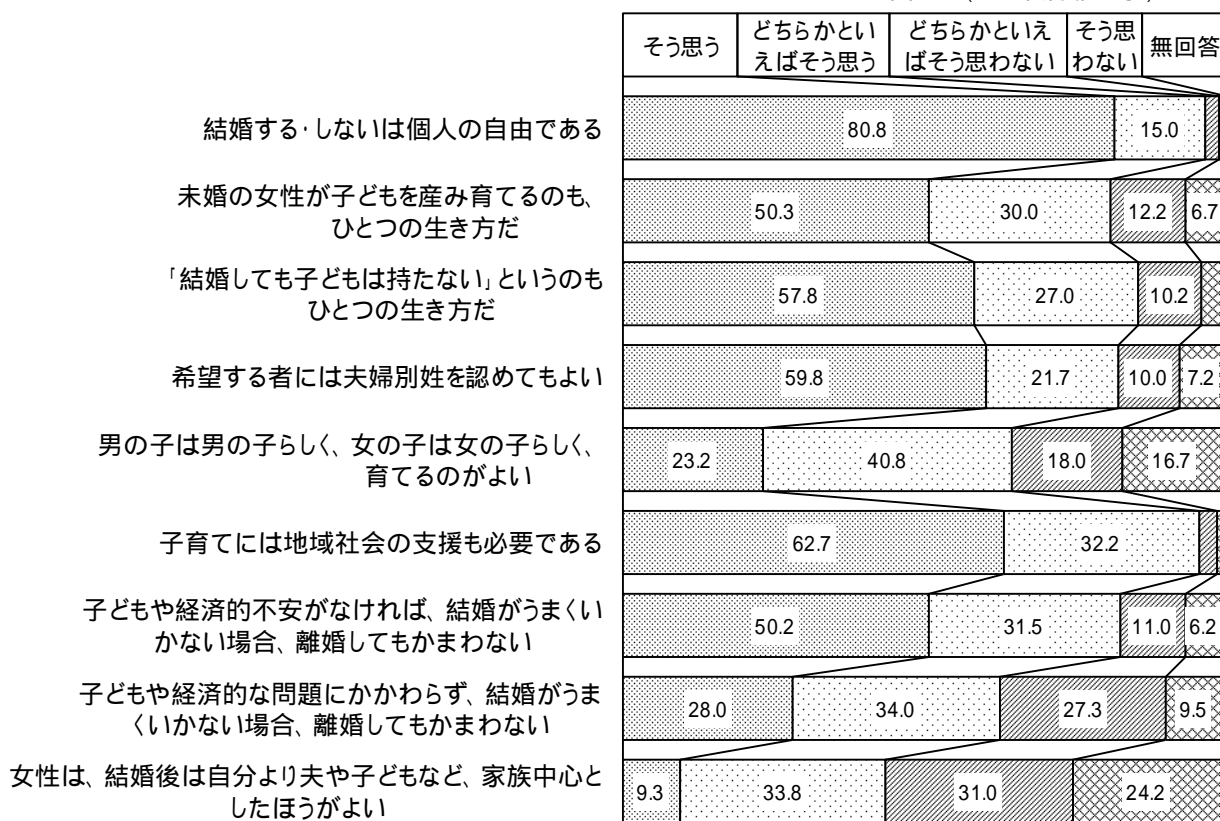
結婚や出産に対する考え方について、子どもがいない方の回答では、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのが、「結婚する・しないは個人の自由である」で80.8%、次いで、「子育てには地域社会の支援も必要である」が62.7%、「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」が59.8%でした。「そう思う」或いは「どちらかといえばそう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは「結婚する・しないは個人の自由である」で95.8%でした。

一方、「どちらかといえばそう思わない」或いは「そう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのが、「女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい」で55.2%、次いで、「子どもや経済的問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」が36.8%、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい」が34.7%でした。

図4 - 8 結婚や出産に対する考え方 / 子どもの有無別 / 子どもがいない

総数=600

単位: % (5%未満非表示)



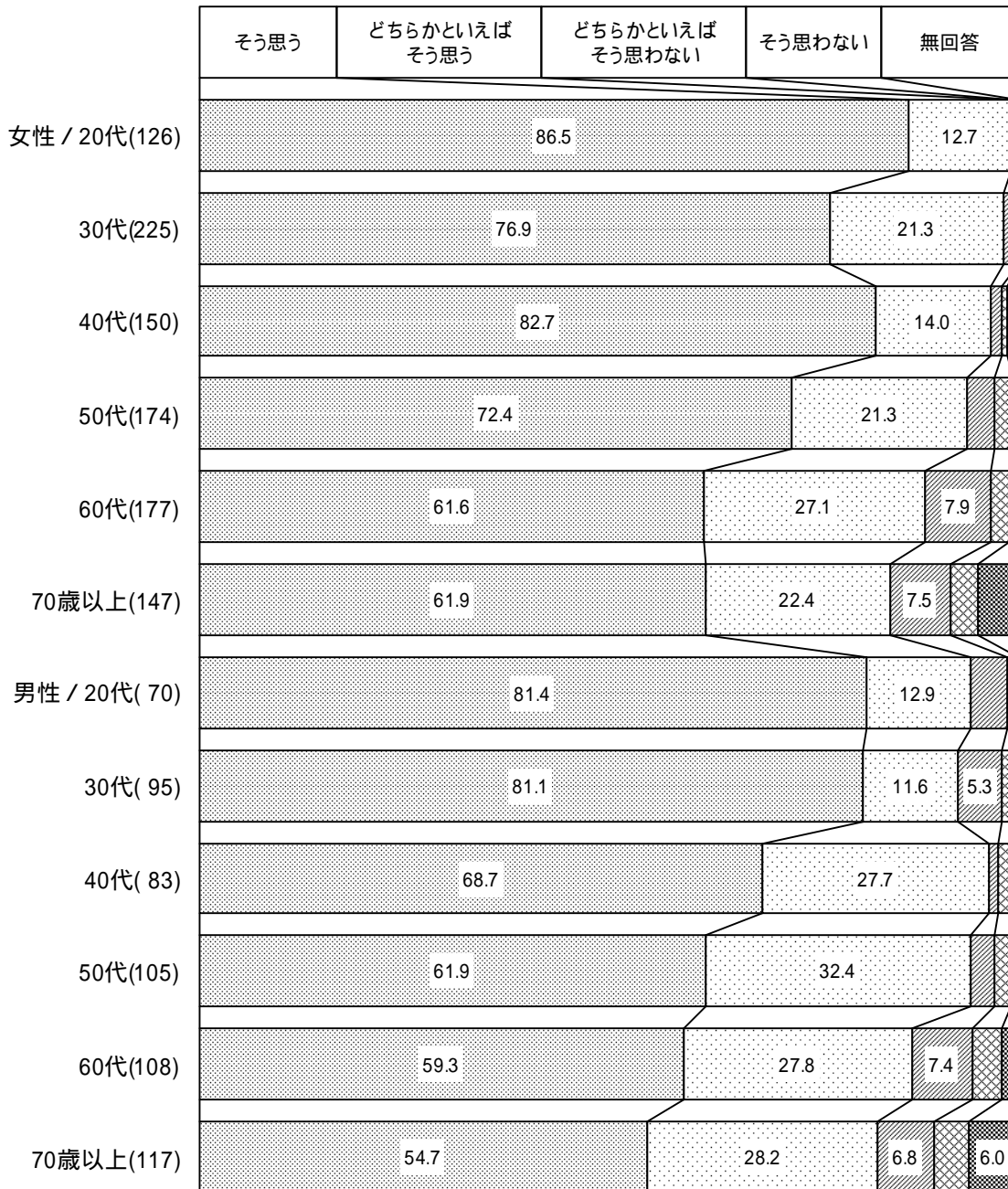
(注)5%未満数値:結婚する・しないは個人の自由である(2.2 1.3 0.7)未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ(0.8)「結婚しても子どもは持たない」というのもひとつの生き方だ(3.7 1.3)希望する者には夫婦別姓を認めてもよい(1.3)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい(1.3)子育てには地域社会の支援も必要である(2.8 1.2 1.2)子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(1.2)子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(1.2)女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい(1.7)

「結婚する・しないは個人の自由である」に対する考え方について、性別・年代別にみると、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では、20代で86.5%、男性では、20代で81.4%でした。

一方、「そう思わない」或いは「どちらかといえばそう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では70歳以上で10.9%、男性では60代、70歳以上で共に11.1%でした。

図4-9 結婚や出産に対する考え方(ア)結婚する・しないは個人の自由である / 性別・年代別

単位:% (5%未満非表示)



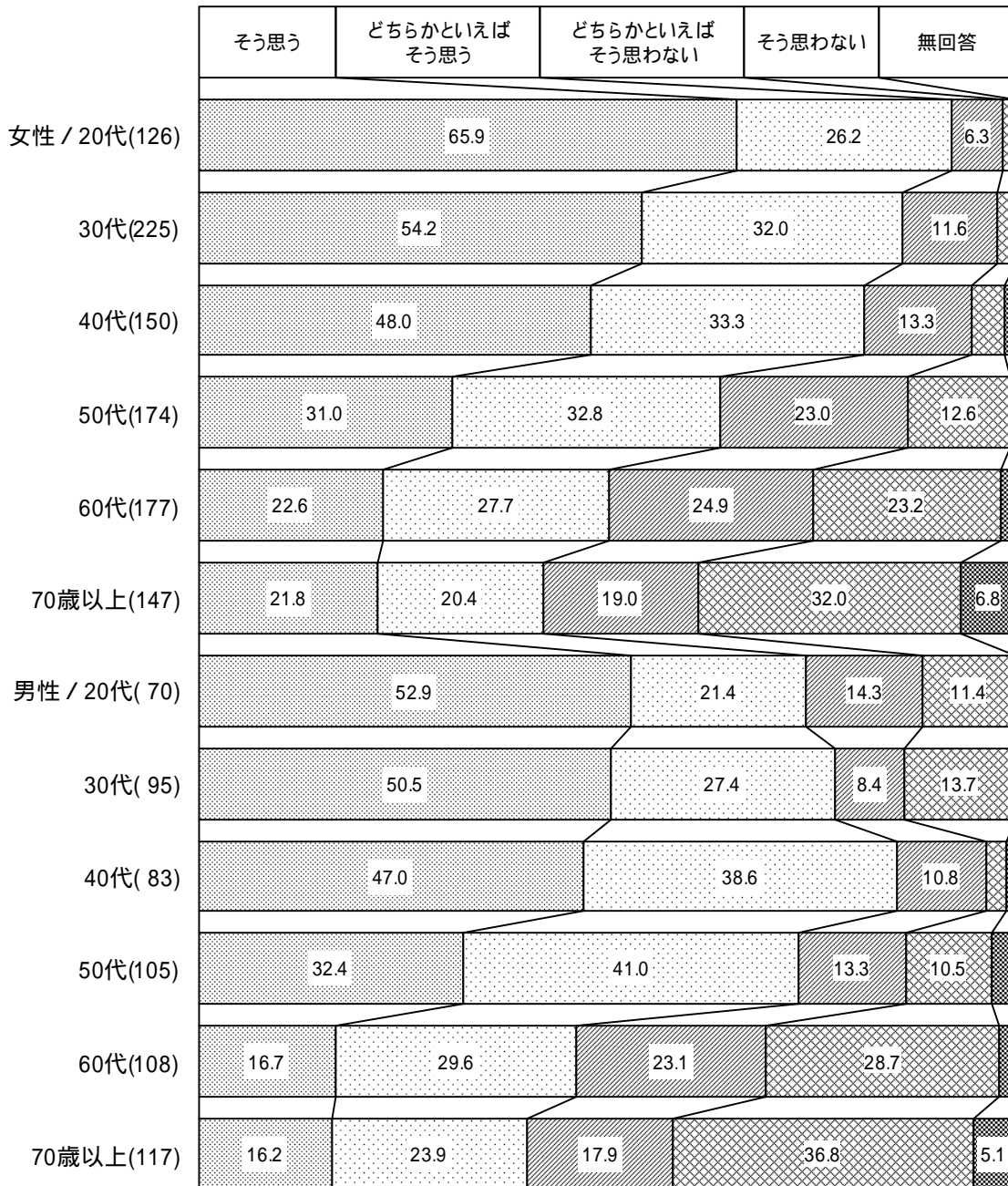
(注)5%未満数値:女性/20代(0.0 0.8 0.0)30代(1.8 0.0 0.0)40代(1.3 0.7 1.3)50代(3.4 2.3 0.6)60代(2.3 1.1)70歳以上(3.4 4.8)男性/20代(4.3 1.4 0.0)30代(2.1 0.0)40代(1.2 1.2 1.2)50代(2.9 1.9 1.0)60代(3.7 1.9)70歳以上(4.3)

「未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ」に対する考え方について、性別・年代別にみると、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では、20代で65.9%、男性では、20代で52.9%でした。

一方、「そう思わない」或いは「どちらかといえばそう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では70歳以上で51.0%、男性では70歳以上で54.7%でした。

図4 - 10 結婚や出産に対する考え方(イ)未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ / 性別・年代別

単位:% (5%未満非表示)



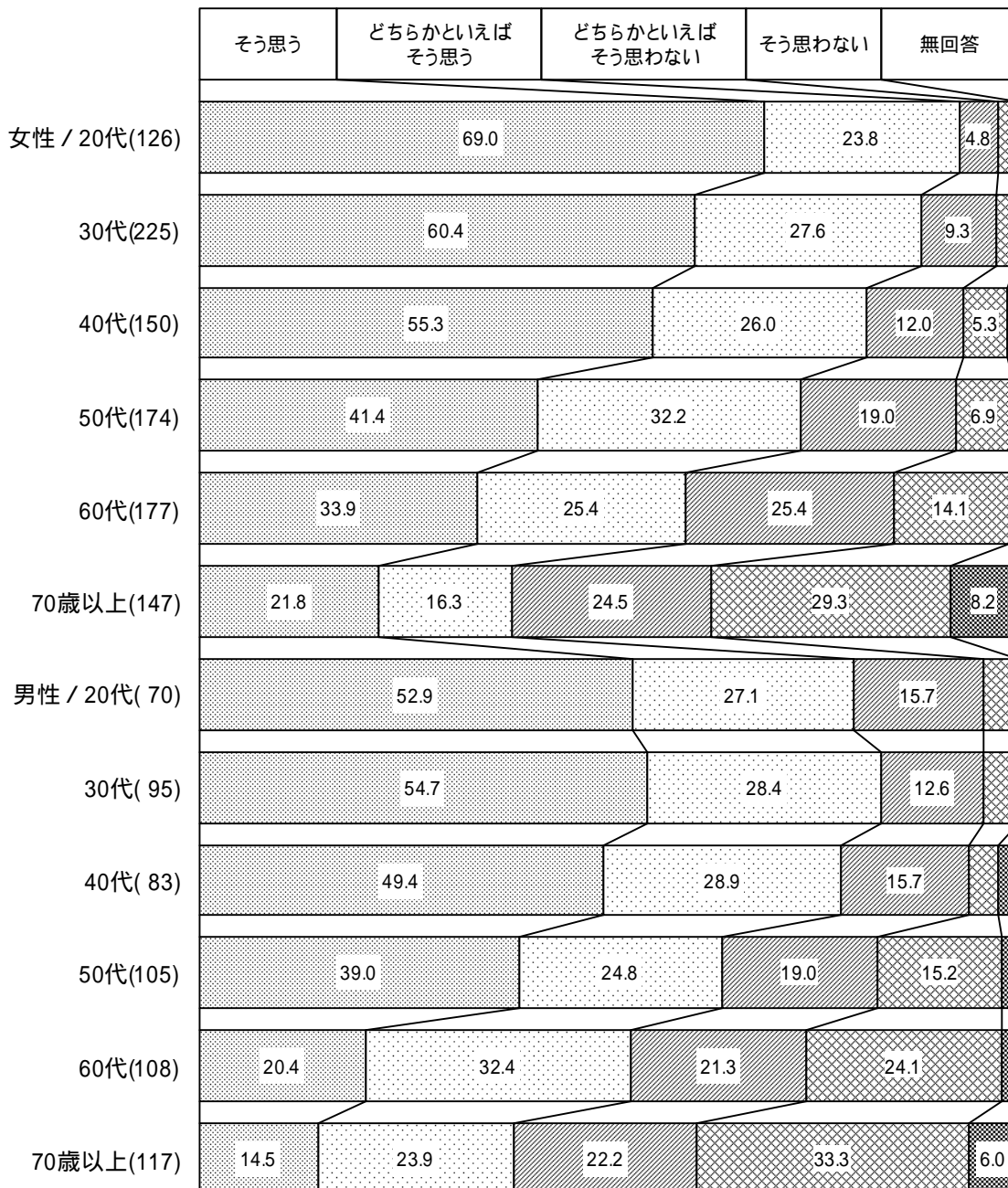
(注)5%未満数値:女性 / 20代(1.6 0.0)30代(2.2 0.0)40代(4.0 1.3)50代(0.6)60代(1.7)男性 / 20代(0.0)30代(0.0)40代(2.4 1.2)50代(2.9)60代(1.9)

「結婚しても子どもは持たない」というのも、ひとつの生き方だ」という考え方について、性別・年代別にみると、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では、20代で69.0%、男性では、30代で54.7%でした。

一方、「そう思わない」或いは「どちらかといえばそう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では70歳以上で53.8%、男性では70歳以上で55.5%でした。

図4 - 11 結婚や出産に対する考え方(ウ)「結婚しても子どもは持たない」というのもひとつの生き方だ / 性別・年代別

単位:% (5%未満非表示)



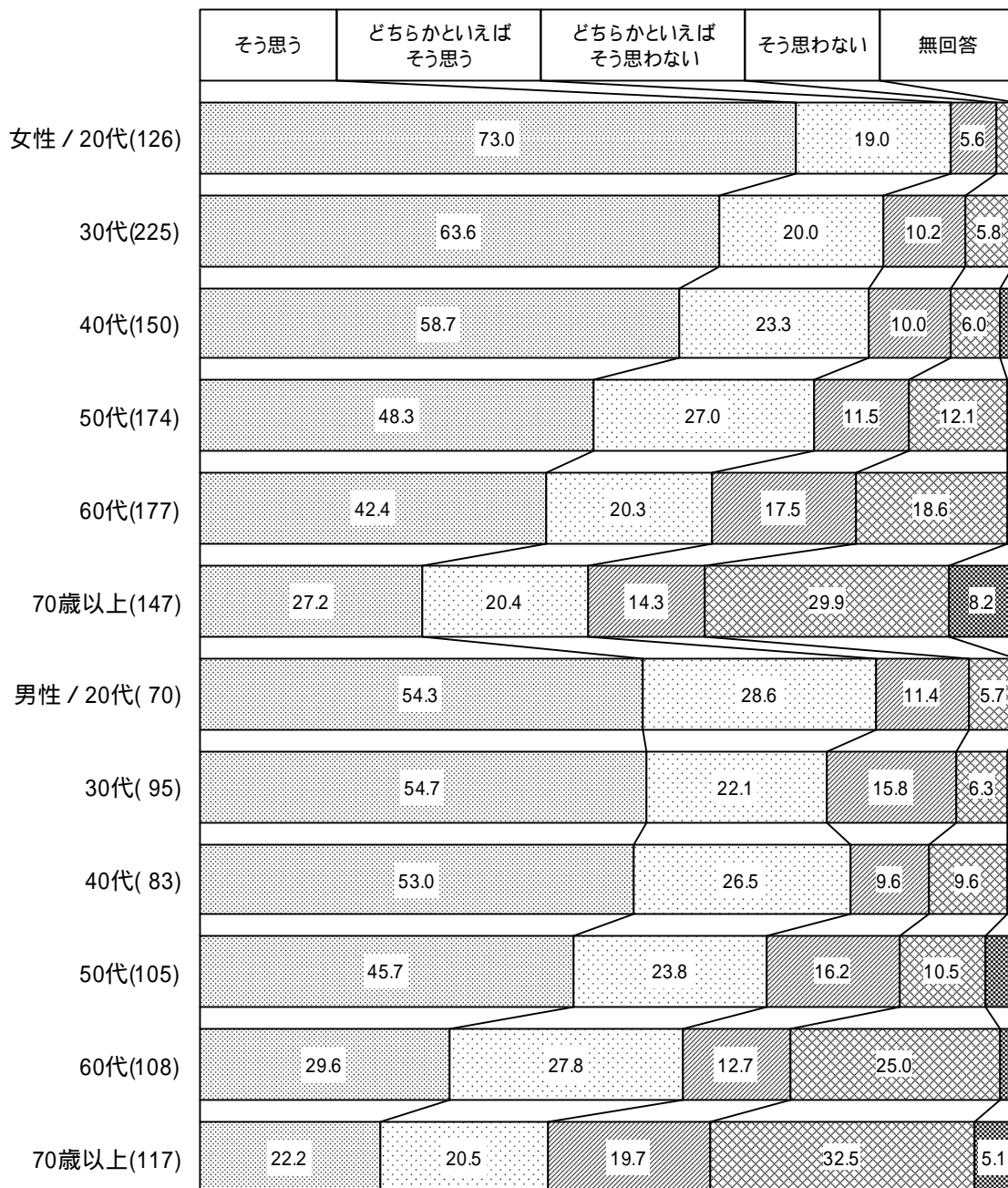
(注)5%未満数値:女性/20代(4.8 2.4 0.0)30代(2.2 0.4)40代(1.3)50代(0.6)60代(1.1)男性/20代(4.3 0.0)30代(4.2 0.0)40代(3.6 2.4)50代(1.9)60代(1.9)

「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」という考え方について、性別・年代別にみると、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では、20代で73.0%、男性では、30代で54.7%でした。

一方、「そう思わない」或いは「どちらかといえばそう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では70歳以上で44.2%、男性では70歳以上で32.5%でした。

図4 - 12 結婚や出産に対する考え方(エ)希望する者には夫婦別姓を認めてもよい / 性別・年代別

単位:% (5%未満非表示)



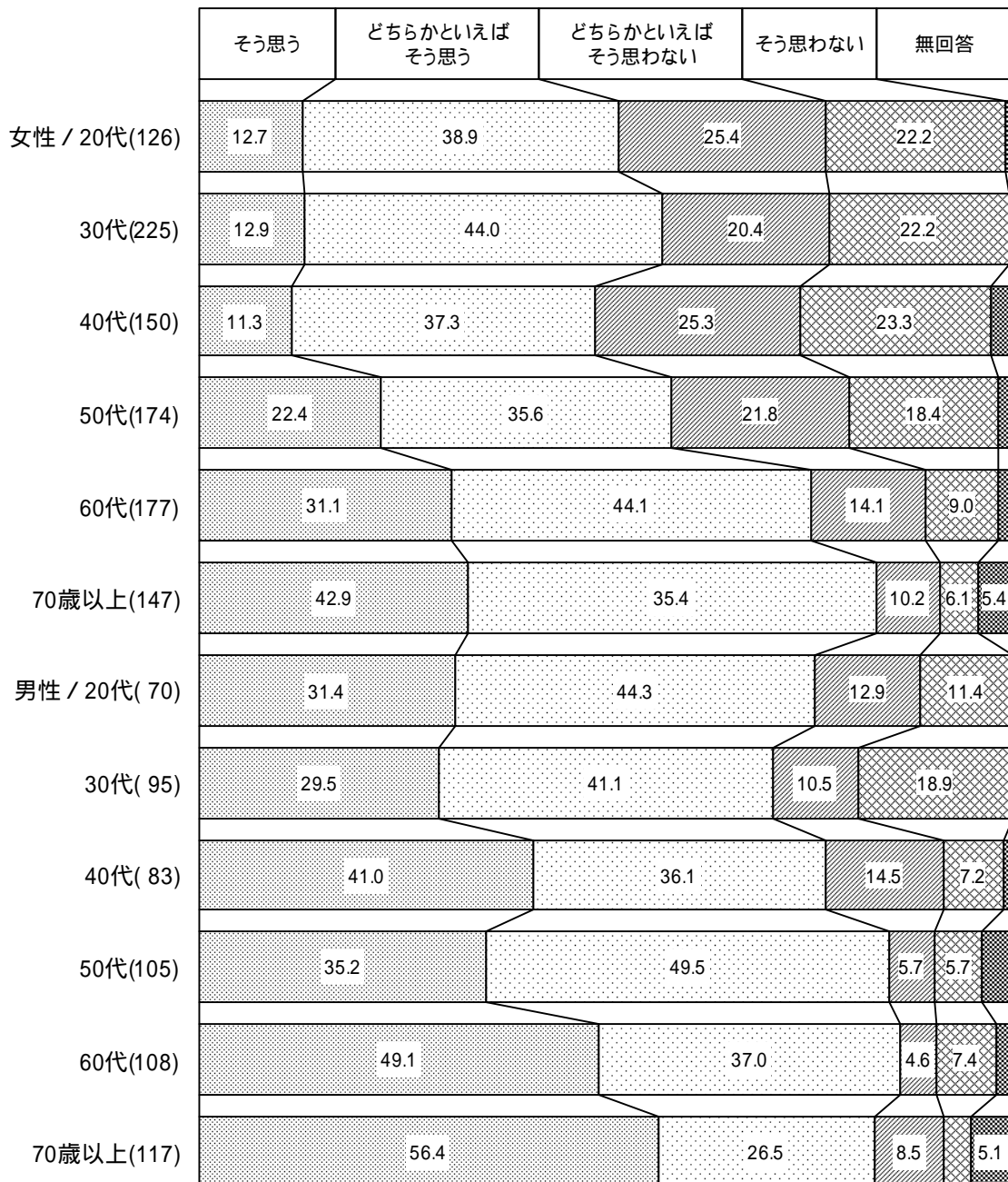
(注)5%未満数値: 女性 / 20代(2.4)30代(0.4)40代(2.0)50代(1.1)60代(1.1)男性 / 20代(0.0)30代(1.1)40代(1.2)50代(3.8)60代(1.9)

「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい」という考え方について、性別・年代別にみると、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では、70歳以上で42.9%、男性では、70歳以上で56.4%でした。

一方、「そう思わない」或いは「どちらかといえばそう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では40代で48.6%、男性では30代で29.5%でした。

図4 - 13 結婚や出産に対する考え方(オ)男の子は男の子らしく、
女の子は女の子らしく、育てるのがよい / 性別・年代別

単位:% (5%未満非表示)

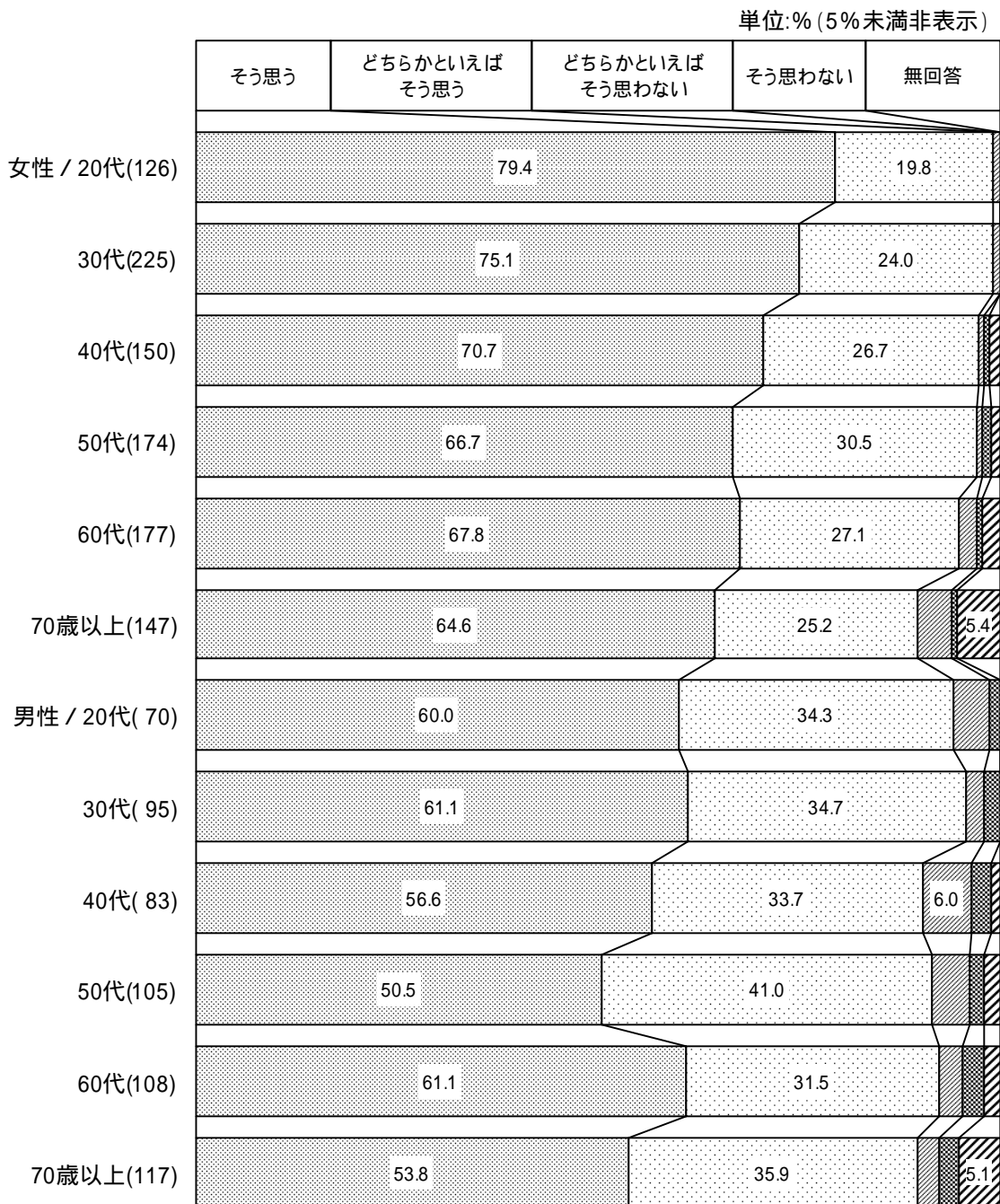


(注)5%未満数値:女性 / 20代(0.8)30代(0.4)40代(2.7)50代(1.7)60代(1.7)男性 / 20代(0.0)30代(0.0)40代(1.2)50代(3.8)60代(1.9)70歳以上(3.4)

「子育てには地域社会の支援も必要である」という考え方について、性別・年代別にみると、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では、20代で79.4%、男性では、30代と60代で共に61.1%でした。

一方、「そう思わない」或いは「どちらかといえばそう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では70歳以上で4.8%、男性では40代で8.4%でした。

図4 - 14 結婚や出産に対する考え方(カ)子育てには地域社会の支援も必要である / 性別・年代別

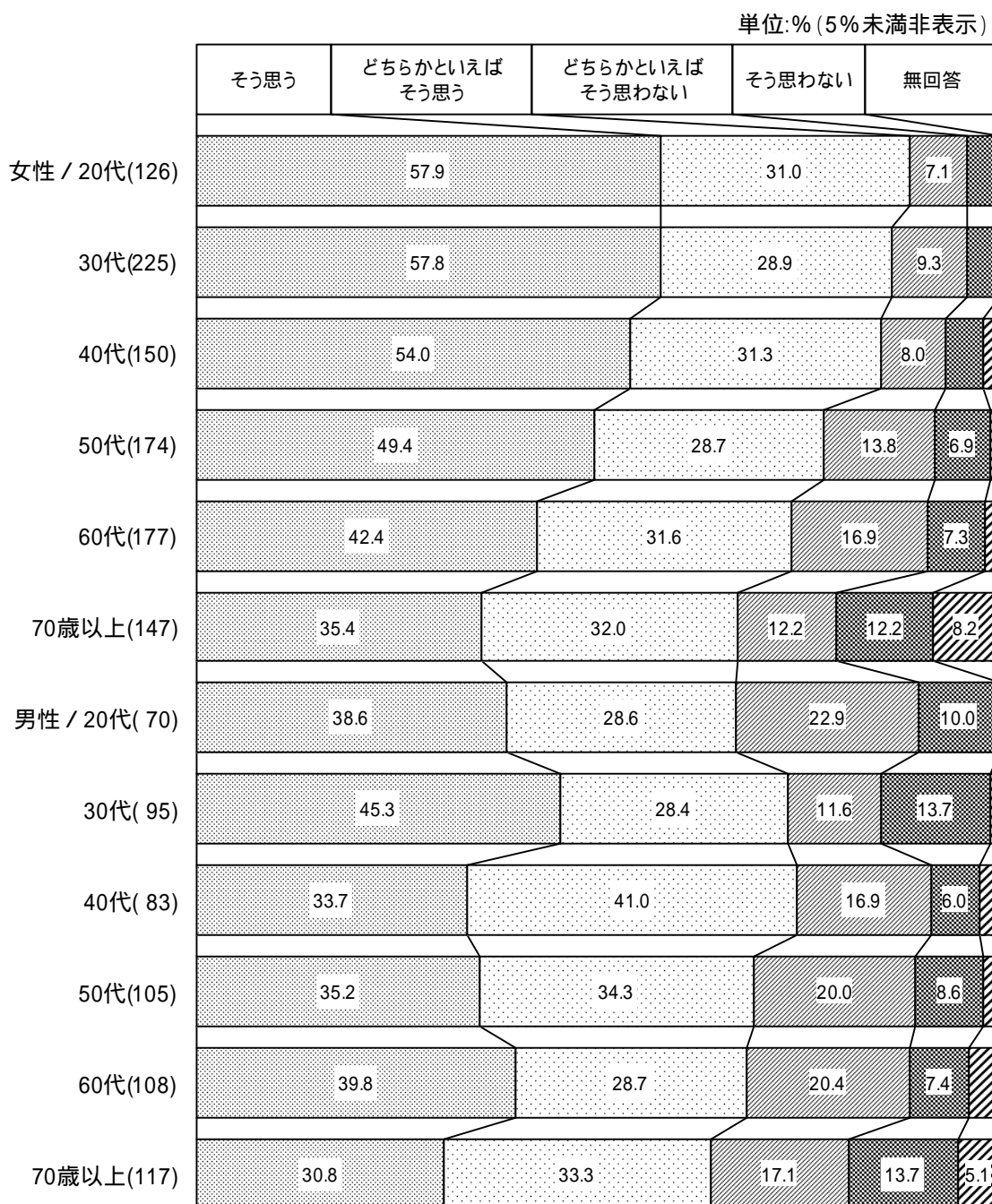


(注)5%未満数値:女性 / 20代(0.8 0.0 0.0)30代(0.9 0.0 0.0)40代(0.7 0.7 1.3)50代(0.6 1.1 1.1)60代(2.3 0.6 2.3)70歳以上(4.1 0.7)男性 / 20代(4.3 1.4 0.0)30代(2.1 2.1 0.0)40代(2.4 1.2)50代(4.8 1.9 1.9)60代(2.8 2.8 1.9)70歳以上(2.6 2.6)

「子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」という考え方について、性別・年代別にみると、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では、20代で57.9%、男性では、30代で45.3%でした。

一方、「そう思わない」或いは「どちらかといえばそう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では70歳以上で24.4%、男性では20代で32.9%でした。

図4 - 15 結婚や出産に対する考え方(キ)子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない / 性別・年代別

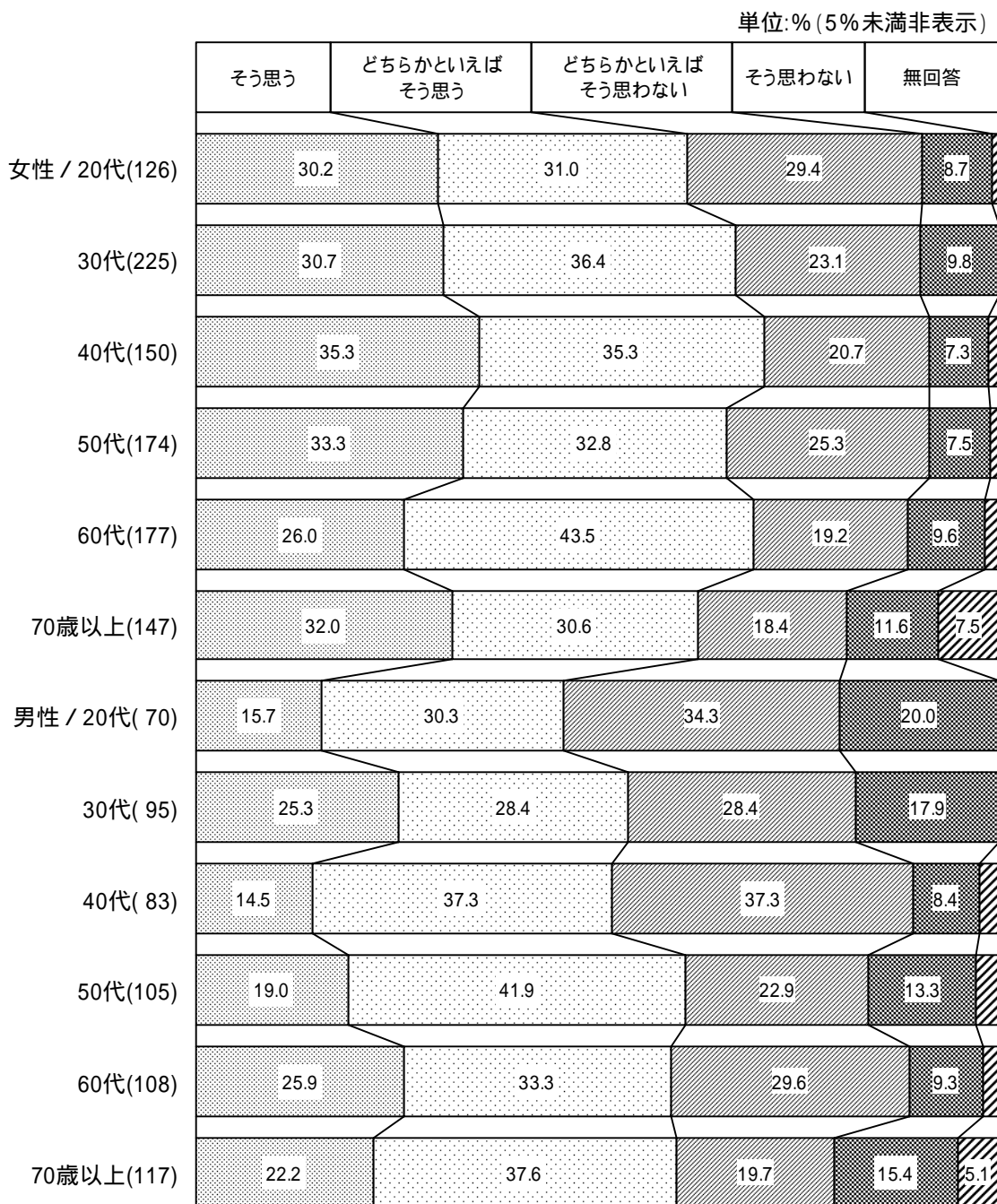


(注)5%未満数値:女性 / 20代(4.0)30代(4.0)40代(4.7)50代(1.1)60代(1.7)男性 / 20代(0.0)30代(1.1)40代(2.4)50代(1.9)60代(3.7)

「子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」という考え方について、性別・年代別にみると、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では、40代で35.3%、男性では、60代で25.9%でした。

一方、「そう思わない」或いは「どちらかといえばそう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では20代で38.1%、男性では20代で54.3%でした。

図4 - 16 結婚や出産に対する考え方(ク)子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない / 性別・年代別

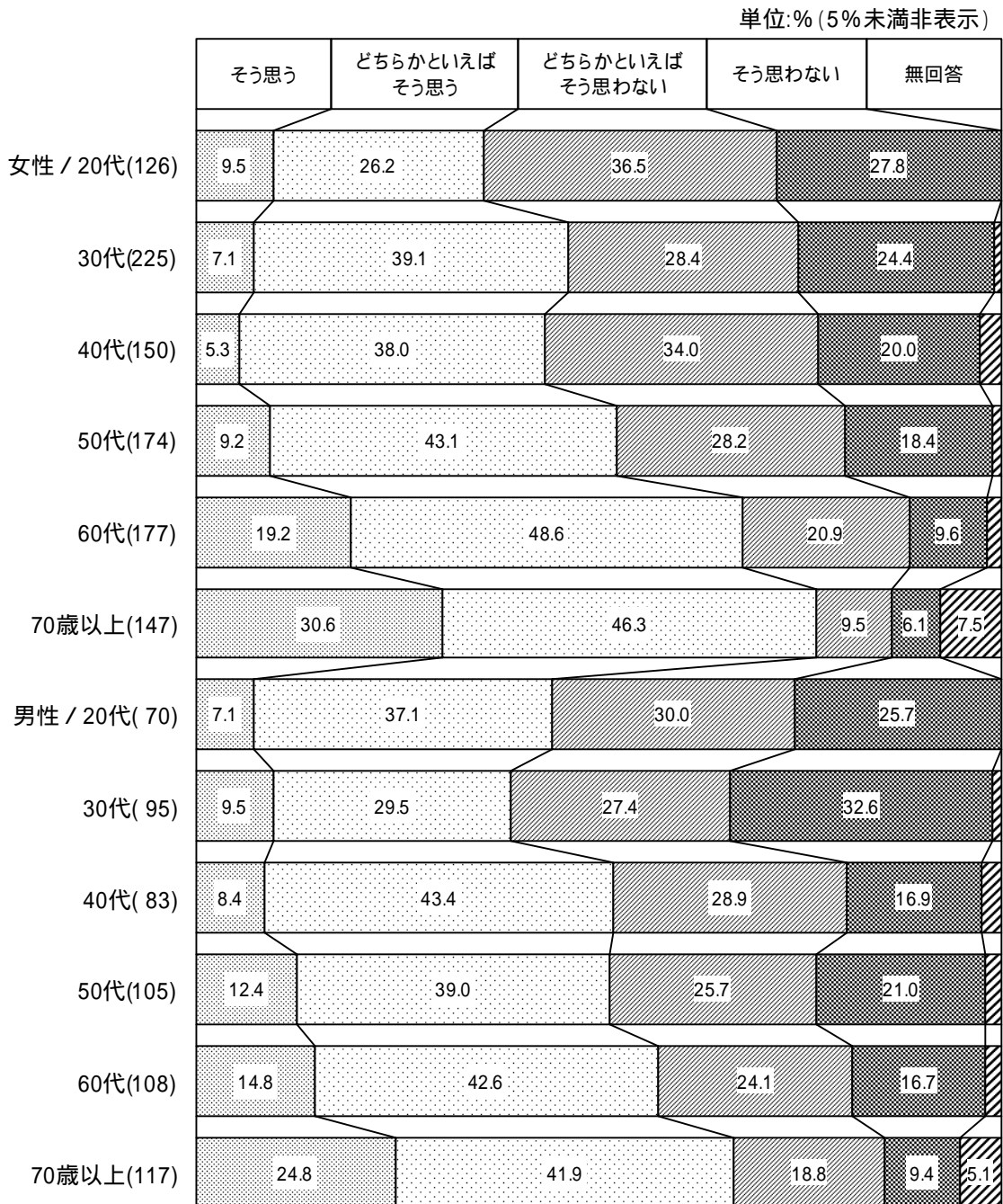


(注)5%未満数値: 女性 / 20代(0.8)30代(0.0)40代(1.3)50代(1.1)60代(1.7)男性 / 20代(0.0)30代(0.0)40代(2.4)50代(2.9)60代(1.9)

「女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい」という考え方について、性別・年代別にみると、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では、70歳以上で30.6%、男性では、70歳以上で24.8%でした。

一方、「そう思わない」或いは「どちらかといえばそう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では20代で64.3%、男性では30代で60.0%でした。

図4 - 17 結婚や出産に対する考え方(ケ)女性、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい / 性別・年代別



(注)5%未満数値: 女性 / 20代(0.0)30代(0.9)40代(2.7)50代(1.1)60代(1.7)男性 / 20代(0.0)30代(1.1)40代(2.4)50代(1.9)60代(1.9)

結婚や出産に対する考え方について、「男は仕事、女は家庭」に「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方の回答傾向をみると、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのが、「結婚する・しないは個人の自由である」で63.9%、次いで、「子育てには地域社会の支援も必要である」が62.4%、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい」が43.6%でした。「そう思う」或いは「どちらかといえばそう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは「子育てには地域社会の支援も必要である」で94.3%でした。

一方、「どちらかといえばそう思わない」或いは「そう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのが、「未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ」で41.1%、次いで、「子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」で40.9%でした。

図4 - 18 結婚や出産についての考え方 / 「男は仕事、女は家庭」に「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方の、回答傾向
単位:% (5%未満非表示)

総数=692

	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思 わない	無回答
結婚する・しない は個人の自由である	63.9		27.0	5.8	
未婚の女性が子どもを産み 育てるのも、ひとつの生き方だ	27.0	30.2	19.7	21.4	
「結婚しても子どもは持たない」 というのもひとつの生き方だ	30.1	28.9	22.3	16.9	
希望する者には 夫婦別姓を認めてもよい	36.1	22.7	17.5	22.0	
男の子は男の子らしく、女の子は 女の子らしく、育てるのがよい	43.6	42.5		7.7	
子育てには地域社会 の支援も必要である	62.4		31.9		
子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまく いかない場合、離婚してもかまわない	36.6	33.1	17.6	10.5	
子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚が うまくいかない場合、離婚してもかまわない	23.1	34.1	26.6	14.3	
女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、 家族中心としたほうがよい	21.0	50.9	16.0	10.5	

(注)5%未満数値:結婚する・しないは個人の自由である(2.0 1.3)未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ(1.7)「結婚しても子どもは持たない」というのも、ひとつの生き方だ(1.9)希望する者には夫婦別姓を認めてもよい(1.7)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい(4.6 1.6)子育てには地域社会の支援も必要である(2.6 1.3 1.7)子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(2.2)子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(1.9)女性は、結婚後は夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい(1.6)

問1で「1.賛成である」と「2.どちらかといえば賛成である」の計を母数にしています。

結婚や出産に対する考え方について、「男は仕事、女は家庭」に「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の回答傾向をみると、「そう思う」と回答した方の割合が最も多かったのが、「結婚する・しないは個人の自由である」で77.8%、次いで、「子育てには地域社会の支援も必要である」が69.5%、「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」が60.5%でした。「そう思う」或いは「どちらかといえばそう思う」と回答した方の割合が最も多かったのは「子育てには地域社会の支援も必要である」で96.5%でした。

一方、「どちらかといえばそう思わない」或いは「そう思わない」と回答した方の割合が最も多かったのが、「女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい」で59.4%、次いで、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい」で44.1%でした。

図4-19 結婚や出産についての考え方 / 「男は仕事、女は家庭」に「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方の、回答傾向

単位:% (5%未満非表示)

総数=869

	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思 わない	無回答
結婚する・しない は個人の自由である	77.8				18.0
未婚の女性が子どもを産み 育てるのも、ひとつの生き方だ	48.1	29.5		13.9	8.2
「結婚しても子どもは持たない」 というのもひとつの生き方だ	54.8	24.6		12.5	7.5
希望する者には 夫婦別姓を認めてもよい	60.5			8.7	7.1
男の子は男の子らしく、女の子は 女の子らしく、育てるのがよい	17.1	37.7	22.4	21.7	
子育てには地域社会 の支援も必要である	69.5				27.0
子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまく いかない場合、離婚してもかまわない	53.2	29.8		10.8	5.4
子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚が うまくいかない場合、離婚してもかまわない	31.6	36.2		23.5	8.2
女性は、結婚後は自分より夫や子どもなど、 家族中心としたほうがよい	7.1	32.3	33.9	25.5	

(注)5%未満数値:結婚する・しないは個人の自由である(2.5 1.6 0.1)未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方だ(0.3)「結婚しても子どもは持たない」というのも、ひとつの生き方だ(0.6)希望する者には夫婦別姓を認めてもよい(0.7)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい(0.9)子育てには地域社会の支援も必要である(2.1 1.0 0.3)子どもや経済的不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(0.8)子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない(0.5)女性は、結婚後は夫や子どもなど、家族中心としたほうがよい(1.0)

問1で、「3.どちらかといえば反対である」と「4.反対である」の計を母数としています。

職業・職場について

問5 <仕事の有無>

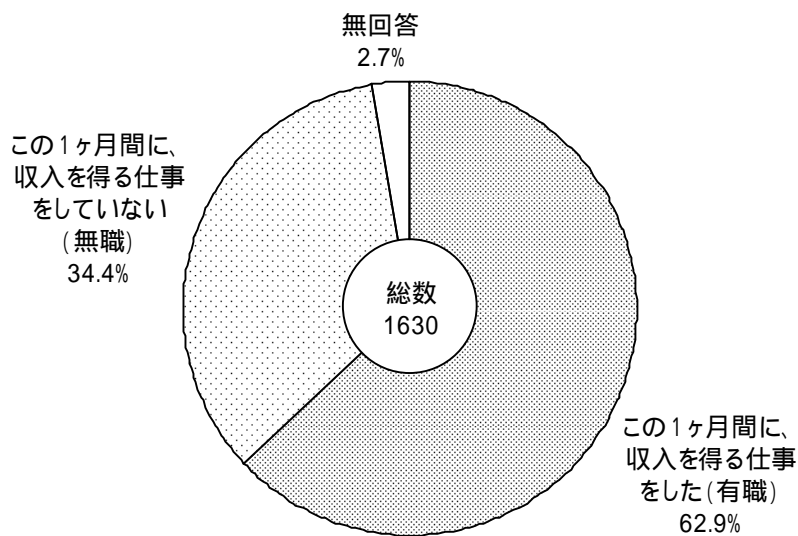
あなたは、この1ヶ月間に収入を得る仕事をしましたか。継続した仕事をしていない方は、この1ヶ月間に仕事をしたかどうかでお答えください。(ひとつだけに)

1. した(有職)

2. していない(無職)

仕事の有無については、この1ヶ月間に収入を得る仕事をした(有職)と回答した方の割合は62.9%、この1ヶ月間に収入を得る仕事をしていない(無職)と回答した方の割合は34.4%、無回答が2.7%でした。

図5 - 1 仕事の有無について



仕事の有無について

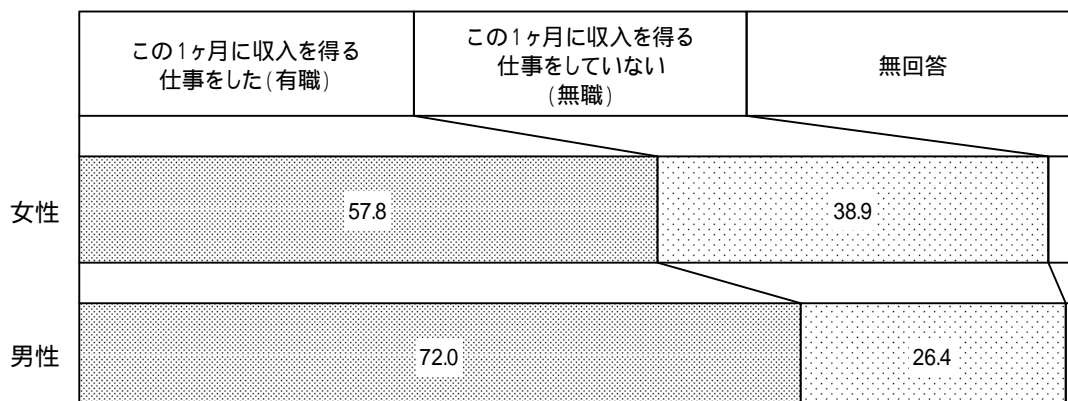
項目名	回答数	構成比(%)
全体	1630	100.0
この1ヶ月に収入を得る仕事をした(有職)	1026	62.9
この1ヶ月に収入を得る仕事をしていない(無職)	560	34.4
無回答	44	2.7

仕事の有無について、性別にみると、女性においては、この1ヶ月に収入を得る仕事をしたと回答した方の割合は57.8%、していないと回答した方の割合は38.9%でした。

一方、男性においては、この1ヶ月に収入を得る仕事をしたと回答した方の割合は72.0%、していないと回答した方の割合は26.4%でした。

図5 - 2 職場における女性差別の有無 / 勤務形態別

単位:% (5%未満非表示)



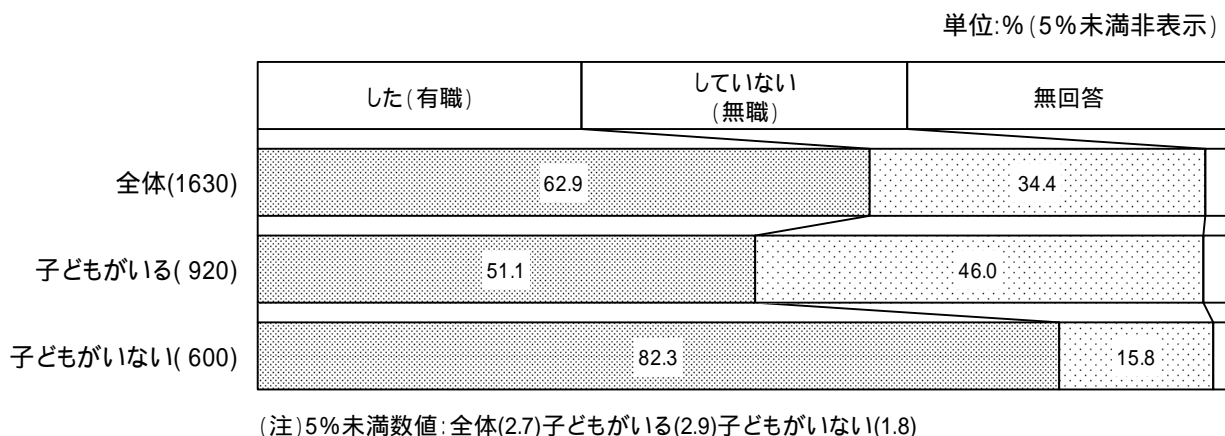
仕事の有無について

		全体	した(有職)	していない(無職)	無回答
全体		1630 100.0	1026 62.9	560 34.4	44 2.7
性別	女性	1001 100.0	579 57.8	389 38.9	33 3.3
	男性	579 100.0	417 72.0	153 26.4	9 1.6
	無回答	50 100.0	30 60.0	18 36.0	2 4.0

仕事の有無について、子どもがいるかいないか別にみると、子どもがいる方においては、この1ヶ月に収入を得る仕事をしたと回答した方の割合は51.1%、していないと回答した方の割合は46.0%でした。

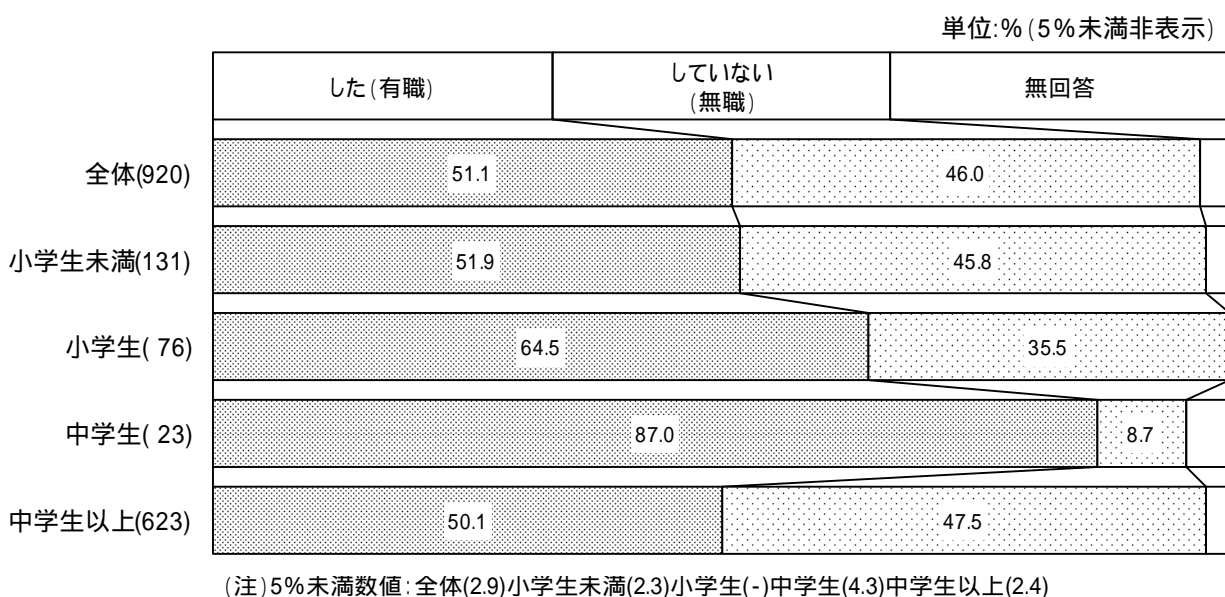
一方、子どもがいない方においては、この1ヶ月に収入を得る仕事をしたと回答した方の割合は82.3%、していないと回答した方の割合は15.8%でした。

図5 - 3 仕事の有無について / 子どもの有無別



仕事の有無について、子どもがいる方の回答を子どもの年齢別にみると、「この1ヶ月に収入を得る仕事をした」と回答した方の割合は、小学生未満の場合は51.9%、小学生の場合は64.5%、中学生の場合は87.0%、中学生以上の場合は50.1%でした。

図5 - 4 仕事の有無について / 一番下の子の年齢別



問6 - 1 <勤務形態について>

問5で「1.した(有職)」と回答した方にお聞きします。

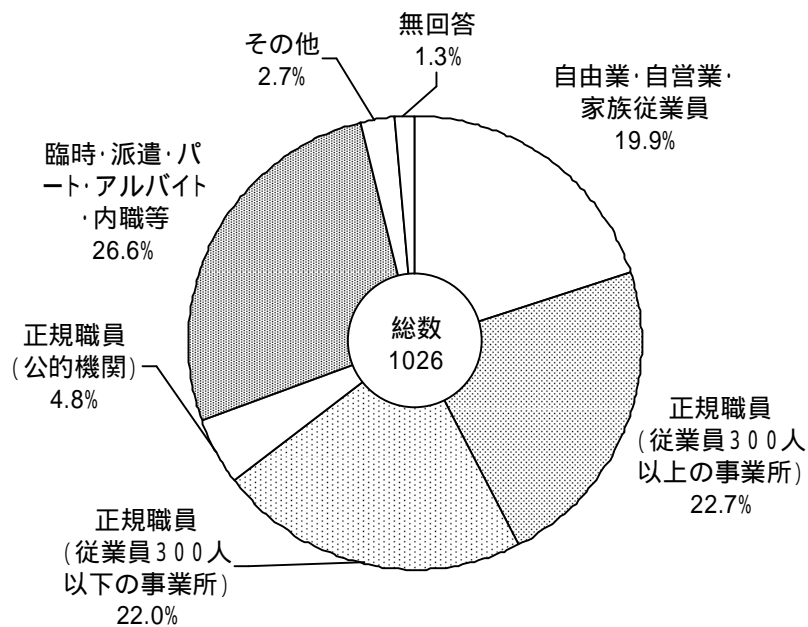
あなたの仕事は、どのような勤務体系ですか。

(ひとつだけに)

1. 自由業・自営業・家族従業員
2. 正規職員(従業員300人以上の事業所)
3. 正規職員(従業員300人以下の事業所)
4. 正規職員(公的機関)
5. 臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等
6. その他(具体的に)

勤務形態は、「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」が最も多く26.6%、次いで、「正規職員(従業員300人以上の事業所)」が22.7%、「正規職員(従業員300人以下の事業所)」が22.0%でした。

図6 - 1 - 1 勤務形態について



勤務形態について

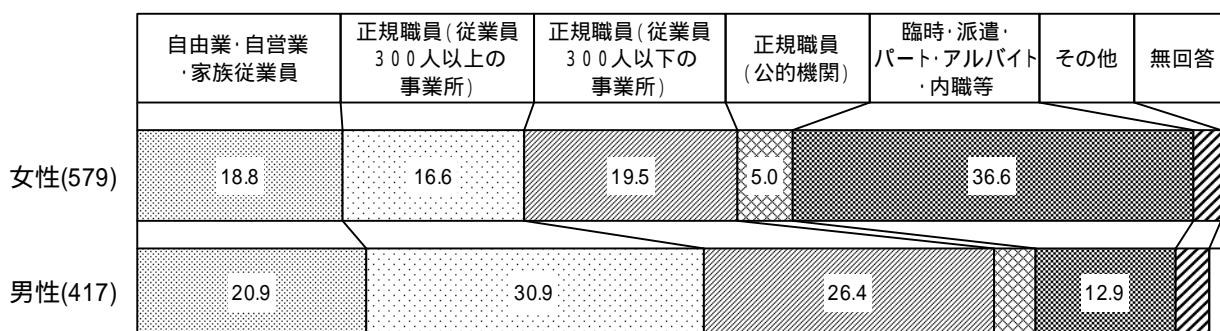
項目名	回答数	構成比(%)
全体	1026	100.0
自由業・自営業・家族従業員	204	19.9
正規職員(従業員300人以上の事業所)	233	22.7
正規職員(従業員300人以下の事業所)	226	22.0
正規職員(公的機関)	49	4.8
臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等	273	26.6
その他	28	2.7
無回答	13	1.3

勤務形態について、性別にみると、女性においては、「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」と回答した方の割合が最も多く36.6%、次いで、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」と回答した方の割合が19.5%、「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が18.8%でした。

一方、男性においては、「正規職員（従業員300人以上の事業所）」と回答した方の割合が最も多く30.9%、次いで、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」と回答した方の割合が26.4%、「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が20.9%でした。

図6-1-2 勤務形態 / 性別

単位: % (5%未満非表示)



(注)5%未満数値:女性(2.6 0.9)男性(3.8 3.1 1.9)

勤務形態について

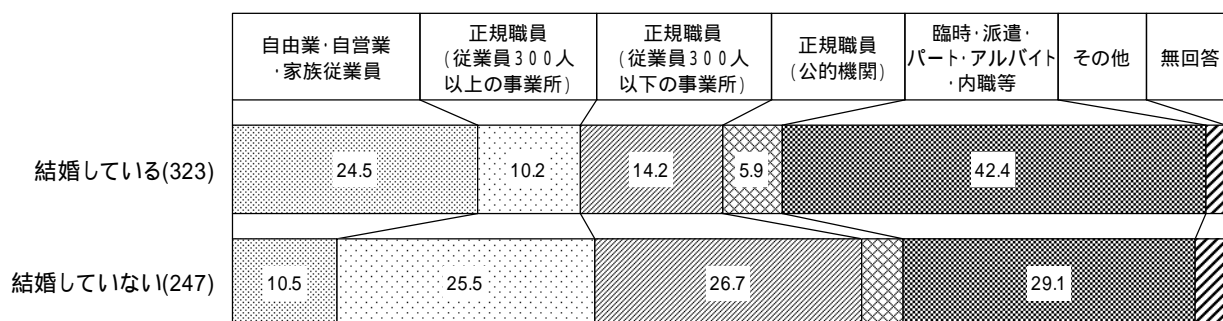
		全体	自由業・自営業・家族従業員	正規職員(従業員300人以上の事業所)	正規職員(従業員300人以下の事業所)	正規職員(公的機関)	臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等	その他	無回答
全体		1026	204	233	226	49	273	28	13
		100.0	19.9	22.7	22.0	4.8	26.6	2.7	1.3
性別	女性	579	109	96	113	29	212	15	5
		100.0	18.8	16.6	19.5	5.0	36.6	2.6	0.9
	男性	417	87	129	110	16	54	13	8
	100.0	20.9	30.9	26.4	3.8	12.9	3.1	1.9	
	無回答	30	8	8	3	4	7	-	-
		100.0	26.7	26.7	10.0	13.3	23.3	-	-

勤務形態についての女性の回答を、結婚の有無別にみると、結婚している女性では、「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」と回答した方の割合が最も多く42.4%、次いで、「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が24.5%でした。

一方、結婚していない女性では、「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」と回答した方の割合が最も多く29.1%、次いで、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」と回答した方の割合が26.7%でした。

図6-1-3 勤務形態 / 結婚の有無別 / 女性

単位:% (5%未満非表示)



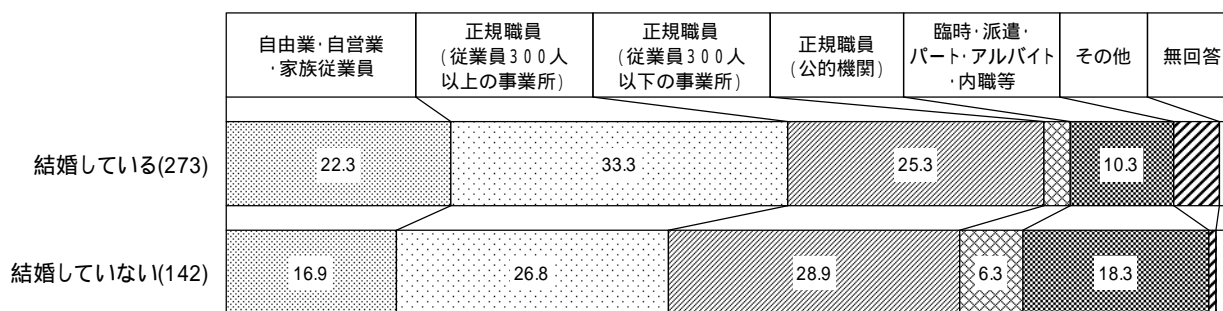
(注)5%未満数値:結婚している(1.9 0.9)結婚していない(4.0 3.6 0.4)

勤務形態についての男性の回答を、結婚の有無別にみると、結婚している男性では、「正規職員（従業員300人以上の事業所）」と回答した方の割合が最も多く33.3%、次いで、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」と回答した方の割合が25.3%でした。

一方、結婚していない男性では、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」と回答した方の割合が最も多く28.9%、次いで、「正規職員（従業員300人以上の事業所）」と回答した方の割合が26.8%でした。

図6-1-4 勤務形態 / 結婚の有無別 / 男性

単位:% (5%未満非表示)



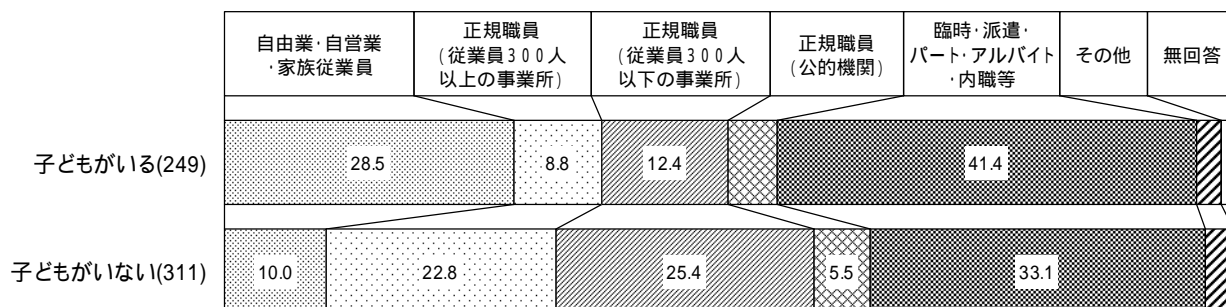
(注)5%未満数値:結婚している(2.6 4.4 1.8)結婚していない(0.7 2.1)

勤務形態についての女性の回答を、子どもがいるかいないか別にみると、子どもがいる女性では、「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」と回答した方の割合が最も多く41.4%、次いで、「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が28.5%でした。

一方、子どもがいない女性では、「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」と回答した方の割合が最も多く33.1%、次いで、「正規職員(従業員300人以下の事業所)」と回答した方の割合が25.4%、「正規職員(従業員300人以上の事業所)」と回答した方の割合が22.8%でした。

図6-1-5 勤務形態/子どもの有無別/女性

単位:%(5%未満非表示)



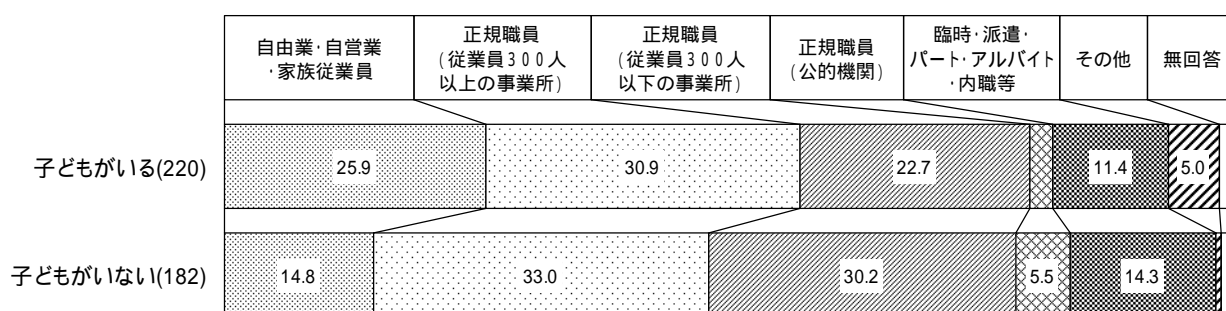
(注)5%未満数値:結婚している(4.8 2.4 1.6)結婚していない(2.9 0.3)

勤務形態についての男性の回答を、子どもがいるかいないか別にみると、子どもがいる男性では、「正規職員(従業員300人以上の事業所)」と回答した方の割合が最も多く30.9%、次いで、「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が25.9%でした。

一方、子どもがいない男性では、「正規職員(従業員300人以上の事業所)」と回答した方の割合が最も多く33.0%、次いで、「正規職員(従業員300人以下の事業所)」と回答した方の割合が30.2%でした。

図6-1-6 勤務形態/子どもの有無別/男性

単位:%(5%未満非表示)

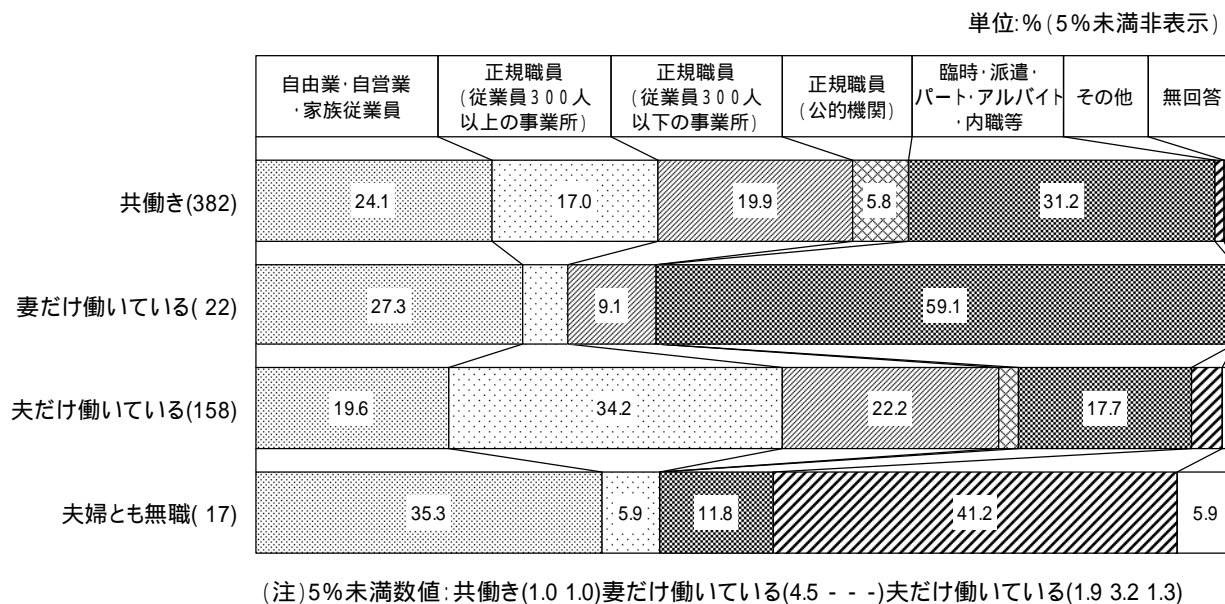


(注)5%未満数値:結婚している(2.3 1.8)結婚していない(0.5 1.6)

勤務形態について、世帯の働き方別でみると、共働きの世帯においては、「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」と回答した方の割合が最も多く31.2%、次いで、「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が24.1%、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」と回答した方の割合が19.9%でした。

一方、夫だけ働いている世帯では、夫の勤務形態は、「正規職員（従業員300人以上の事業所）」と回答した方の割合が最も多く34.2%、次いで、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」と回答した方の割合が22.2%、「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が19.6%でした。

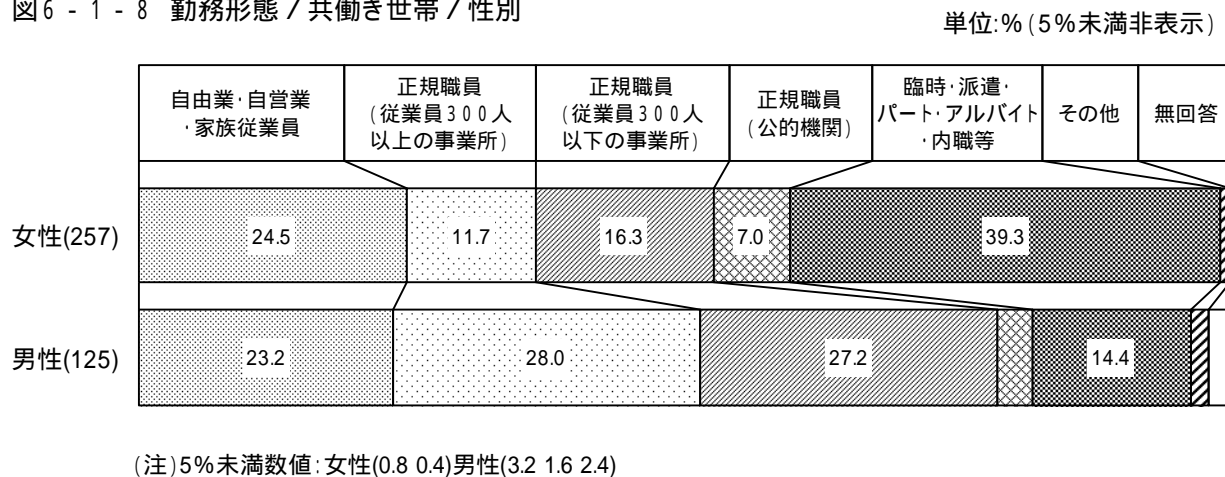
図6-1-7 勤務形態/世帯の働き方別



勤務形態について、共働き世帯の方を性別にみると、共働き世帯の女性においては、「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」と回答した方の割合が最も多く39.3%、次いで、「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が24.5%でした。

一方、共働き世帯の男性においては、「正規職員（従業員300人以上の事業所）」と回答した方の割合が最も多く28.0%、次いで、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」と回答した方の割合が27.2%、「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が23.2%でした。

図6-1-8 勤務形態/共働き世帯/性別

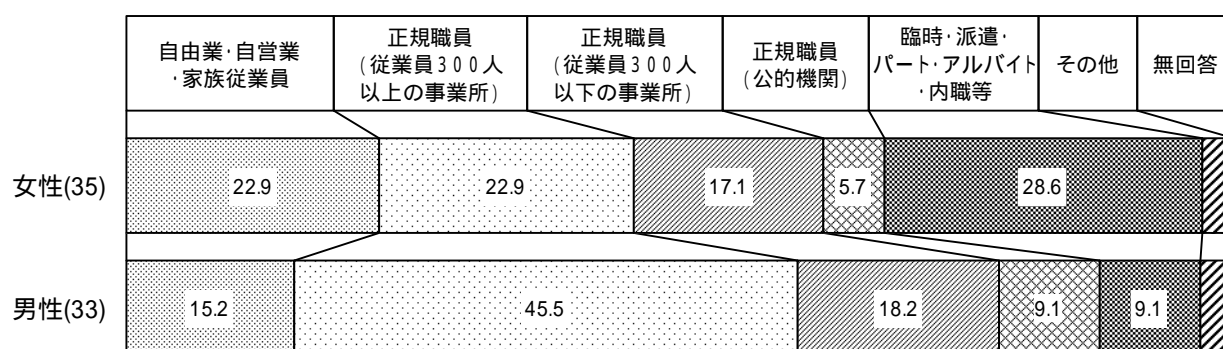


勤務形態について、一番下の子どもの年齢別にみると、一番下の子どもが小学生未満の女性では、「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」と回答した方の割合が最も多く28.6%、次いで、「正規職員（従業員300人以上の事業所）」と回答した方の割合と「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が共に22.9%でした。

一方、一番下の子どもが小学生未満の男性では、「正規職員（従業員300人以上の事業所）」と回答した方の割合が最も多く45.5%、次いで、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」と回答した方の割合が18.2%、「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が15.2%でした。

図6-1-9 勤務形態 / 一番下の子どもが小学生未満

単位: % (5%未満非表示)



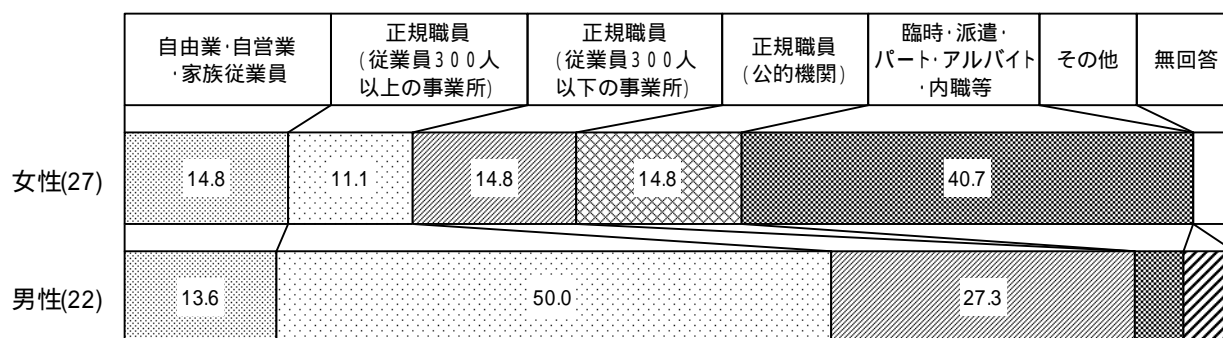
(注)5%未満数値: 女性(2.9)男性(3.0)

勤務形態について、一番下の子どもの年齢別にみると、一番下の子どもが小学生の女性では、「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」と回答した方の割合が最も多く40.7%、次いで、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」と回答した方の割合と「正規職員（公的機関）」と回答した方の割合及び「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が、共に14.8%でした。

一方、一番下の子どもが小学生の男性では、「正規職員（従業員300人以上の事業所）」と回答した方の割合が最も多く50.0%、次いで、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」と回答した方の割合が27.3%、「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が13.6%でした。

図6-1-10 勤務形態 / 一番下の子どもが小学生

単位: % (5%未満非表示)

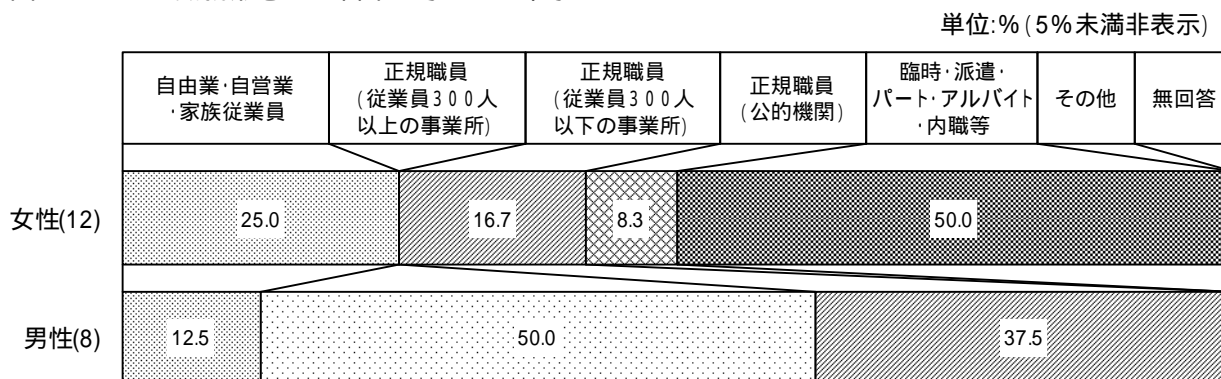


(注)5%未満数値: 女性(3.7)男性(4.5 4.5)

勤務形態について、一番下の子どもの年齢別にみると、一番下の子どもが中学生の女性では、「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」と回答した方の割合が最も多く50.0%、次いで、「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が25.0%、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」と回答した方の割合が16.7%でした。

一方、一番下の子どもが中学生の男性では、「正規職員（従業員300人以上の事業所）」と回答した方の割合が最も多く50.0%、次いで、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」と回答した方の割合が37.5%、「自由業・自営業・家族従業員」と回答した方の割合が12.5%でした。

図6 - 1 - 11 勤務形態 / 一番下の子どもが中学生



(注)5%未満数値: 女性(0.0 0.0 0.0)男性(0.0 0.0 0.0 0.0)

問6 - 2 <職場における女性差別の有無>

あなたの職場では、女性差別がありますか。

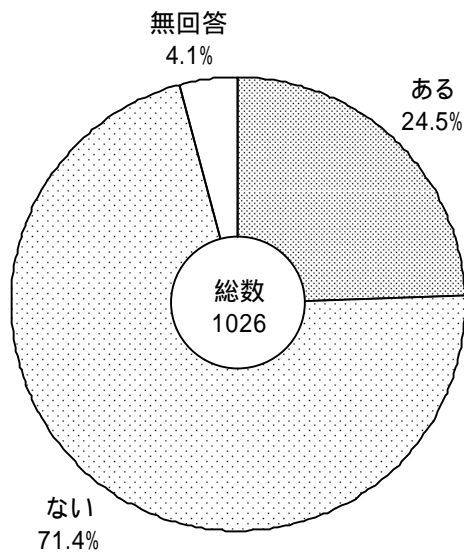
(ひとつだけに)

1. ある

2. ない

職場における女性差別の有無については、「ない」と回答した方の割合が最も多く71.4%、次いで、「ある」と回答した方の割合が24.5%、「無回答」が4.1%でした。

図6 - 2 - 1 職場における女性差別の有無



職場における女性差別の有無

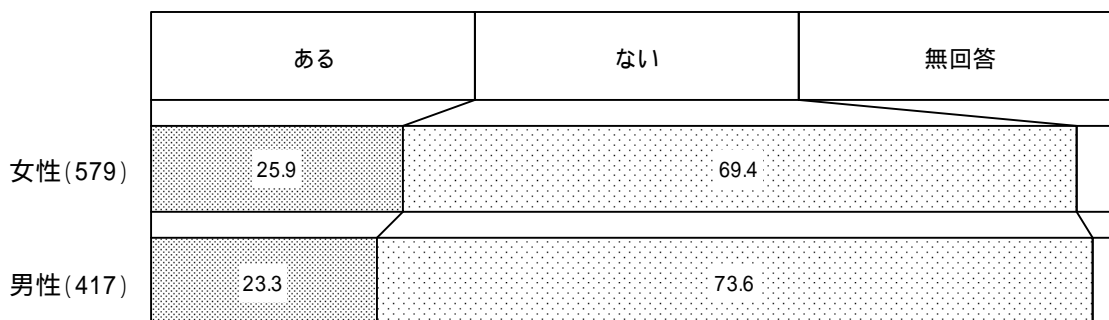
項目名	回答数	構成比 (%)
全体	1026	100.0
ある	251	24.5
ない	733	71.4
無回答	42	4.1

職場における女性差別の有無を、性別にみると、女性では、「ある」と回答した方の割合が25.9%、「ない」と回答した方の割合が69.4%でした。

一方、男性では、「ある」と回答した方の割合が23.3%、「ない」と回答した方の割合が73.6%でした。

図6-2-2 職場に女性差別の有無/性別

単位:%(5%未満非表示)



(注)5%未満数値:女性(4.7)男性(3.1)

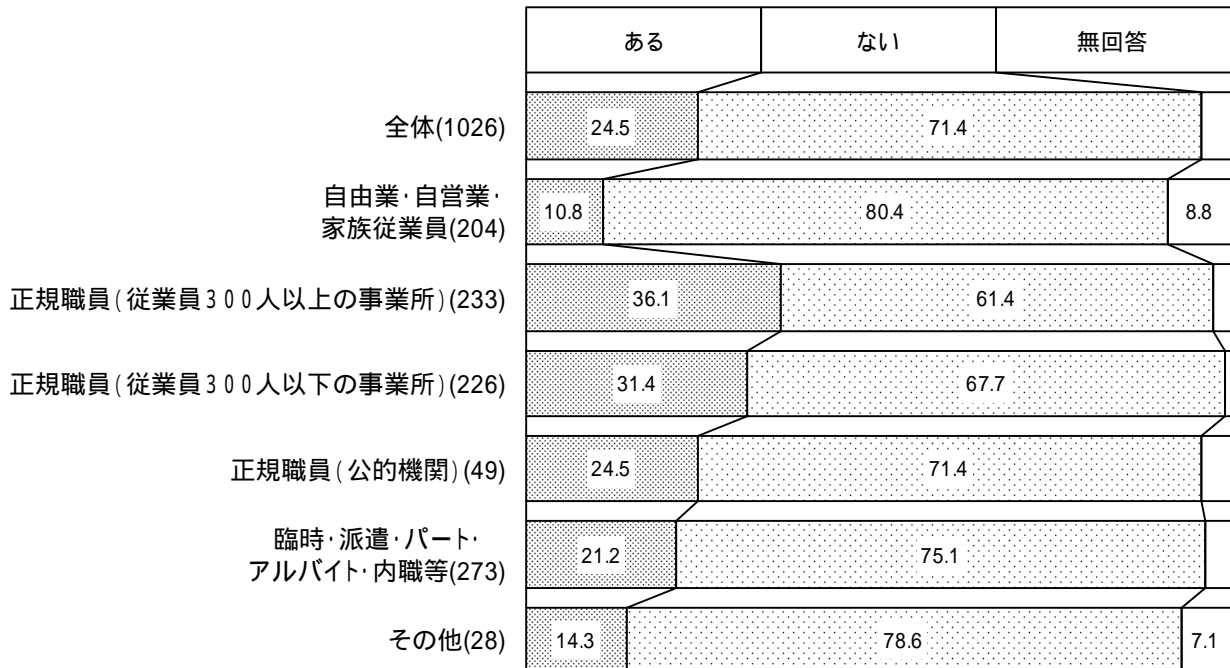
職場における女性差別の有無

		全体	ある	ない	無回答
全体		1026 100.0	251 24.5	733 71.4	42 4.1
性別	女性	579 100.0	150 25.9	402 69.4	27 4.7
	男性	417 100.0	97 23.3	307 73.6	13 3.1
	無回答	30 100.0	4 13.3	24 80.0	2 6.7

職場における男女差別の有無を、勤務形態別にみると、「ある」と回答した方の割合が最も多かったのは、「正規職員（従業員300以上の事業所）」で36.1%、次いで、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」が31.4%、「正規職員（公的機関）」が24.5%でした。

図6-2-3 職場における女性差別の有無 / 勤務形態別

単位:% (5%未満非表示)



(注)5%未満数値:全体(4.1)正規職員(従業員300人以上の事業所)(2.6)正規職員(従業員300人以下の事業所)(0.9)正規職員(公的機関)(4.1)臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等(3.7)

職場における女性差別の有無 / 勤務形態別

	全体	ある	ない	無回答	
全体	1026 100.0	251 24.5	733 71.4	42 4.1	
勤務 形態	自由業・自営業・家族従業員	204 100.0	22 10.8	164 80.4	18 8.8
	正規職員(従業員300人以上の事業所)	233 100.0	84 36.1	143 61.4	6 2.5
	正規職員(従業員300人以下の事業所)	226 100.0	71 31.4	153 67.7	2 0.9
	正規職員(公的機関)	49 100.0	12 24.5	35 71.4	2 4.1
	臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等	273 100.0	58 21.2	205 75.1	10 3.7
	その他	28 100.0	4 14.3	22 78.6	2 7.1
	無回答	13 100.0	-	11 84.6	2 15.4

問6 - 3 <職場における女性差別の具体的内容>

問6 - 2で「1. ある」と回答した方にお聞きします。

具体的にはどのような女性差別がありますか。

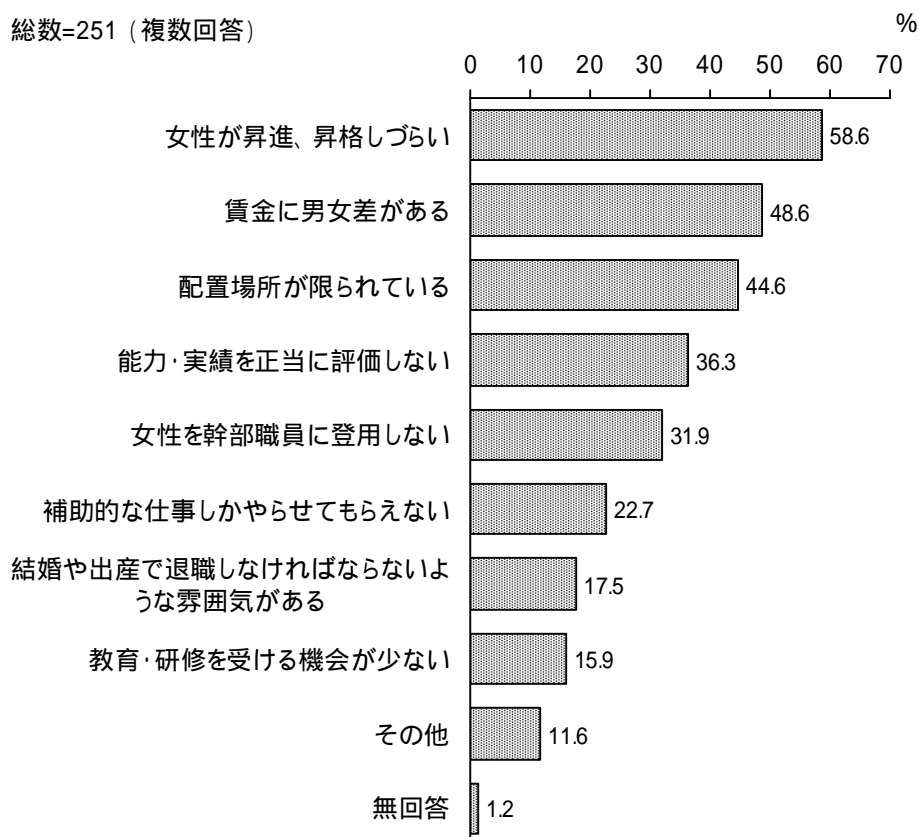
(当てはまるものすべてに)

1. 賃金に男女差がある
2. 女性が昇進、昇格しづらい
3. 能力・実績を正当に評価しない
4. 配置場所が限られている
5. 教育・研修を受ける機会が少ない
6. 女性を幹部職員に登用しない
7. 補助的な仕事しかやらせてもらえない
8. 結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある
9. その他()

職場における女性差別の具体的内容を見ると、「女性が昇進、昇格しづらい」と回答した方の割合が最も多く58.6%、次いで、「賃金に男女差がある」と回答した方の割合が48.6%、以下、「配置場所が限られている」と回答した方の割合が44.6%、「能力・実績を正当に評価しない」と回答した方の割合が36.3%でした。

図6 - 3 - 1 職場における女性差別の具体的内容

総数=251 (複数回答)



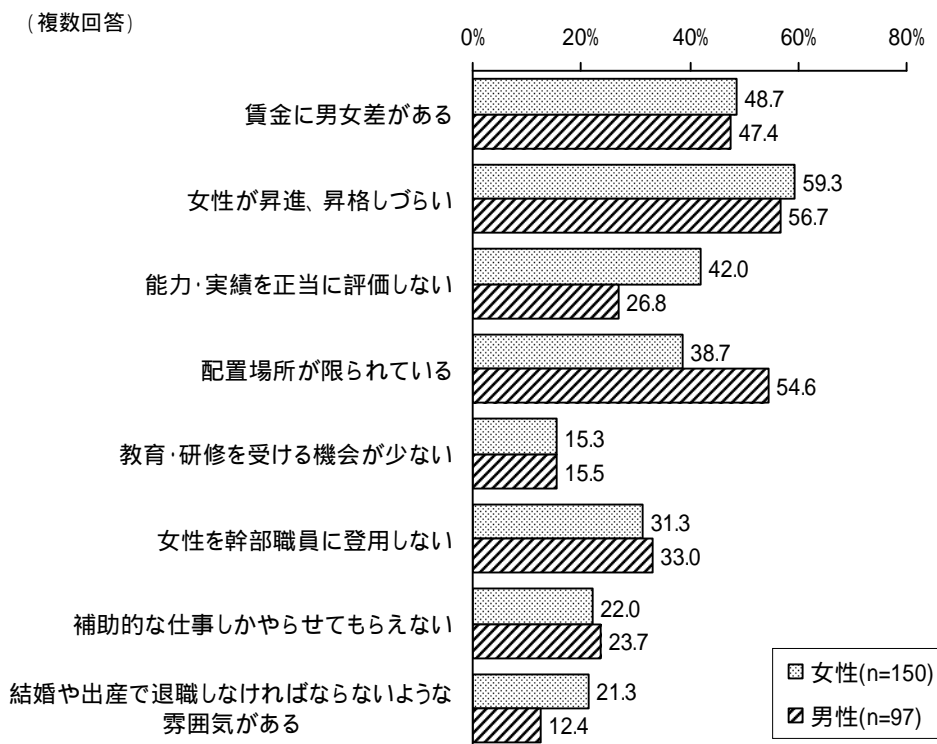
職場における女性差別の具体的内容

項目名【複数回答】	回答数	構成比(%)
全体	251	100.0
賃金に男女差がある	122	48.6
女性が昇進、昇格しづらい	147	58.6
能力・実績を正当に評価しない	91	36.3
配置場所が限られている	112	44.6
教育・研修を受ける機会が少ない	40	15.9
女性を幹部職員に登用しない	80	31.9
補助的な仕事しかやらせてもらえない	57	22.7
結婚や出産で退職しなければならないような 雰囲気がある	44	17.5
その他	29	11.6
無回答	3	1.2

職場における女性差別の具体的内容を、性別にみると、女性では、「女性が昇進、昇格しづらい」と回答した方の割合が最も多く59.3%、次いで、「賃金に男女差がある」と回答した方の割合が48.7%でした。

一方、男性では、「女性が昇進・昇格しづらい」と回答した方の割合が最も多く56.7%、次いで、「配置場所が限られている」と回答した方の割合が54.6%でした。

図6-3-2 職場における女性差別の具体的内容 / 性別



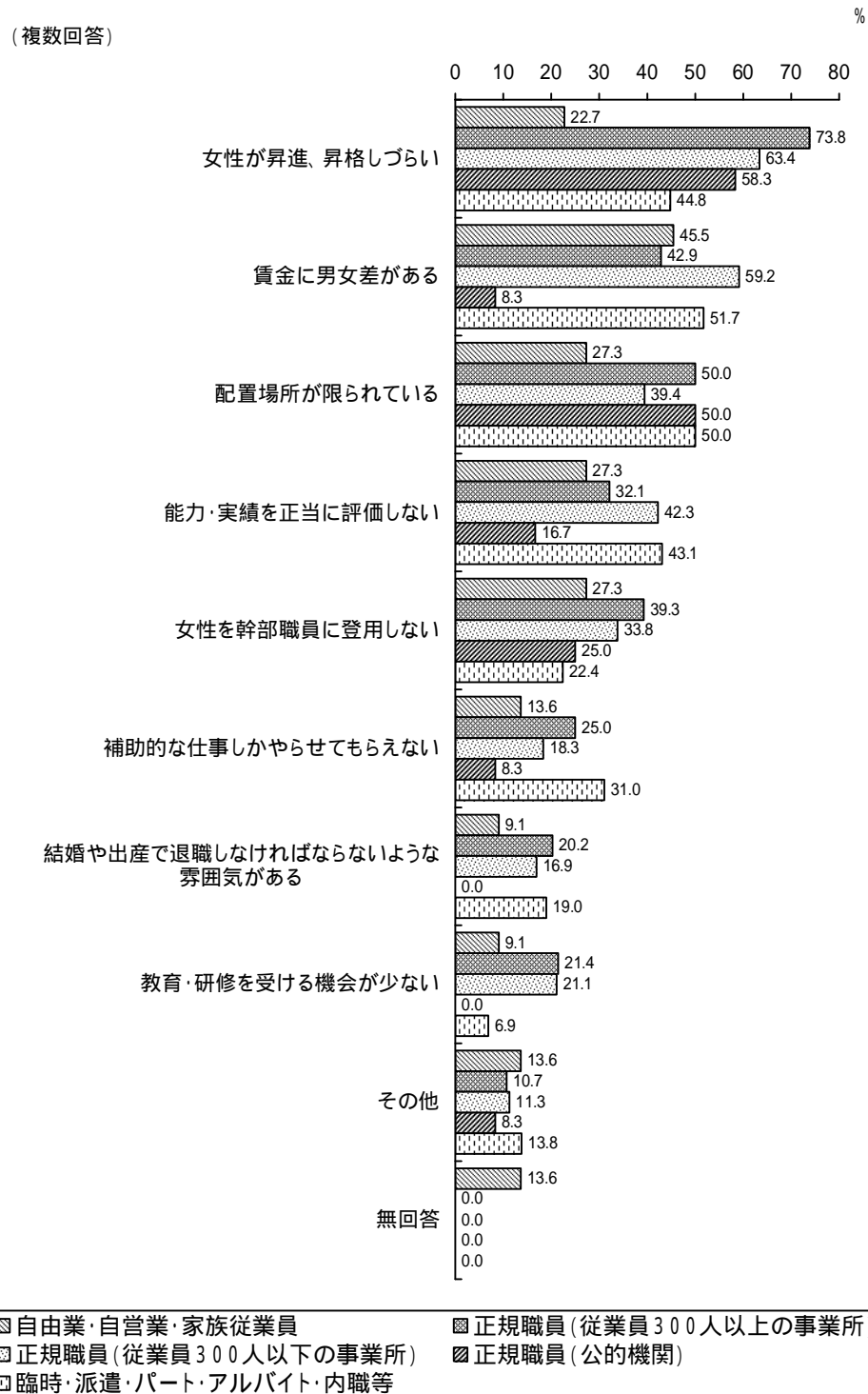
職場における女性差別の具体的内容 / 性別 【複数回答】

		全体	賃金に男女差がある	女性が昇進、昇格しづらい	能力・実績を正に評価しない	配置場所が限られている	教育・研修を受ける機会が少ない
全体		251 100.0	122 48.6	147 58.6	91 36.3	112 44.6	40 15.9
性別	女性	150 100.0	73 48.7	89 59.3	63 42.0	58 38.7	23 15.3
	男性	97 100.0	46 47.4	55 56.7	26 26.8	53 54.6	15 15.5
	無回答	4 100.0	3 75.0	3 75.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0

		全体	女性を幹部職員に登用しない	補助的な仕事しかやらせてもらえない	結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある	その他	無回答
全体		251 100.0	80 31.9	57 22.7	44 17.5	29 11.6	3 1.2
性別	女性	150 100.0	47 31.3	33 22.0	32 21.3	14 9.3	3 2.0
	男性	97 100.0	32 33.0	23 23.7	12 12.4	15 15.5	-
	無回答	4 100.0	1 25.0	1 25.0	-	-	-

職場における女性差別の具体的内容を、勤務形態別にみると、「自由業・自営業・家族従業員」においては、「賃金に男女差がある」と回答した方の割合が最も多く、45.5%、「正規職員（従業員300人以上の事業所）」においては、「女性が昇格、昇進しづらい」と回答した方の割合が最も多く73.8%、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」においては、「女性が昇進、昇格しづらい」と回答した方の割合が最も多く、63.4%でした。「正規職員（公的機関）」においては、「女性が昇進、昇格しづらい」と回答した方の割合が最も多く、58.3%、「臨時・パート・アルバイト・内職等」においては、「賃金に男女差がある」と回答した方の割合が最も多く、51.7%でした。

図6-3-3 職場における女性差別の具体的内容 / 勤務形態別



職場における女性差別の具体的内容 / 勤務形態別 【複数回答】

		全体	賃金に男女差がある	女性が昇進、昇格しづらい	能力・実績を正当に評価しない	配置場所が限られている	教育・研修を受ける機会が少ない
全体		251 100.0	122 48.6	147 58.6	91 36.3	112 44.6	40 15.9
勤務形態	自由業・自営業・家族従業員	22 100.0	10 45.5	5 22.7	6 27.3	6 27.3	2 9.1
	正規職員（従業員300人以上の事業所）	84 100.0	36 42.9	62 73.8	27 32.1	42 50.0	18 21.4
	正規職員（従業員300人以下の事業所）	71 100.0	42 59.2	45 63.4	30 42.3	28 39.4	15 21.1
	正規職員（公的機関）	12 100.0	1 8.3	7 58.3	2 16.7	6 50.0	- -
	臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等	58 100.0	30 51.7	26 44.8	25 43.1	29 50.0	4 6.9
	その他	4 100.0	3 75.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0
	無回答	- *	- *	- *	- *	- *	- *

		全体	女性を幹部職員に登用しない	補助的な仕事しかやらせてもらえない	結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある	その他	無回答
全体		251 100.0	80 31.9	57 22.7	44 17.5	29 11.6	3 1.2
勤務形態	自由業・自営業・家族従業員	22 100.0	6 27.3	3 13.6	2 9.1	3 13.6	3 13.6
	正規職員（従業員300人以上の事業所）	84 100.0	33 39.3	21 25.0	17 20.2	9 10.7	-
	正規職員（従業員300人以下の事業所）	71 100.0	24 33.8	13 18.3	12 16.9	8 11.3	-
	正規職員（公的機関）	12 100.0	3 25.0	1 8.3	-	1 8.3	-
	臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等	58 100.0	13 22.4	18 31.0	11 19.0	8 13.8	-
	その他	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-	-
	無回答	- *	- *	- *	- *	- *	- *

問7 <就労意向>

問5で、「2. していない(無職)」と回答した方にお聞きします。

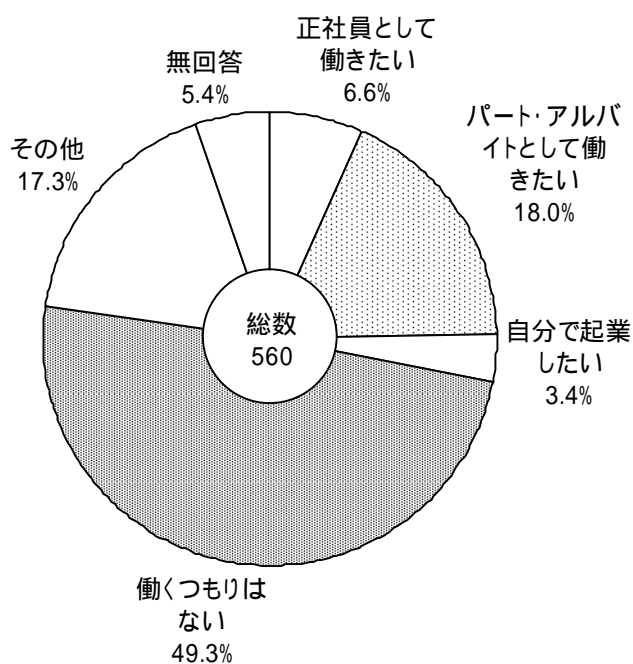
今後、仕事をしたいと考えていますか。

(ひとつだけに)

1. 正社員として働きたい
2. パート・アルバイトとして働きたい
3. 自分で起業したい
4. 働くつもりはない
5. その他()

現在仕事をしていないと回答した方の就労意向については、「働くつもりはない」と回答した方の割合が最も多く、49.3%、次いで、「パート・アルバイトとして働きたい」と回答した方の割合が18.0%、以下、「その他」と回答した方の割合が17.3%、「正社員として働きたい」と回答した方の割合が6.6%となっています。

図7-1 就労意向について



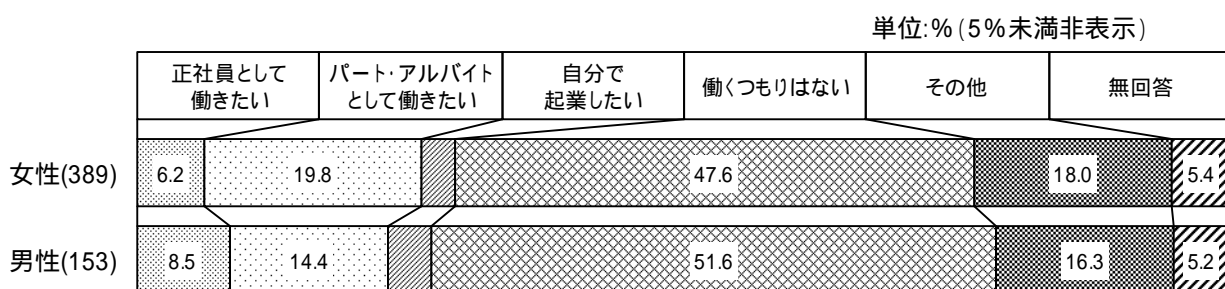
就労意向について

項目名	回答数	構成比 (%)
全体	560	100.0
正社員として働きたい	37	6.6
パート・アルバイトとして働きたい	101	18.0
自分で起業したい	19	3.4
働くつもりはない	276	49.3
その他	97	17.3
無回答	30	5.4

現在仕事をしていないと回答した方の就労意向を、性別でみると、女性では、「働くつもりはない」と回答した方の割合が最も多く47.6%、次いで、「パート・アルバイトとして働きたい」と回答した方の割合が19.8%でした。

一方、男性でも、「働くつもりはない」と回答した方の割合が最も多く51.6%、次いで、「パート・アルバイトとして働きたい」と回答した方の割合が14.4%となっています。

図7-2 就労意向について / 性別



(注)5%未満数値:女性(3.1) 男性(3.9)

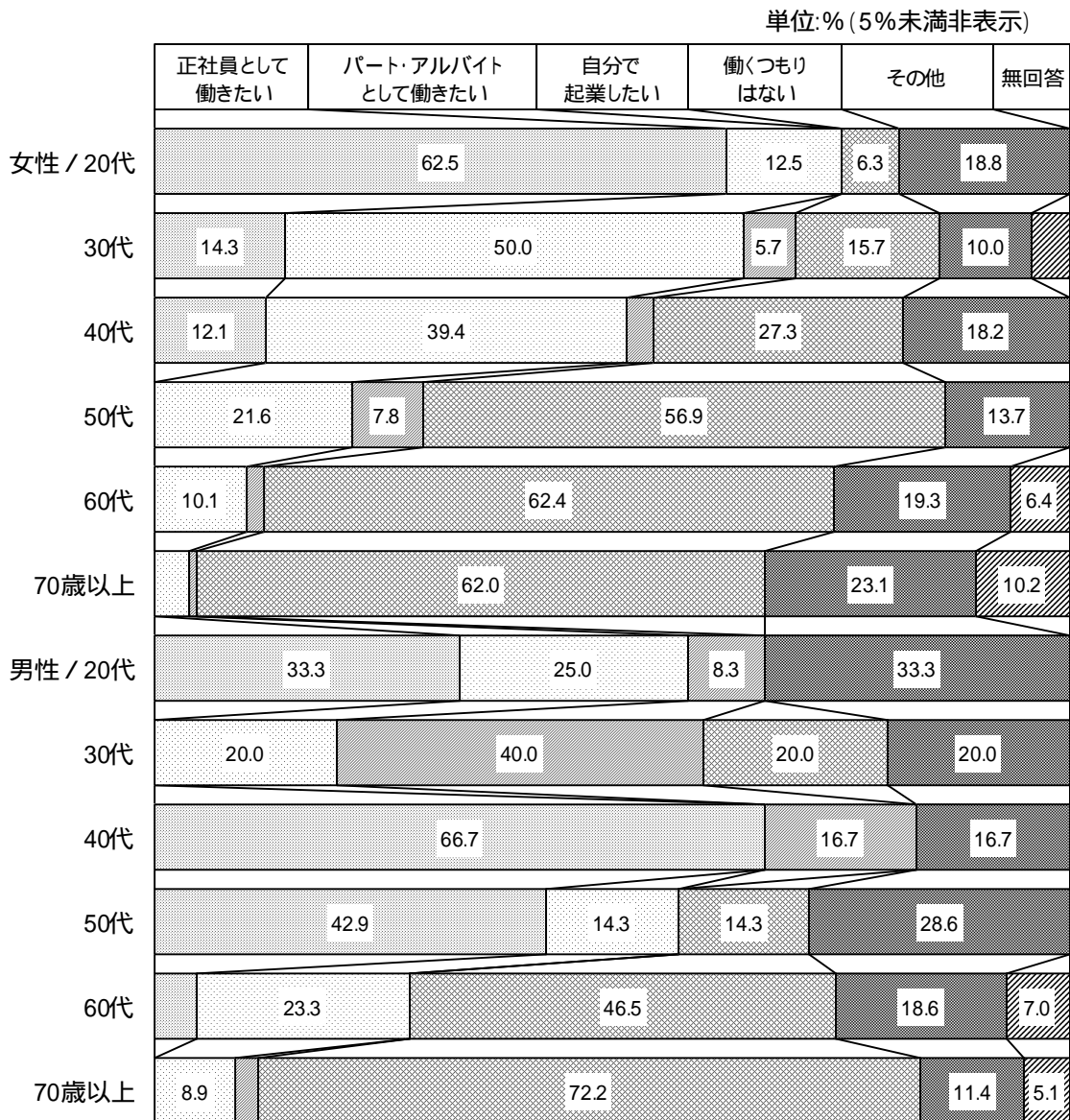
就労意向について

		全体	正社員として働きたい	パート・アルバイトとして働きたい	自分で起業したい	働くつもりはない	その他	無回答
全体		560 100.0	37 6.6	101 18.0	19 3.4	276 49.3	97 17.3	30 5.4
性別	女性	389 100.0	24 6.2	77 19.8	12 3.1	185 47.6	70 18.0	21 5.4
	男性	153 100.0	13 8.5	22 14.4	6 3.9	79 51.6	25 16.3	8 5.2
	無回答	18 100.0	-	2 11.1	1 5.6	12 66.7	2 11.1	1 5.6

現在仕事をしていないと回答した方の就労意向を、性別・年代別でみると、女性では、20代で「正社員として働きたい」と回答した方の割合が、30代・40代で「パート・アルバイトとして働きたい」と回答した方の割合が、それぞれ最も多くなっています。50代・60代・70歳以上で「働くつもりはない」と回答した方の割合が最も多くなっています。

一方、男性では、20代・40代・50代で「正社員として働きたい」と回答した方の割合が、30代で「パート・アルバイトとして働きたい」と回答した方の割合が、それぞれ最も多くなっています。60代・70歳以上では「働くつもりはない」と回答した方の割合が最も多くなっています。

図7-3 就労意向について / 性別・年代別



(注)5%未満数値: 女性 / 20代(- 0.8)30代(4.3)40代(3.0)60代(1.8)70歳以上(3.7 1.0)男性 / 60代(4.7)70歳以上(2.5)

問8 <セクシュアル・ハラスメントの有無>

セクシュアル・ハラスメントとは、「その意に反する性的な言動」のことをいいます。

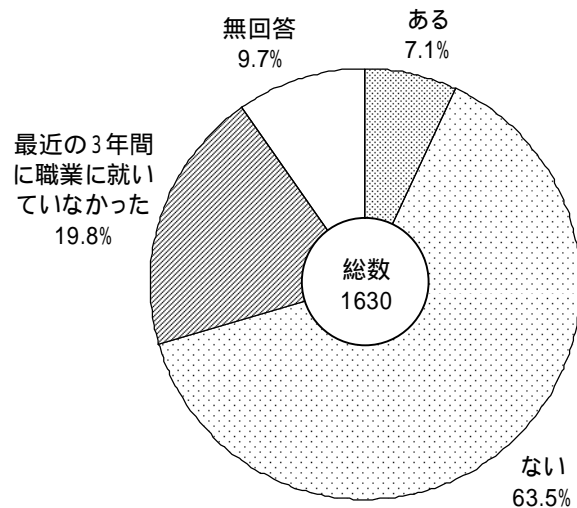
性的な言動は、 性的発言（性的な事実関係を尋ねること、性的な内容の情報を意図的に流布すること、性的な冗談やからかいをいうこと、食事やデートなどに執拗に誘うこと、個人的な性的体験談を話すことなど）、 性的行動（性的な関係を強要すること、必要なく身体に触ること、わいせつな図画（ヌードポスター等）を配布・掲示すること、強制わいせつ等の性的犯罪を行うことなど）の二つに分類されます。

あなたは、最近の3年間に、職場でこれらのセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたことはありますか。 （ひとつだけに）

1. ある 2. ない 3. 最近の3年間に
職業に就いていなかった

職場でのセクシュアル・ハラスメントの有無については、「ない」と回答した方の割合が63.5%、次いで、「最近の3年間に職業に就いていなかった」と回答した方の割合が19.8%、「ある」と回答した方の割合が7.1%、「無回答」が9.7%でした。

図8 - 1 職場でのセクシュアル・ハラスメントの有無



職場でのセクシュアル・ハラスメントの有無

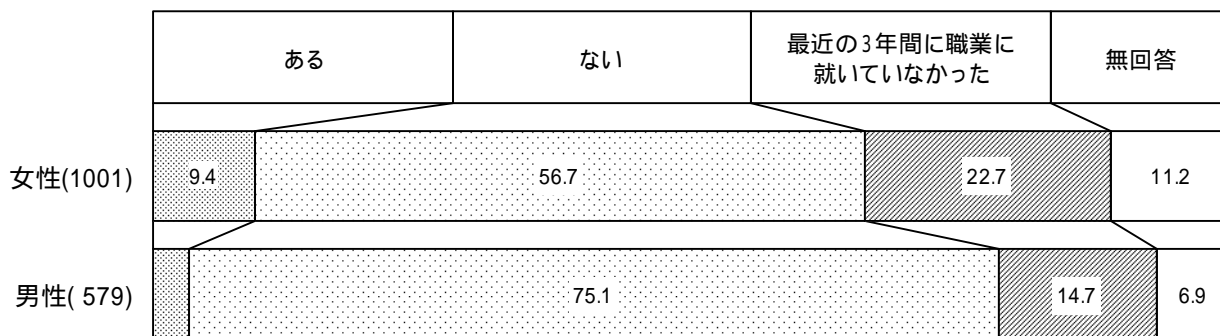
項目名	回答数	構成比 (%)
全体	1630	100.0
ある	115	7.1
ない	1035	63.5
最近の3年間に職業に就いていなかった	322	19.8
無回答	158	9.7

職場でのセクシュアル・ハラスメントの有無を、性別にみると、女性では、「ない」と回答した方の割合が56.7%、次いで、「最近の3年間に職業に就いていなかった」と回答した方の割合が22.7%、「ある」と回答した方の割合が9.4%でした。

一方、男性では、「ない」と回答した方の割合が75.1%、次いで、「最近の3年間に職業に就いていなかった」と回答した方の割合が14.7%、「ある」と回答した方の割合が3.3%でした。

図8 - 2 職場でのセクシュアル・ハラスメントの有無

単位:% (5%未満非表示)



(注)5%未満数値:男性(3.3)

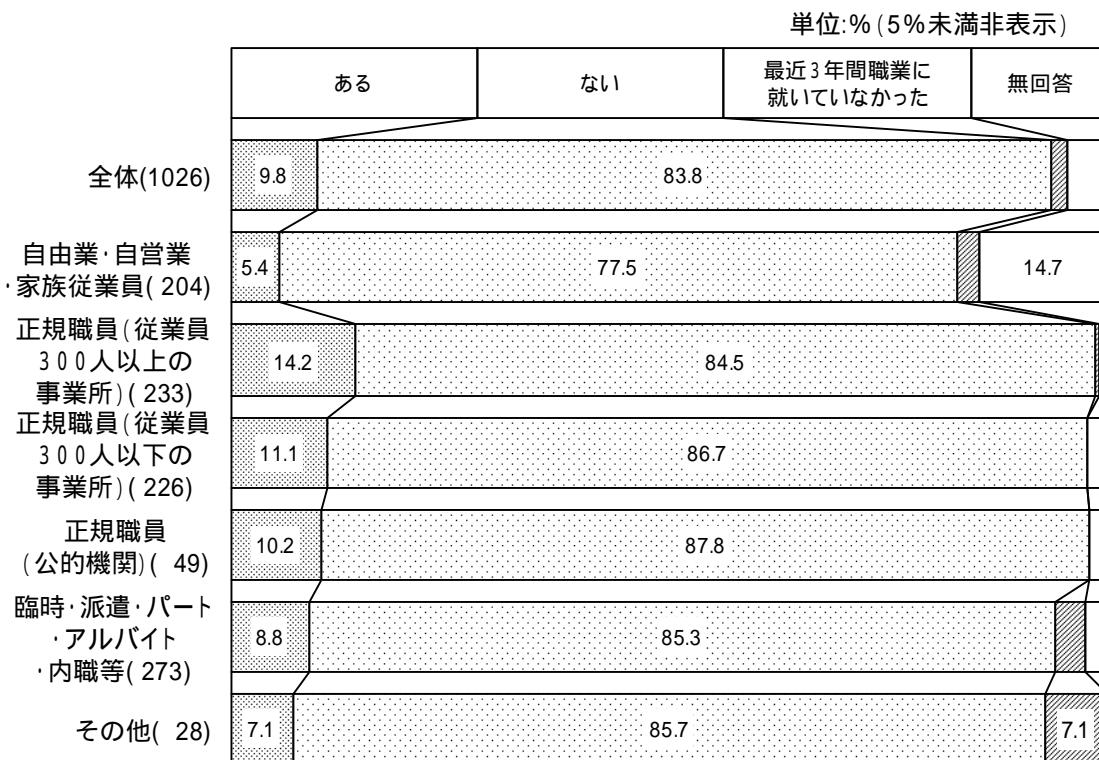
職場でのセクシュアル・ハラスメントの有無

		全体	ある	ない	最近の3年間に職業に就いていなかった	無回答
全体		1630 100.0	115 7.1	1035 63.5	322 19.8	158 9.7
性別	女性	1001 100.0	94 9.4	568 56.7	227 22.7	112 11.2
	男性	579 100.0	19 3.3	435 75.1	85 14.7	40 6.9
	無回答	50 100.0	2 4.0	32 64.0	10 20.0	6 12.0

職場でのセクシュアル・ハラスメントの有無を、勤務形態別で見ると、「ある」と回答した方の割合が最も多かったのは、「正規職員（従業員300人以上の事業所）」で14.2%、次いで、「正規職員（従業員300人以下の事業所）」で11.1%、「正規職員（公的機関）」で10.2%でした。

「ない」と回答した方の割合が最も多かったのは「正規職員（公的機関）」で87.8%、次いで、「正規職員（300人以下の事業所）」で86.7%でした。

図8 - 3 職場でのセクシュアル・ハラスメントの有無 / 勤務形態別



(注)5%未満数値: 全体(1.8 4.6)自由業・自営業・家族従業員(2.5)正規職員(従業員300人以上の事業所)(0.4 0.9)正規職員(従業員300人以下の事業所)(- 2.2)正規職員(公的機関)(- 2.0)臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等(3.3 2.6)その他(-)

問9 - 1 <セクシュアル・ハラスメントの内容>

問8で、「1.ある」と回答した方にお聞きします。

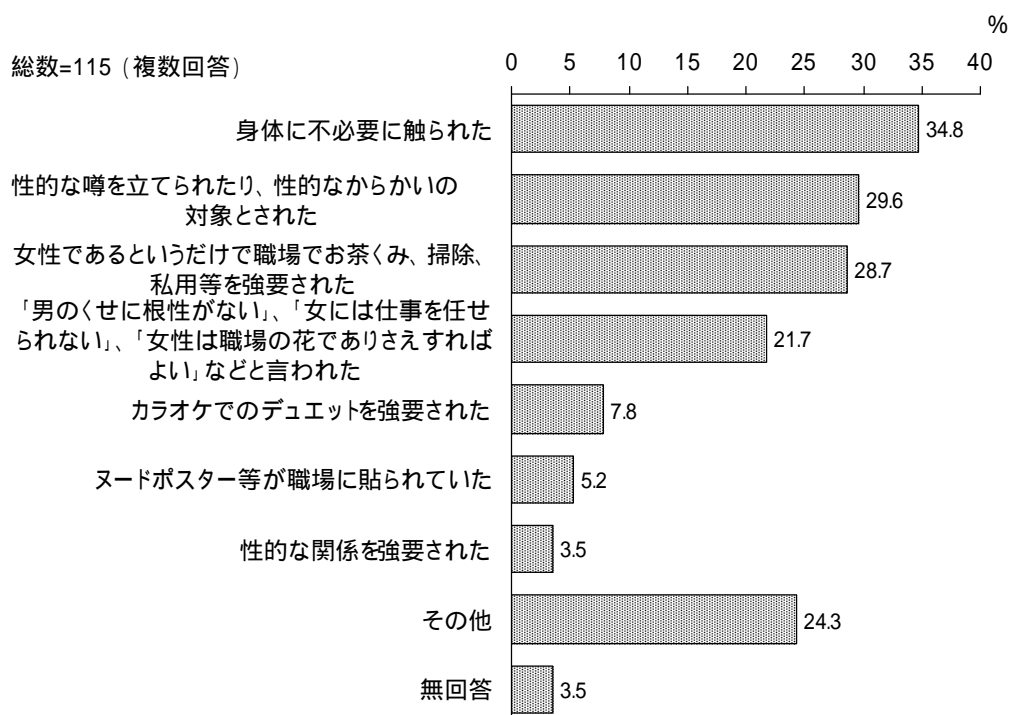
具体的には、どのようなセクシュアル・ハラスメントを受けましたか。

(当てはまるものすべてに)

1. 性的な噂を立てられたり、性的なからかいの対象とされた
2. 「男のくせに根性がない」、「女には仕事を任せられない」、「女性は職場の花でありさえすればよい」などと言われた
3. ヌードポスター等が職場に貼られていた
4. 身体に不必要に触られた
5. 女性であるというだけで職場でお茶くみ、掃除、私用等を強要された
6. 性的な関係を強要された
7. カラオケでのデュエットを強要された
8. その他()

職場でのセクシュアル・ハラスメントの具体的な内容においては、「身体に不必要に触られた」と回答した方の割合が最も多く34.8%、次いで、「性的な噂を立てられたり、性的なからかいの対象とされた」と回答した方の割合が29.6%、以下、「女性であるというだけで職場でお茶くみ、掃除、使用等を強要された」と回答した方の割合が28.7%、「男のくせに根性がない」、「女には仕事を任せられない」、「女性は職場の花でありさえすればよい」などと言われた」と回答した方の割合が21.7%でした。

図9 - 1 - 1.職場でのセクシュアル・ハラスメントの具体的な内容

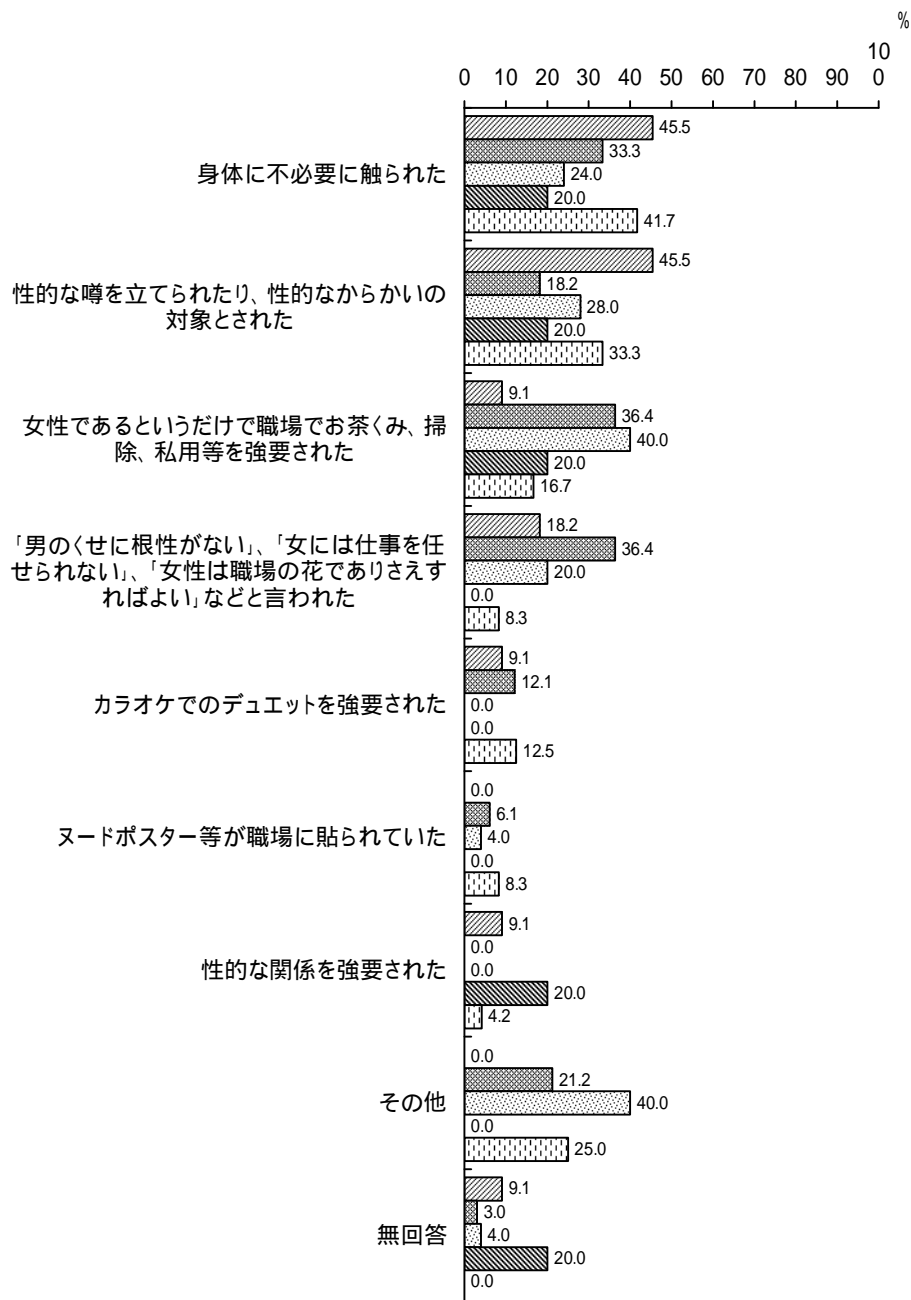


職場でのセクシュアル・ハラスメントの具体的な内容

項目名【複数回答】	回答数	構成比(%)
全体	115	100.0
性的な噂を立てられたり、性的なからかいの対象とされた	34	29.6
「男のくせに根性がない」、「女には仕事を任せられない」、「女性は職場の花でありさえすればよい」などと言われた	25	21.7
ヌードポスター等が職場に貼られていた	6	5.2
身体に不必要に触られた	40	34.8
女性であるというだけで職場でお茶くみ、掃除、私用等を強要された	33	28.7
性的な関係を強要された	4	3.5
カラオケでのデュエットを強要された	9	7.8
その他	28	24.3
無回答	4	3.5

職場でのセクシュアル・ハラスメントの具体的内容を、勤務形態別にみると、「自由業・自営業・家族従業員」では、「身体に不必要に触られた」と「性的な噂を立てられたり、性的なからかいの対象とされた」と回答した方の割合が最も多く、共に45.5%でした。「正規職員(300人以上の事業所)」では、「女性であるというだけで職場でお茶くみ、掃除、私用等を強要された」と「男のくせに根性がない」、「女には仕事は任せられない」、「女性は職場の花でありさえすればよい」などと言われた」と回答した方の割合が最も多く36.4%でした。「正規職員(300人以下の事業所)」では、「女性であるというだけで職場でお茶くみ、掃除、私用等を強要された」が最も多く40.0%でした。「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」では、「身体に不必要に触られた」と回答した方の割合が最も多く41.7%でした。

図9-1-2 職場でのセクシュアル・ハラスメントの内容/勤務形態別



■ 自由業・自営業・家族従業員
 ■ 正規職員(従業員300人以上の事業所)
 ■ 正規職員(従業員300人以下の事業所)
 ■ 臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等
 ■ 正規職員(公的機関)

職場でのセクシュアル・ハラスメントの内容 / 勤務形態別 【複数回答】

		全体	性的な噂を立てられたり、性的なからかいの対象とされた	「男のくせに根性が無い」、「女には仕事を任せられない」、「女性は職場の花でありさえすればよい」などと言われた	ヌードポスター等が職場に貼られていた	身体に不必要に触られた	女性であるというだけで職場でお茶くみ、掃除、私用等を強要された
全体		101 100.0	28 27.7	22 21.8	5 5.0	35 34.7	28 27.7
勤務形態	自由業・自営業・家族従業員	11 100.0	5 45.5	2 18.2	-	5 45.5	1 9.1
	正規職員（従業員300人以上の事業所）	33 100.0	6 18.2	12 36.4	2 6.1	11 33.3	12 36.4
	正規職員（従業員300人以下の事業所）	25 100.0	7 28.0	5 20.0	1 4.0	6 24.0	10 40.0
	正規職員（公的機関）	5 100.0	1 20.0	-	-	1 20.0	1 20.0
	臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等	24 100.0	8 33.3	2 8.3	2 8.3	10 41.7	4 16.7
	その他	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	2 100.0	-
	無回答	1 100.0	-	-	-	-	-

		全体	性的な関係を強要された	カラオケでのデュエットを強要された	その他	無回答
全体		101 100.0	4 4.0	8 7.9	23 22.8	4 4.0
勤務形態	自由業・自営業・家族従業員	11 100.0	1 9.1	1 9.1	-	1 9.1
	正規職員（従業員300人以上の事業所）	33 100.0	-	4 12.1	7 21.2	1 3.0
	正規職員（従業員300人以下の事業所）	25 100.0	-	-	10 40.0	1 4.0
	正規職員（公的機関）	5 100.0	1 20.0	-	-	1 20.0
	臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等	24 100.0	1 4.2	3 12.5	6 25.0	-
	その他	2 100.0	-	-	-	-
	無回答	1 100.0	1 100.0	-	-	-

問9 - 2 <セクシュアル・ハラスメントを受けた際の相談の有無>

あなたがセクシュアル・ハラスメントを受けたとき、誰かに相談しましたか。

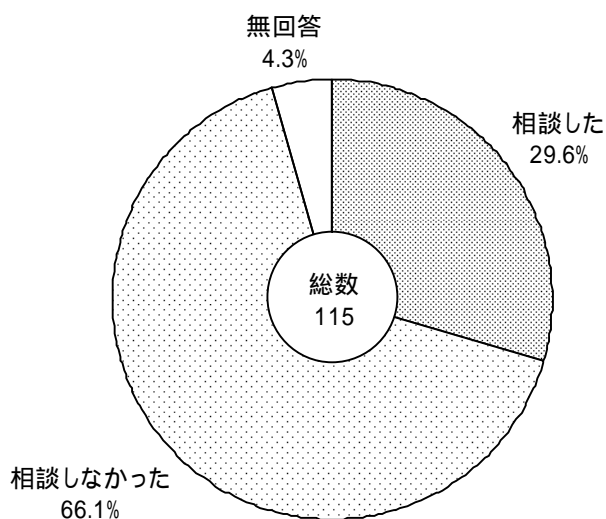
(ひとつだけに)

1. 相談した

2. 相談しなかった

職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた際の相談の有無については、「相談しなかった」と回答した方の割合が66.1%、「相談した」と回答した方の割合が29.6%、「無回答」が4.3%でした。

図9 - 2 - 1 職場でのセクシュアル・ハラスメントの相談の有無

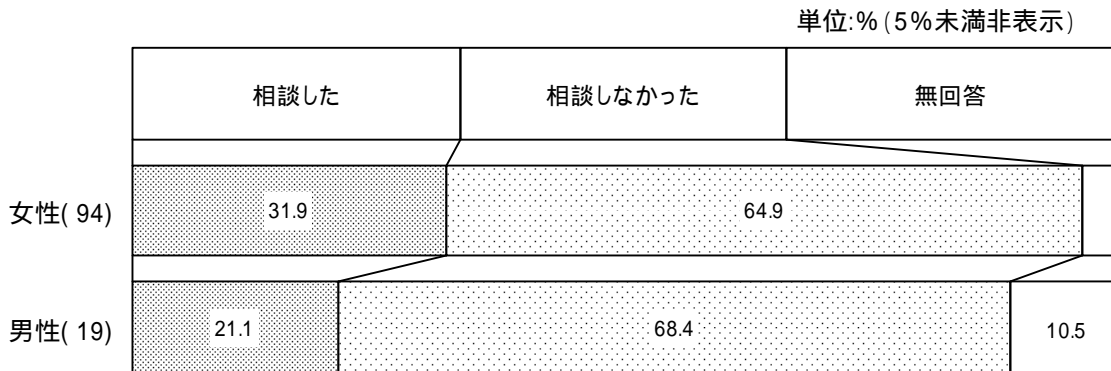


職場でのセクシュアル・ハラスメントの相談の有無

項目名	回答数	構成比 (%)
全体	115	100.0
相談した	34	29.6
相談しなかった	76	66.1
無回答	5	4.3

職場でのセクシュアル・ハラスメントの相談の有無について、性別にみると、女性では、「相談した」と回答した方の割合が31.9%、「相談しなかった」と回答した方の割合が64.9%でした。一方、男性では、「相談した」と回答した方の割合が21.1%、「相談しなかった」と回答した方の割合が68.4%でした。

図9 - 2 - 2 職場でのセクシュアル・ハラスメントの相談の有無 / 性別



(注)5%未満数値: 女性(3.2)

職場でのセクシュアル・ハラスメントの相談の有無

		全体	相談した	相談しなかった	無回答
全体		115 100.0	34 29.6	76 66.1	5 4.3
性別	女性	94 100.0	30 31.9	61 64.9	3 3.2
	男性	19 100.0	4 21.1	13 68.4	2 10.5
	無回答	2 100.0	-	2 100.0	-

問9 - 3 <セクシュアル・ハラスメントの具体的な相談相手>

問9 - 2で「1.相談した」と回答した方にお聞きします。

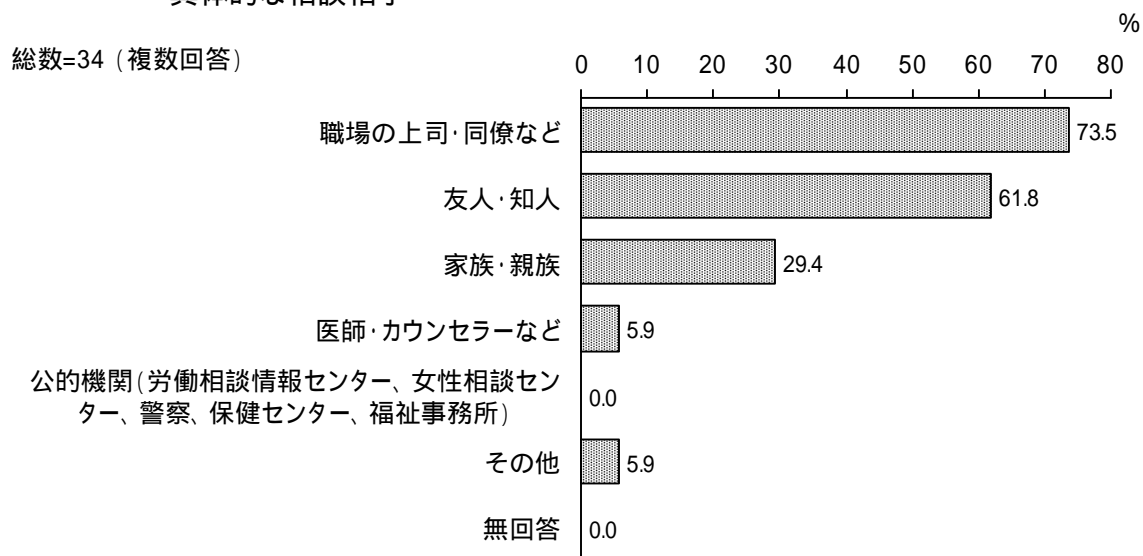
誰に相談をしましたか。

(当てはまるものすべてに)

1. 職場の上司・同僚など
2. 家族・親族
3. 友人・知人
4. 医師・カウンセラーなど
5. 公的機関(労働相談情報センター、女性相談センター、警察、保健センター、福祉事務所)
6. その他()

職場でのセクシュアル・ハラスメントの具体的な相談相手は、「職場の上司・同僚など」と回答した方の割合が最も多く73.5%、次いで、「友人・知人」と回答した方の割合が61.8%、「家族・親族」と回答した方の割合が29.4%でした。「公的機関(労働相談情報センター、女性相談センター、警察、保健センター、福祉事務所)」と回答した方はいませんでした。

図9 - 3 - 1 職場でのセクシュアル・ハラスメントの具体的な相談相手



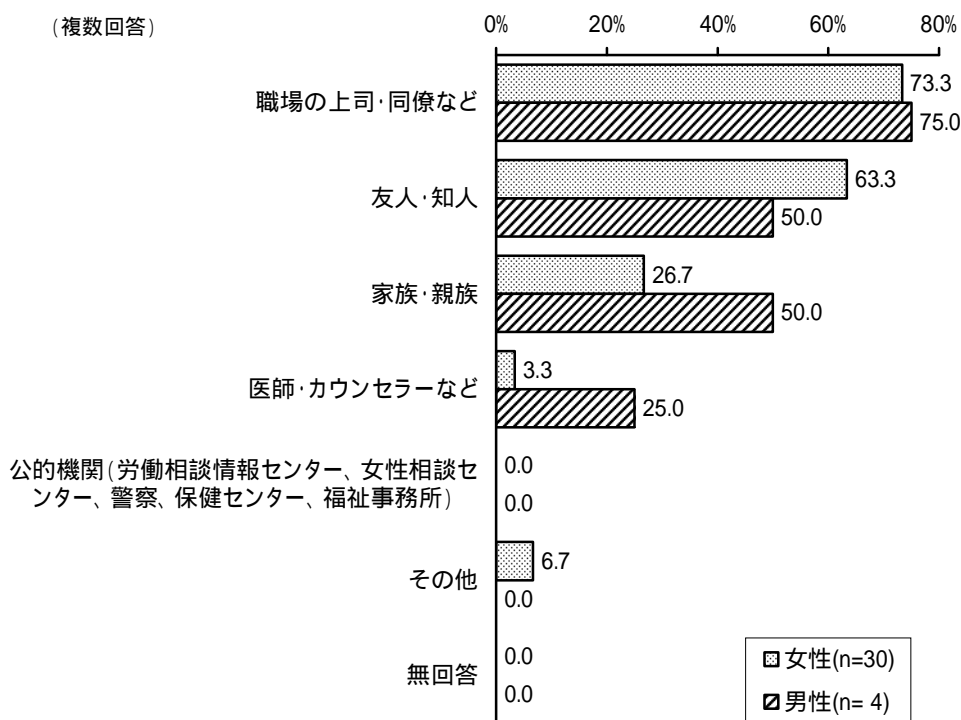
職場でのセクシュアル・ハラスメントの具体的な相談相手

項目名【複数回答】	回答数	構成比(%)
全体	34	100.0
職場の上司・同僚など	25	73.5
家族・親族	10	29.4
友人・知人	21	61.8
医師・カウンセラーなど	2	5.9
公的機関(労働相談情報センター、女性相談センター、警察、保健センター、福祉事務所)	-	-
その他	2	5.9
無回答	-	-

職場でのセクシュアル・ハラスメントの具体的な相談相手について、性別にみると、女性では、「職場の上司・同僚など」と回答した方の割合が最も多く、73.3%、次いで、「友人・知人」と回答した方の割合が63.3%でした。

一方、男性では、「職場の上司・同僚など」と回答した方の割合が最も多く、75.0%、次いで、「友人・知人」と「家族・親族」と回答した方の割合が共に50.0%でした。

図9 - 3 - 2 職場でのセクシュアル・ハラスメントの具体的な相談相手 / 性別



職場でのセクシュアル・ハラスメントの具体的な相談相手 【複数回答】

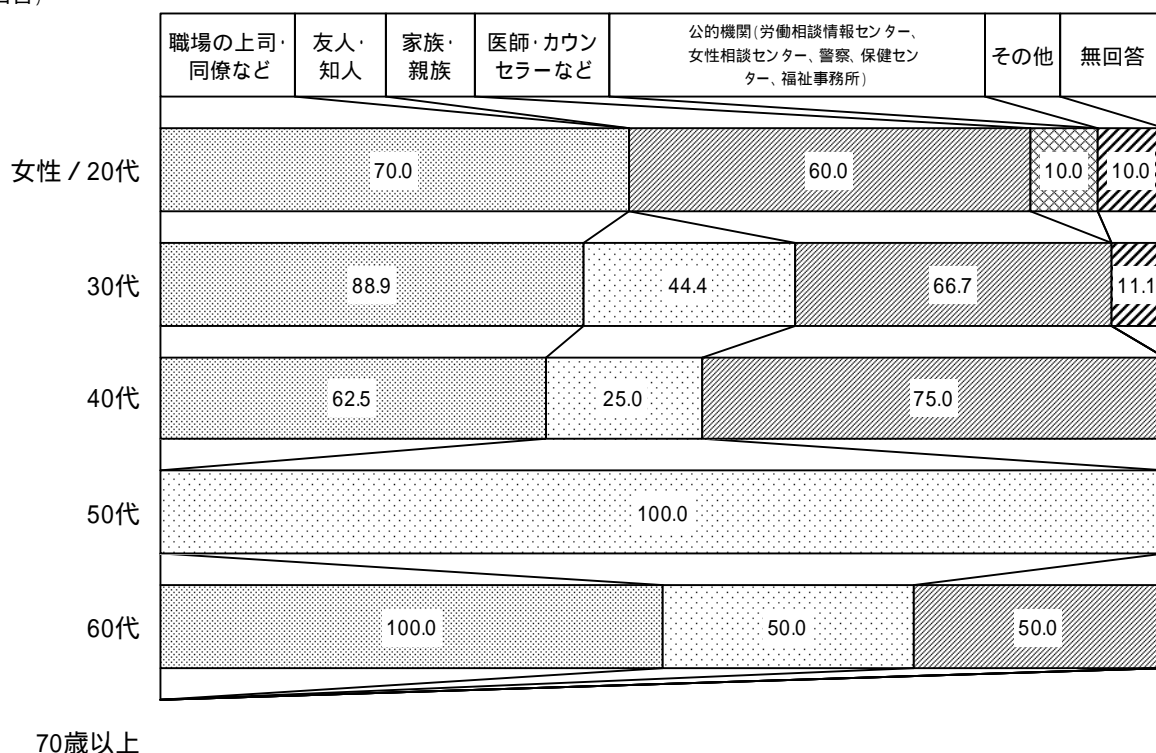
		全体	職場の上司・同僚など	家族・親族	友人・知人	医師・カウンセラーなど	公的機関(労働相談情報センター、女性相談センター、警察、保健センター、福祉事務所)	その他	無回答
全体		34 100.0	25 73.5	10 29.4	21 61.8	2 5.9	-	2 5.9	-
性別	女性	30 100.0	22 73.3	8 26.7	19 63.3	1 3.3	-	2 6.7	-
	男性	4 100.0	3 75.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	-	-	-
	無回答	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *

職場でのセクシュアル・ハラスメントの具体的な相談相手について、女性の回答を、性別・年代別にみると、20代・30代・60代では、「職場の上司・同僚など」と回答した方の割合が最も多く、40代では「家族・親族」と回答した方の割合が最も多くなっています。50代では、全ての回答者が「友人・知人」と回答しています。

図9-3-3 職場でのセクシュアル・ハラスメントの具体的な相談相手 / 性別・年代別

単位: % (5%未満非表示)

(複数回答)



(注)5%未満数値:女性 / 20代(0.0 0.0 0.0)30代(0.0 0.0 0.0)40代(0.0 0.0 0.0 0.0)50代(0.0 0.0 0.0 0.0 0.0)60代(0.0 0.0 0.0 0.0)70歳以上(回答なし)

問9 - 4 <セクシュアル・ハラスメントを相談しなかった理由>

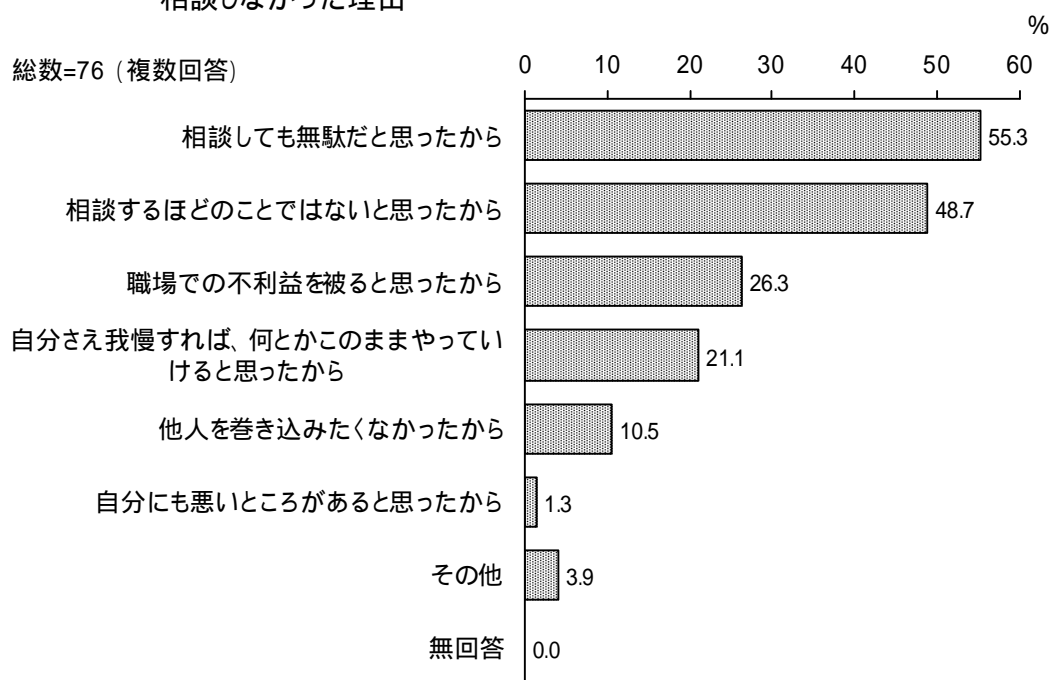
問9 - 2で「2.相談しなかった」と回答した方にお聞きします。

相談しなかった理由は何ですか。 (当てはまるものすべてに)

1. 職場での不利益を被ると思ったから
2. 相談しても無駄だと思ったから
3. 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから
4. 他人を巻き込みたくなかったから
5. 自分にも悪いところがあると思ったから
6. 相談するほどのことではないと思ったから
7. その他()

セクシュアル・ハラスメントを相談しなかった理由としては、「相談しても無駄だと思ったから」と回答した方の割合が最も多く55.3%、次いで、「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した方の割合が48.7%、「職場での不利益を被ると思ったから」と回答した方の割合が26.3%でした。

図9 - 4 - 1 職場でのセクシュアル・ハラスメントを相談しなかった理由



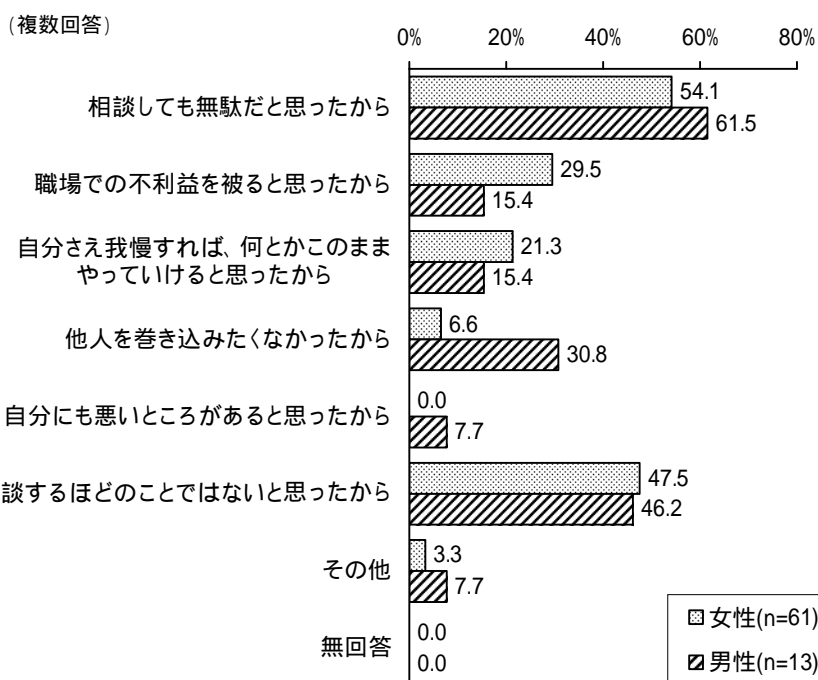
職場でのセクシュアル・ハラスメントを相談しなかった理由

項目名【複数回答】	回答数	構成比 (%)
全体	76	100.0
職場での不利益を被ると思ったから	20	26.3
相談しても無駄だと思ったから	42	55.3
自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから	16	21.1
他人を巻き込みたくなかったから	8	10.5
自分にも悪いところがあると思ったから	1	1.3
相談するほどのことではないと思ったから	37	48.7
その他	3	3.9
無回答	-	-

セクシュアル・ハラスメントを相談しなかった理由を、性別にみると、女性では、「相談しても無駄だと思ったから」と回答した方の割合が最も多く、54.1%、次いで、「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した方の割合が47.5%、「職場での不利益を被ると思ったから」と回答した方の割合が29.5%でした。

一方、男性では、「相談しても無駄だと思ったから」と回答した方の割合が最も多く、61.5%、次いで、「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した方の割合が46.2%、「他人を巻き込みたくなかったから」と回答した方の割合が30.8%の順でした。

図9 - 4 - 2 .職場でのセクシュアル・ハラスメントを相談しなかった理由 / 性別



職場でのセクシュアル・ハラスメントを相談しなかった理由 【複数回答】

		全体	職場での不利益を被ると思ったから	相談しても無駄だと思ったから	自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから	他人を巻き込みたくなかったから
全体		76 100.0	20 26.3	42 55.3	16 21.1	8 10.5
性別	女性	61 100.0	18 29.5	33 54.1	13 21.3	4 6.6
	男性	13 100.0	2 15.4	8 61.5	2 15.4	4 30.8
	無回答	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-

		全体	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他	無回答
全体		76 100.0	1 1.3	37 48.7	3 3.9	-
性別	女性	61 100.0	-	29 47.5	2 3.3	-
	男性	13 100.0	1 7.7	6 46.2	1 7.7	-
	無回答	2 100.0	-	2 100.0	-	-

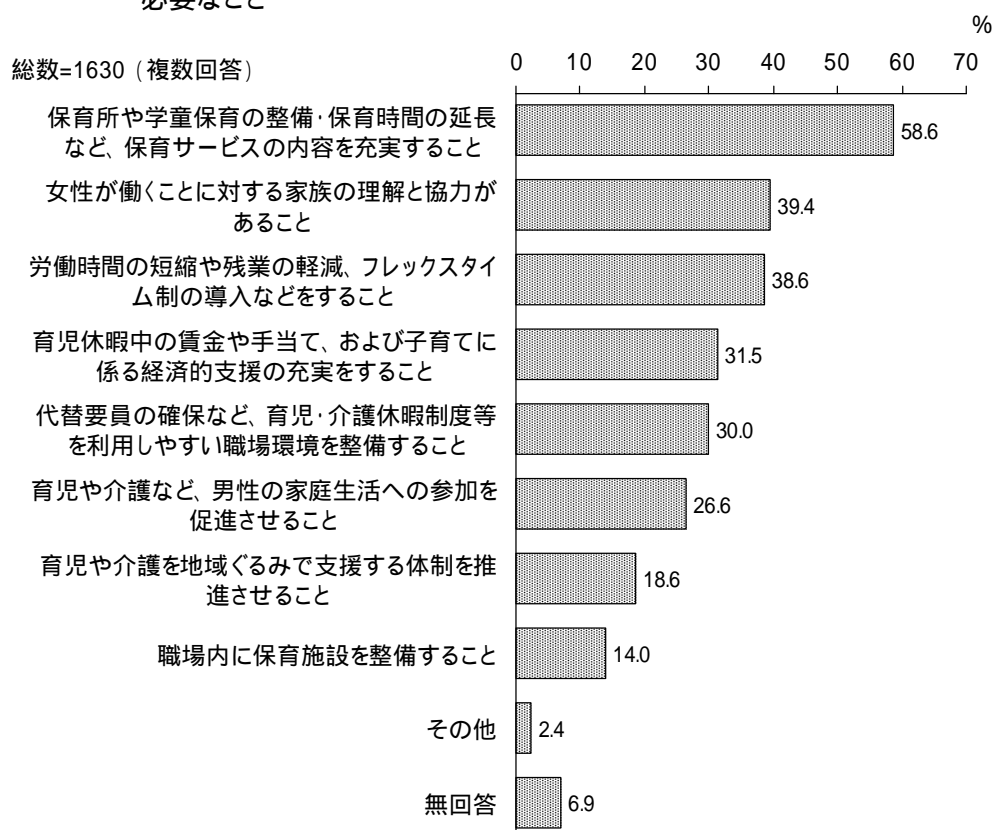
問10 <仕事と家庭生活を両立しやすい環境づくりに必要だと思うこと>

あなたは、仕事と家庭生活を両立しやすい環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに)

1. 保育所や学童保育の整備・保育時間の延長など、保育サービスの内容を充実すること
2. 代替要員の確保など、育児・介護休暇制度等を利用しやすい職場環境を整備すること
3. 労働時間の短縮や残業の軽減、フレックスタイム制の導入などを行うこと
4. 育児休暇中の賃金や手当、および子育てに係る経済的支援の充実を行うこと
5. 職場内に保育施設を整備すること
6. 育児や介護など、男性の家庭生活への参加を促進させること
7. 育児や介護を地域ぐるみで支援する体制を推進させること
8. 女性が働くことに対する家族の理解と協力があること
9. その他()

仕事と家庭生活を両立しやすい環境づくりに必要なこととしては、「保育所や学童保育の整備・保育時間の延長など、保育サービスの内容の充実を行うこと」と回答した方の割合が最も多く、58.6%、次いで、「女性が働くことに対する家族の理解と協力があること」と回答した方の割合が39.4%、以下、「労働時間の短縮や残業の軽減、フレックスタイム制の導入などを行うこと」と回答した方の割合が38.6%、「育児休暇中の賃金や手当、および子育てに係る経済的支援の充実を行うこと」と回答した方の割合が31.5%でした。

図10-1 仕事と家庭生活を両立しやすい環境づくりに必要なこと



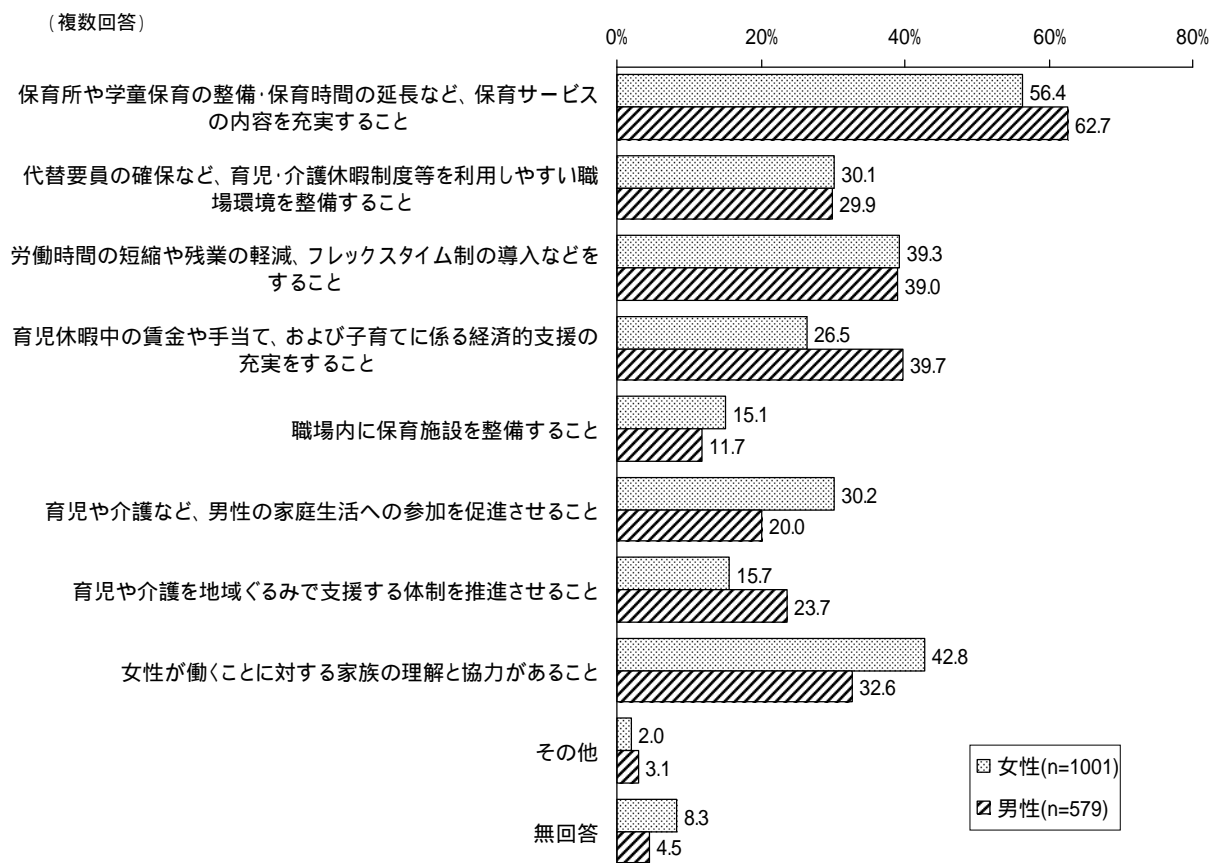
仕事と家庭生活を両立しやすい環境づくりに必要なこと

項目名【3つまでの複数回答】	回答数	構成比(%)
全体	1630	100.0
保育所や学童保育の整備・保育時間の延長など、 保育サービスの内容を充実すること	955	58.6
代替要員の確保など、育児・介護休暇制度等を利用しやすい 職場環境を整備すること	489	30.0
労働時間の短縮や残業の軽減、フレックスタイム制の 導入などを行うこと	629	38.6
育児休暇中の賃金や手当、および子育てに係る経済的支援の 充実をすること	513	31.5
職場内に保育施設を整備すること	228	14.0
育児や介護など、男性の家庭生活への参加を促進させること	433	26.6
育児や介護を地域ぐるみで支援する体制を推進させること	303	18.6
女性が働くことに対する家族の理解と協力があること	643	39.4
その他	39	2.4
無回答	112	6.9

仕事と家庭生活を両立しやすい環境づくりに必要なことを、性別にみると、女性においては、「保育所や学童保育の整備・保育時間の延長など、保育サービスの内容を充実すること」と回答した方の割合が最も多く、56.4%、次いで、「女性が働くことに対する家族の理解と協力があること」と回答した方の割合が42.8%でした。

一方、男性では、「保育所や学童保育の整備・保育時間の延長など、保育サービスの内容を充実すること」と回答した方の割合が最も多く、62.7%、次いで、「育児休暇中の賃金や手当て、および子育てに係る経済的支援の充実をすること」と回答した方の割合が39.7%でした。

図10-2 仕事と家庭生活を両立しやすい環境づくりのために必要なこと/性別



仕事と家庭生活を両立しやすい環境づくりに必要なこと 【3つまでの複数回答】

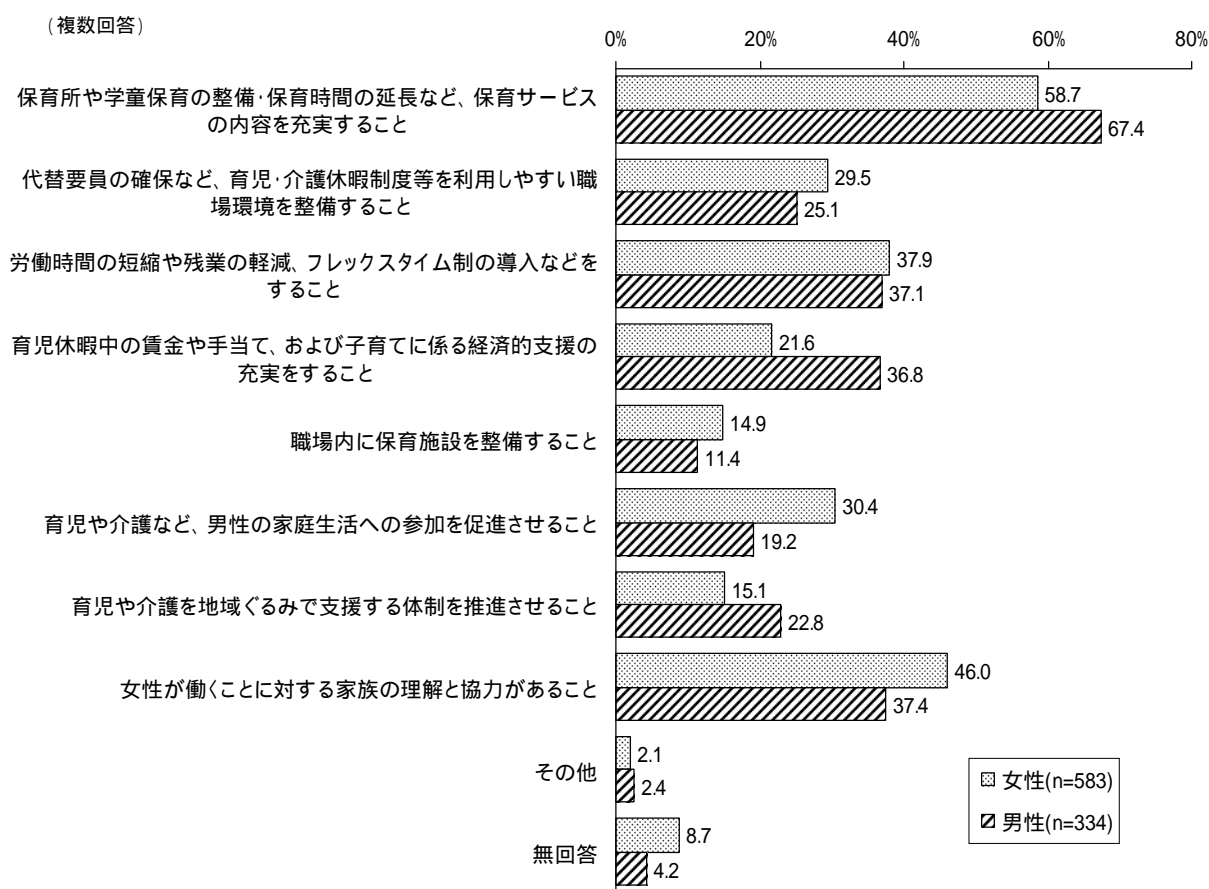
		全体	保育所や学童保育の整備・保育時間の延長など、保育サービスの内容を充実すること	代替要員の確保など、育児・介護休暇制度等を利用しやすい職場環境を整備すること	労働時間の短縮や残業の軽減、フレックスタイム制の導入などを行うこと	育児休暇中の賃金や手当て、および子育てに係る経済的支援の充実をすること	職場内に保育施設を整備すること
全体		1630 100.0	955 58.6	489 30.0	629 38.6	513 31.5	228 14.0
性別	女性	1001 100.0	565 56.4	301 30.1	393 39.3	265 26.5	151 15.1
	男性	579 100.0	363 62.7	173 29.9	226 39.0	230 39.7	58 11.7
	無回答	50 100.0	27 54.0	15 30.0	10 20.0	18 36.0	9 18.0

		全体	育児や介護など、男性の家庭生活への参加を促進させること	育児や介護を地域ぐるみで支援する体制を推進させること	女性が働くことに対する家族の理解と協力があること	その他	無回答
全体		1630 100.0	433 26.6	303 18.6	643 39.4	39 2.4	112 6.9
性別	女性	1001 100.0	302 30.2	157 15.7	428 42.8	20 2.0	83 8.3
	男性	579 100.0	116 20.0	137 23.7	189 32.6	18 3.1	26 4.5
	無回答	50 100.0	15 30.0	9 18.3	26 52.0	1 2.0	3 6.0

仕事と家庭生活を両立しやすい環境づくりに必要なことを、子どもがいる方について、性別にみると、女性においては、「保育所や学童保育の整備・保育時間の延長など、保育サービスの内容を充実すること」と回答した方の割合が最も多く、58.7%、次いで、「女性が働くことに対する家族の理解と協力があること」と回答した方の割合が46.0%でした。

一方、男性では、「保育所や学童保育の整備・保育時間の延長など、保育サービスの内容を充実すること」と回答した方の割合が最も多く、67.4%、次いで、「女性が働くことに対する家族の理解と協力があること」と回答した方の割合が37.4%でした。

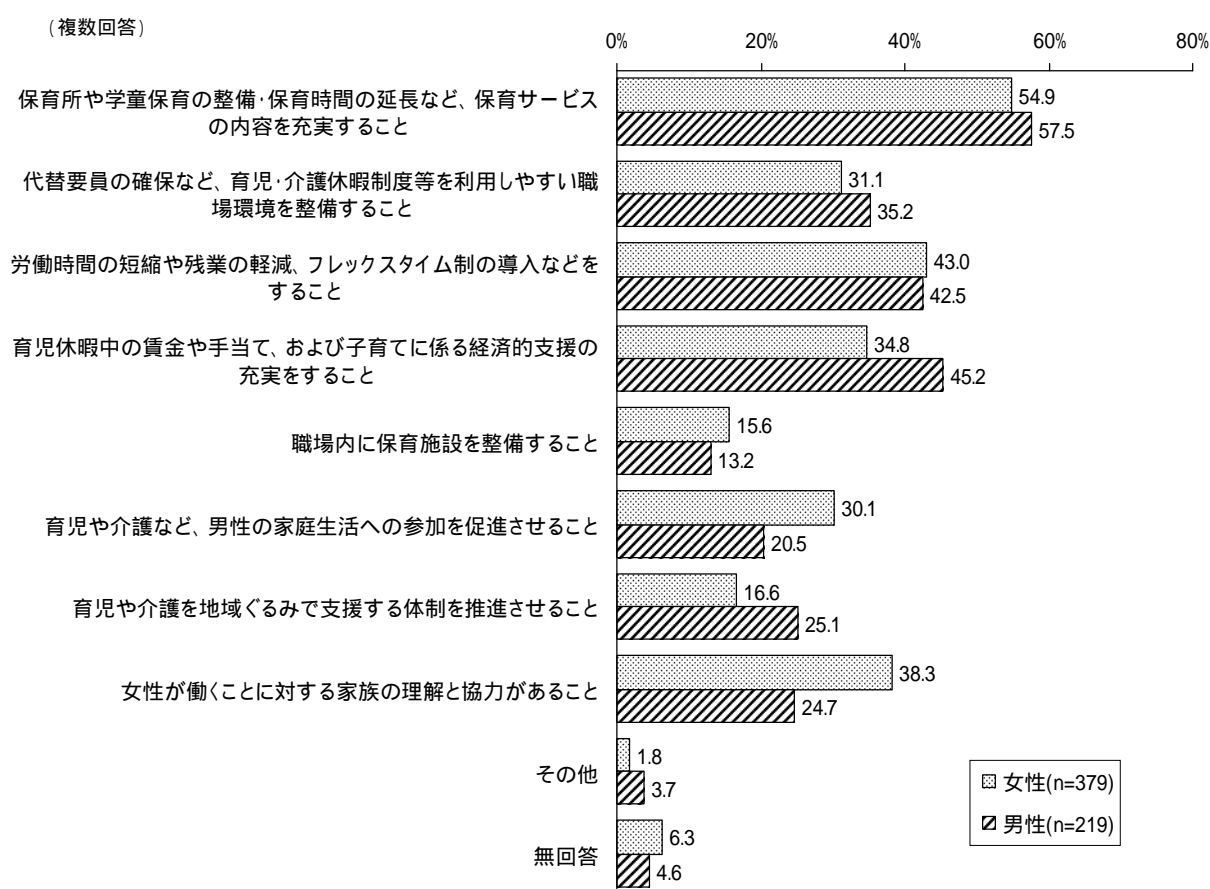
図10-3 仕事と家庭生活を両立しやすい環境づくりのために必要なこと
/ 子どもがいる



仕事と家庭生活を両立しやすい環境づくりに必要なことを、子どもがいない方について、性別にみると、女性においては、「保育所や学童保育の整備・保育時間の延長など、保育サービスの内容を充実すること」と回答した方の割合が最も多く、54.9%、次いで、「労働時間の短縮や残業の軽減、フレックスタイム制の導入などをする」と回答した方の割合が43.0%でした。

一方、男性では、「保育所や学童保育の整備・保育時間の延長など、保育サービスの内容を充実すること」と回答した方の割合が最も多く、57.5%、次いで、「育児休暇中の賃金や手当て、および子育てに係る経済的支援の充実をすること」と回答した方の割合が45.2%でした。

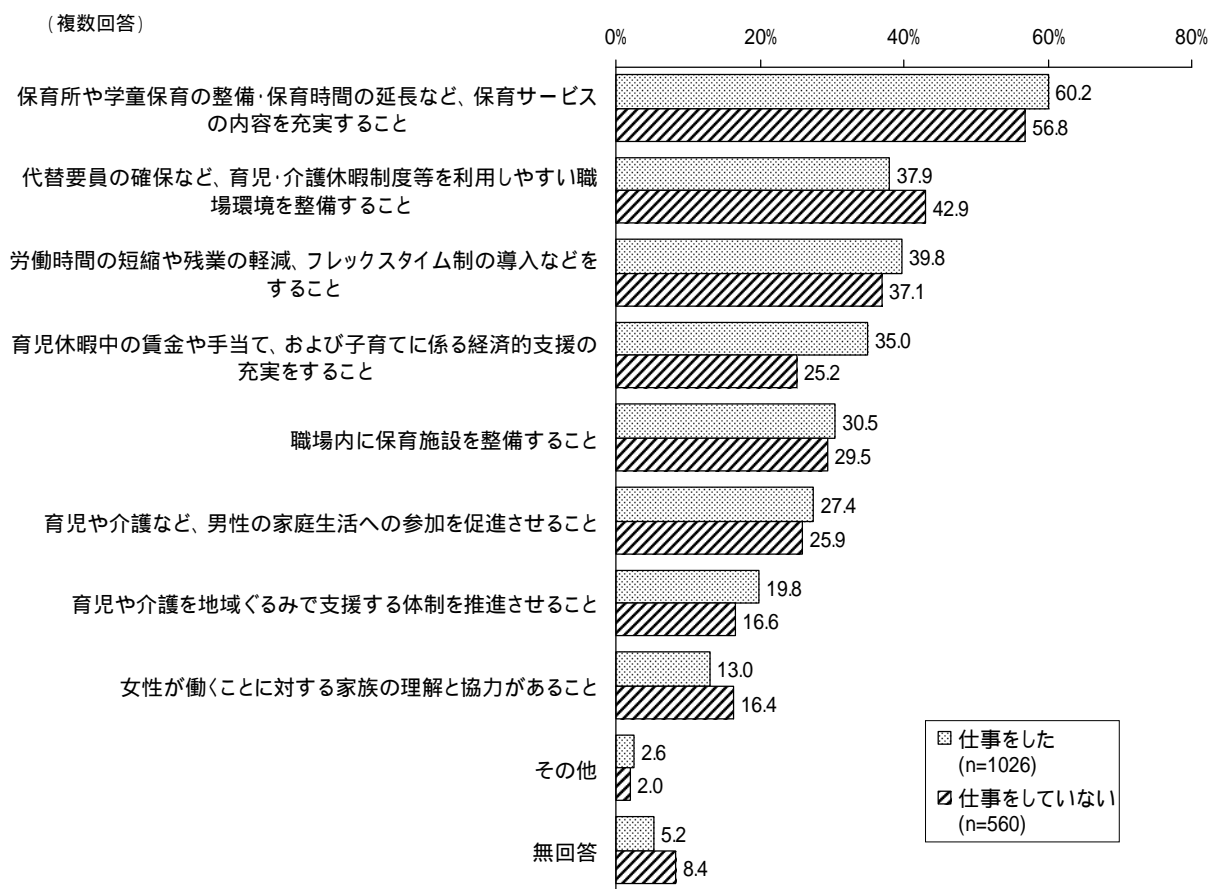
図10-4 仕事と家庭生活を両立しやすい環境づくりのために必要なこと
/ 子どもがいない



仕事と家庭生活を両立しやすい環境づくりに必要なことを、仕事の有無別にみると、仕事をした(有職)と回答した方では、「保育所や学童保育の整備・保育時間の延長など、保育サービスの内容を充実すること」と回答した方の割合が最も多く、60.2%、次いで、「労働時間の短縮や残業の軽減、フレックスタイム制の導入などをする」と回答した方の割合が39.8%でした。

一方、仕事をしていない(無職)と回答した方では、「保育所や学童保育の整備・保育時間の延長など、保育サービスの内容を充実すること」と回答した方の割合が最も多く、56.8%、次いで、「代替要員の確保など、育児・介護休暇制度等を利用しやすい職場環境を整備すること」と回答した方の割合が42.9%でした。

図10-5 仕事と家庭生活を両立しやすい環境づくりのために必要なこと / 仕事の有無別



問 1 1 <女性の働き方について>

女性の働き方についてお聞きします。未婚の方は結婚したと仮定して、次の(ア)(イ)についてお答えください。

(ア) あなた自身の働き方は、次の中のどれにあたると思いますか。男性の方は、配偶者のことについてお答えください。(ひとつだけに)

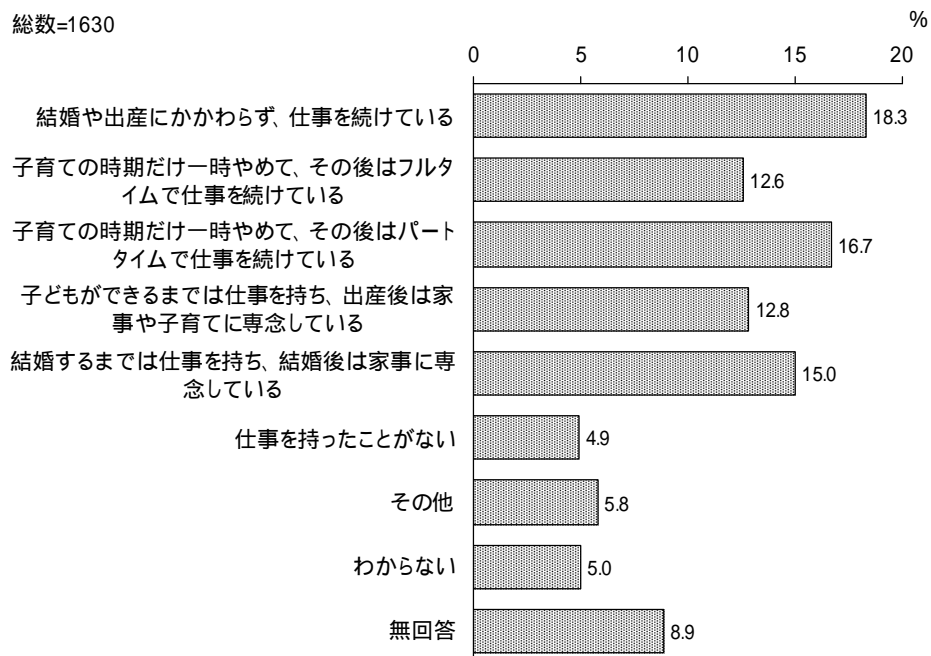
1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている
2. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続けている
3. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けている
4. 子どもができるまでは仕事を持ち、出産後は家事や子育てに専念している
5. 結婚するまでは仕事を持ち、結婚後は家事に専念している
6. 仕事を持ったことがない
7. その他()
8. わからない

(イ) 一般的に、女性の働き方について、あなたが望ましいと思うものはどれですか。(ひとつだけに)

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている
2. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続けている
3. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けている
4. 子どもができるまでは仕事を持ち、出産後は家事や子育てに専念している
5. 結婚するまでは仕事を持ち、結婚後は家事に専念している
6. 仕事を持ったことがない
7. その他()
8. わからない

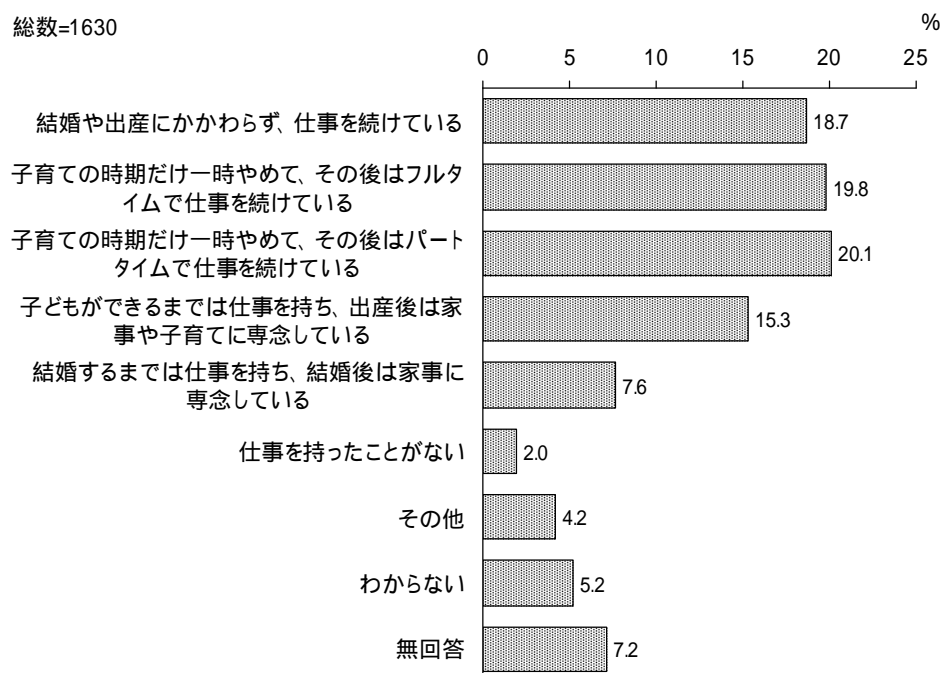
女性の働き方について、自分自身の（男性の場合は配偶者の）働き方としては、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」と回答した方の割合が最も多く18.3%、次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けている」と回答した方の割合が16.7%でした。

図11-1 女性の働き方について(ア)自分自身の働き方



女性の働き方について、望ましい女性の働き方としては、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けている」と回答した方の割合が最も多く20.1%、次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで働いている」と回答した方の割合が19.8%でした。

図11-2 女性の働き方について(イ)望ましい女性の働き方



女性の働き方について（ア）自分自身の働き方

項目名	回答数	構成比（％）
全体	1630	100.0
結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている	299	18.3
子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続けている	205	12.6
子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けている	272	16.7
子どもができるまでは仕事をもち、出産後は家事や子育てに専念している	209	12.8
結婚するまでは仕事をもち、結婚後は家事に専念している	244	15.0
仕事を持ったことがない	80	4.9
その他	95	5.8
わからない	81	5.0
無回答	145	8.9

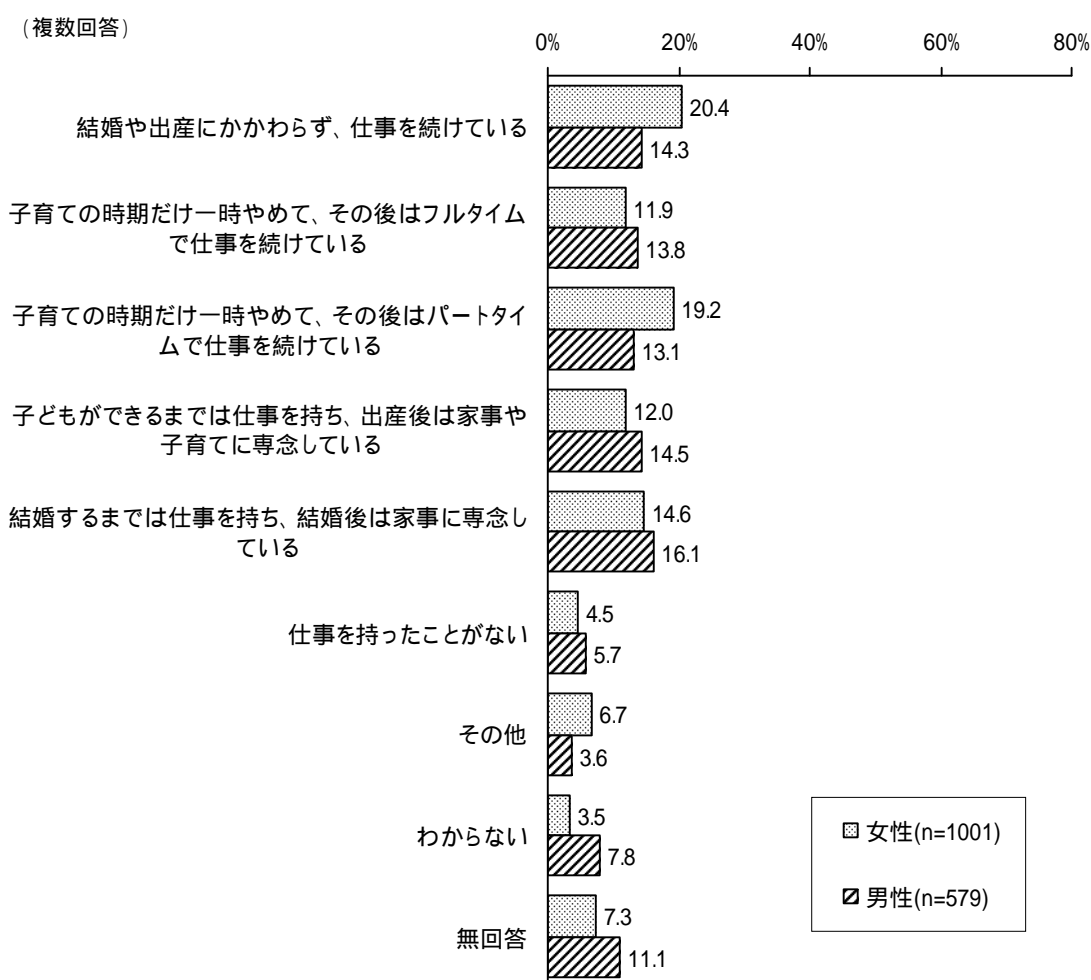
女性の働き方について（イ）望ましい女性の働き方

項目名	回答数	構成比（％）
全体	1630	100.0
結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている	304	18.7
子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続けている	322	19.8
子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けている	328	20.1
子どもができるまでは仕事をもち、出産後は家事や子育てに専念している	250	15.3
結婚するまでは仕事をもち、結婚後は家事に専念している	124	7.6
仕事を持ったことがない	32	2.0
その他	68	4.2
わからない	85	5.2
無回答	117	7.2

女性の働き方についての調査結果を、性別にみると、まず、自分自身の働き方について、女性では、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」と回答した方の割合が最も多く、20.4%、次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けている」と回答した方の割合が19.2%でした。

一方、男性では、「結婚するまでは仕事をもち、結婚後は家事に専念している」と回答した方の割合が16.1%、次いで、「子どもができるまでは仕事をもち、出産後は家事や子育てに専念している」と回答した方の割合が14.5%でした。

図11-3 女性の働き方について(ア)自分自身の働き方/性別



女性の働き方について（ア）自分自身の働き方

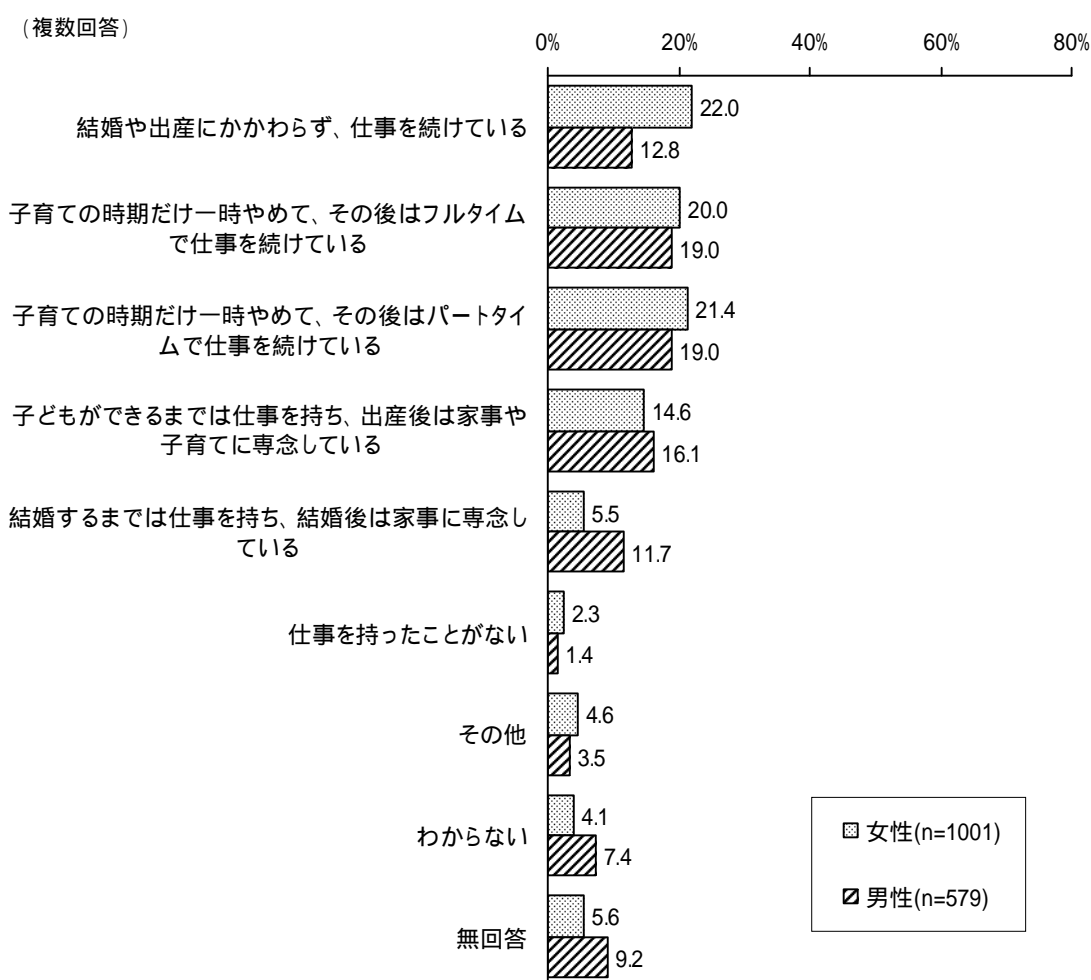
	全体	結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている	子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続けている	子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けている	子どもができるまでは仕事をもち、出産後は家事や子育てに専念している	結婚するまでは仕事をもち、結婚後は家事に専念している	
全体	1630 100.0	299 18.3	205 12.6	272 16.7	209 12.8	244 15.0	
性別	女性	1001 100.0	204 20.4	119 11.9	192 19.2	120 12.0	146 14.6
	男性	579 100.0	83 14.3	80 13.8	76 13.1	84 14.5	93 16.1
	無回答	50 100.0	12 24.0	6 12.0	4 8.0	5 10.0	5 10.0

	全体	仕事を持ったことがない	その他	わからない	無回答	
全体	1630 100.0	80 4.9	95 5.8	81 5.0	145 8.9	
性別	女性	1001 100.0	45 4.5	67 6.7	35 3.5	73 7.3
	男性	579 100.0	33 5.7	21 3.6	45 7.8	64 11.1
	無回答	50 100.0	2 4.0	7 14.0	1 2.0	8 16.0

女性の働き方についての調査結果を、性別にみると、望ましい女性の働き方について、女性では、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」と回答した方の割合が最も多く22.0%、次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けている」と回答した方の割合が21.4%でした。

一方、男性では、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続けている」と「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けている」と回答した方の割合が最も多く、共に19.0%でした。

図11-4 女性の働き方について(イ)望ましい女性の働き方 / 性別



女性の働き方について（イ）望ましい女性の働き方

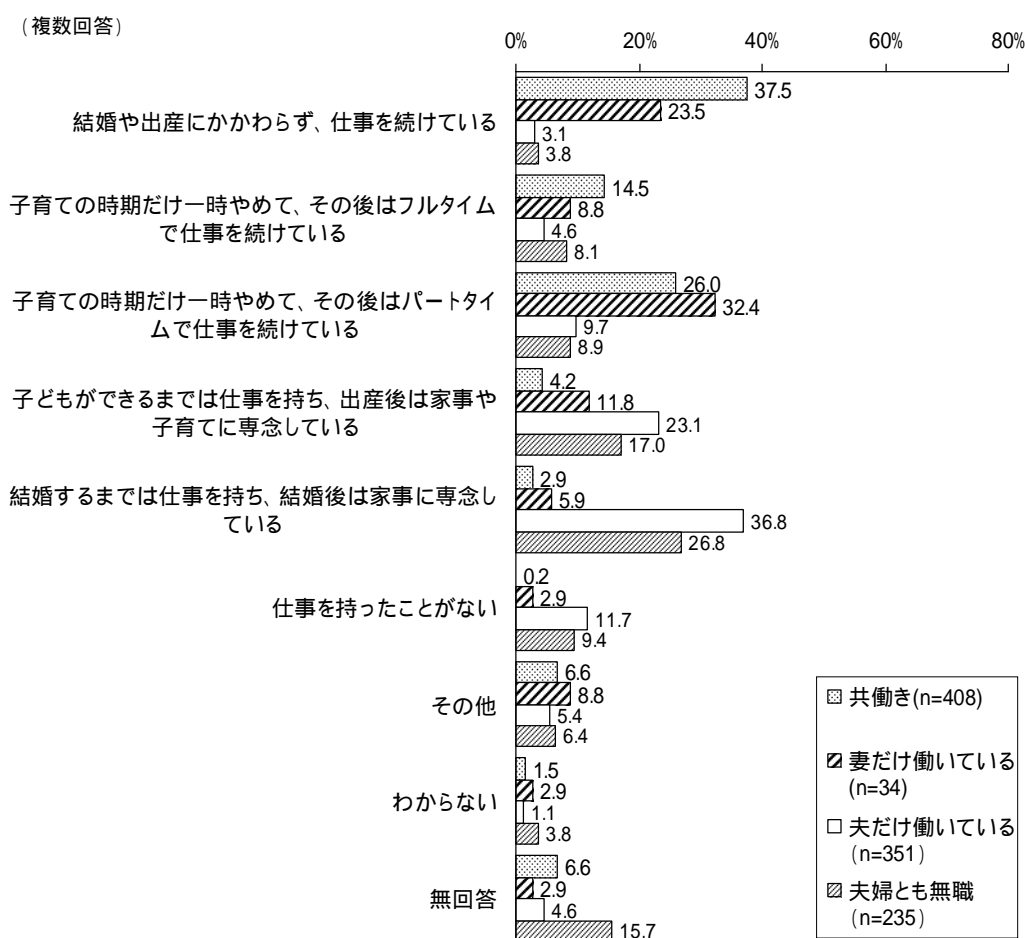
		全体	結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている	子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続けている	子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けている	子どもができるまでは仕事を持ち、出産後は家事や子育てに専念している	結婚するまでは仕事を持ち、結婚後は家事に専念している
全体		1630 100.0	304 18.7	322 19.8	328 20.1	250 15.3	124 7.6
性別	女性	1001 100.0	220 22.0	200 20.0	214 21.4	146 14.6	55 5.5
	男性	579 100.0	74 12.8	110 19.0	110 19.0	93 16.1	68 11.7
	無回答	50 100.0	10 20.0	12 24.0	4 8.0	11 22.0	1 2.0

		全体	仕事を持ったことがない	その他	わからない	無回答
全体		1630 100.0	32 2.0	68 4.2	85 5.2	117 7.2
性別	女性	1001 100.0	23 2.3	46 4.6	41 4.1	56 5.6
	男性	579 100.0	8 1.4	20 3.5	43 7.4	53 9.2
	無回答	50 100.0	1 2.0	2 4.0	1 2.0	8 16.0

女性の自分自身の（男性の場合は配偶者の）働き方について、世帯の働き方別にみると、共働き世帯では、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」と回答した方の割合が最も多く、37.5%、次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けている」と回答した方の割合が26.0%でした。

一方、夫だけが働いている世帯では、「結婚をするまでは仕事をもち、結婚後は家事に専念している」と回答した方の割合が最も多く、36.8%、次いで、「子どもができるまでは仕事をもち、出産後は家事や子育てに専念している」と回答した方の割合が23.1%でした。

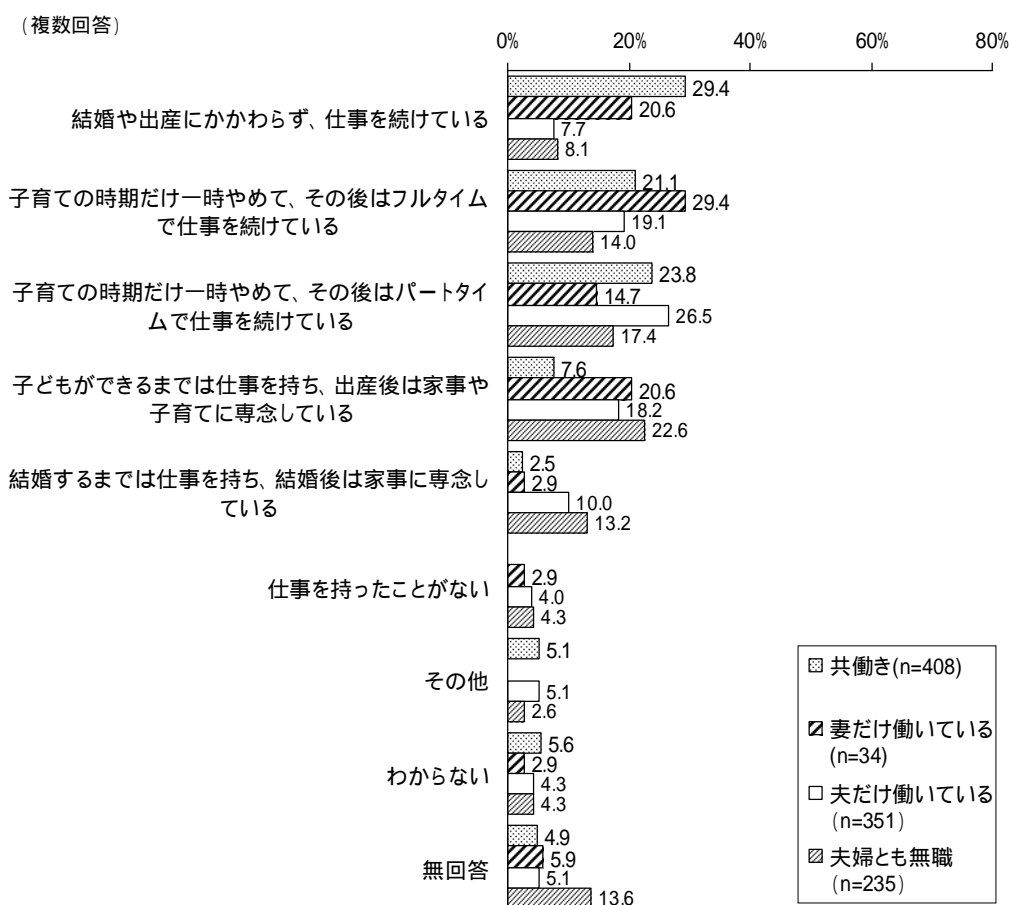
図11-5 女性の働き方について(ア)自分自身の働き方 / 世帯の働き方別



望ましい女性の働き方について、世帯の働き方別にみると、共働き世帯では、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」と回答した方の割合が最も多く、29.4%、次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をしている」と回答した方の割合が23.8%でした。

一方、夫だけが働いている世帯では、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をしている」と回答した方の割合が最も多く、26.5%、次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をしている」と回答した方の割合が19.1%でした。

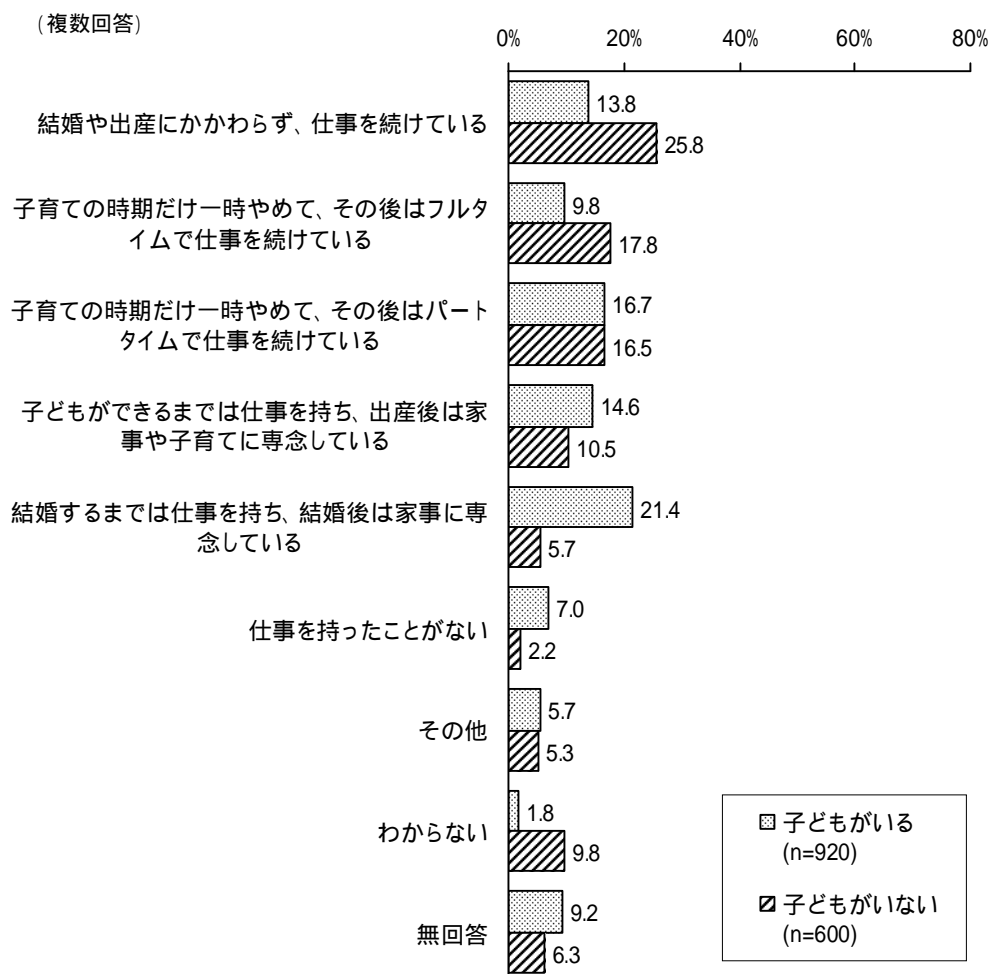
図11-6 女性の働き方について(イ)望ましい女性の働き方 / 世帯の働き方別



女性の自分自身の（男性の場合は配偶者の）働き方について、子どもの有無別にみると、子どもがいる方では、「結婚するまでは仕事を持ち、結婚後は家事に専念している」と回答した方の割合が最も多く、21.4%、次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をしている」と回答した方の割合が16.7%でした。

一方、子どもがいない方では、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」と回答した方の割合が最も多く、25.8%、次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をしている」と回答した方の割合が17.8%でした。

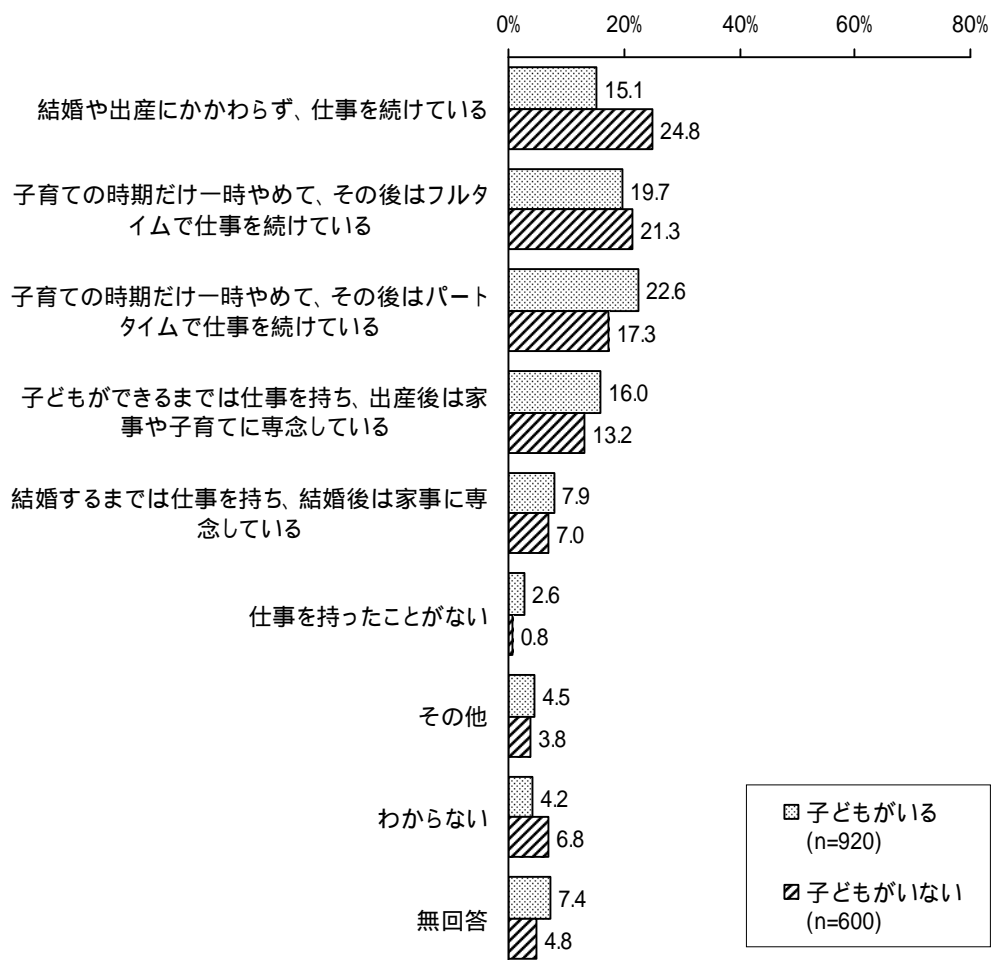
図11-7 女性の働き方について(ア)自分自身の働き方 / 子どもの有無別



望ましい女性の働き方について、子どもの有無別にみると、子どもがいる方では、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をしている」と回答した方の割合が最も多く、22.6%、次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をしている」と回答した方の割合が19.7%でした。

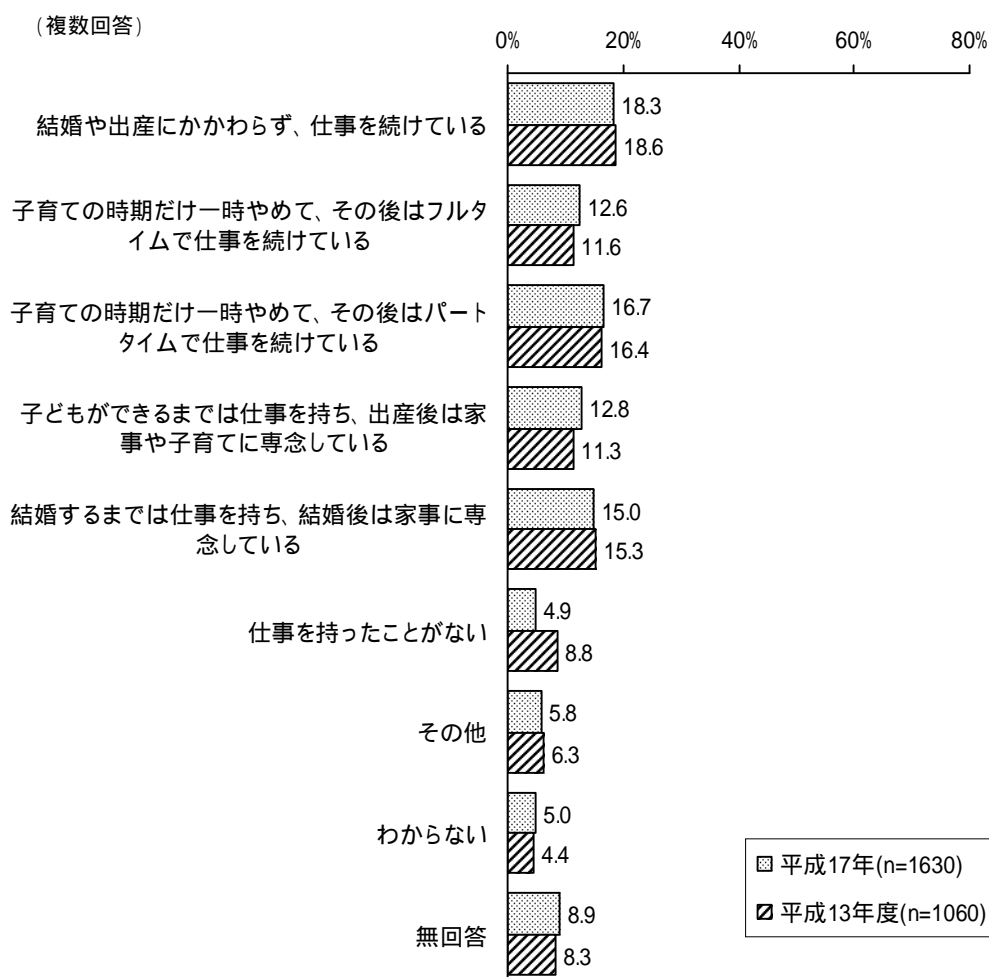
一方、子どもがいない方では、「結婚や出産にかかわらず、仕事をしている」と回答した方の割合が最も多く、24.8%、次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をしている」と回答した方の割合が21.3%でした。

図11-8 女性の働き方について(イ)望ましい女性の働き方 / 子どもの有無別



女性の働き方についての調査結果を、前回調査と比較すると、まず、女性の自分自身の（男性の場合は配偶者の）働き方については、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」が0.3%の減少、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続けている」が1.0%の増加、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けている」が0.3%の増加、「子どもができるまでは仕事を持ち、出産後は家事や子育てに専念している」が1.5%の増加、「結婚するまでは仕事を持ち、結婚後は家事に専念している」が0.3%の減少、「仕事を持ったことがない」が3.9%の減少でした。

図11-9 女性の働き方について(ア)自身の働き方 / 前回調査との比較



女性の働き方についての調査結果を、前回調査と比較すると、望ましい女性の働き方については、「子育ての時期は一時だけやめて、その後はフルタイムで仕事を続けている」が3.0%の減少、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」が2.7%の増加、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けている」が2.1%の増加、「仕事を持ったことがない」が1.8%の増加、「子どもができるまでは仕事をもち、出産後は家事や子育てに専念している」が0.7%の増加でした。

図11-10 女性の働き方について(イ)望ましい女性の働き方 / 前回調査との比較

